芦屋町コミュニティ活動状況調査
結果報告書

令和７年３月

福岡県　芦屋町

目　次

Ⅰ　調査の概要 1

１．調査の目的 1

２．調査の概要 1

３．報告書の見方 2

Ⅱ　調査結果 3

１．調査対象者について 3

２．町の暮らしやすさについて 10

３．町の取り組みに対する満足度・重要度について 18

４．その他、まちの重点的な取り組みなどについて 26

５．今後の芦屋町について 64

Ⅲ　調査結果の経年比較分析（平成 26 年度～令和 6 年度） 67

１．調査票回収状況 67

２．満足度と重要度の経年比較による分析 68

３．資料編 82

Ⅰ　調査の概要

1. 調査の目的

現行計画である第６次芦屋町総合振興計画に対する住民の評価や、今後のまちづくりに対する意向などを把握し、今後の取り組みに資することを目的に実施しました。

2. 調査の概要

調査地域　：　芦屋町全域
調査対象者　：　芦屋町在住の 18 歳以上 2,000 名を無作為抽出
調査期間　：　令和６年１１月
調査方法　：　郵送による配布
　　郵送、またはインターネットによる回収

配布数（Ａ）	2,000
回収票数（Ｂ）	723
郵送	545
インターネット	178
回収率（Ｂ／Ａ）	36.2%
郵送	27.3%
インターネット	8.9%

前回からの変更点：設問に関わる変更点

①問１４-１の選択肢を追加（４.ハザードマップの確認、７.非常時用備蓄品（食料、飲料水等）の準備を追加）

②問１４-１の選択肢を一部変更（６.「防災用品」→「防災用品（土のう、家具の転倒防止グッズ等)」に一部変更）

③問２６～２７にデジタル化の取り組みについての設問を新設

④問２８の選択肢を追加（５. 低所得世帯への支援事業（給付金の受給）を追加）

3. 報告書の見方

●回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第２位で四捨五入したものです。このため、単数回答（複数の選択肢から１つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が 100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても同様です。

●複数回答（複数の選択肢から２つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。このため、合計が 100.0%を超える場合があります。

●図表中において「無回答」とあるものは、回答が示されていないものです。

●図表中の「N」は、集計対象者総数、「ｎ」は、回答者限定設問の限定条件に該当する人を表しています。

●本文中の設問の選択肢について、長い文は簡略化している場合があります。

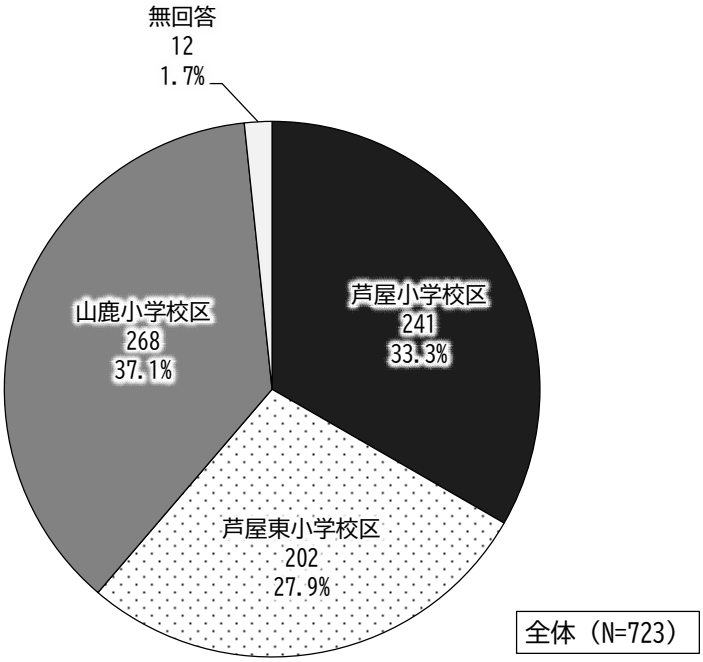
●この他、個別に参照事項がある場合は、本報告書の該当箇所に適宜掲載しています。

II　調査結果

1. 調査対象者について

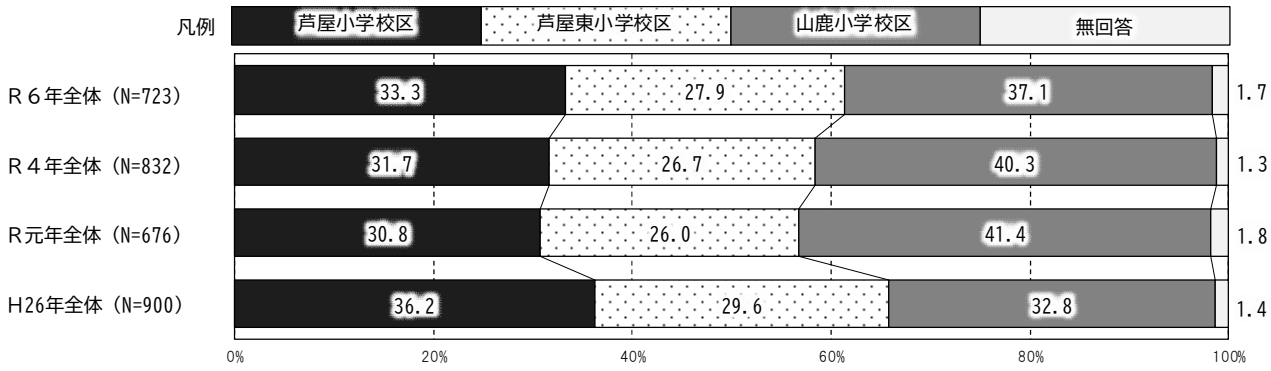
１．小学校区別構成比（問１）

対象者の小学校区別構成比は、芦屋小学校区が 33.3%、芦屋東小学校区が 27.9%、山鹿小学校区が 37.1%となっています。



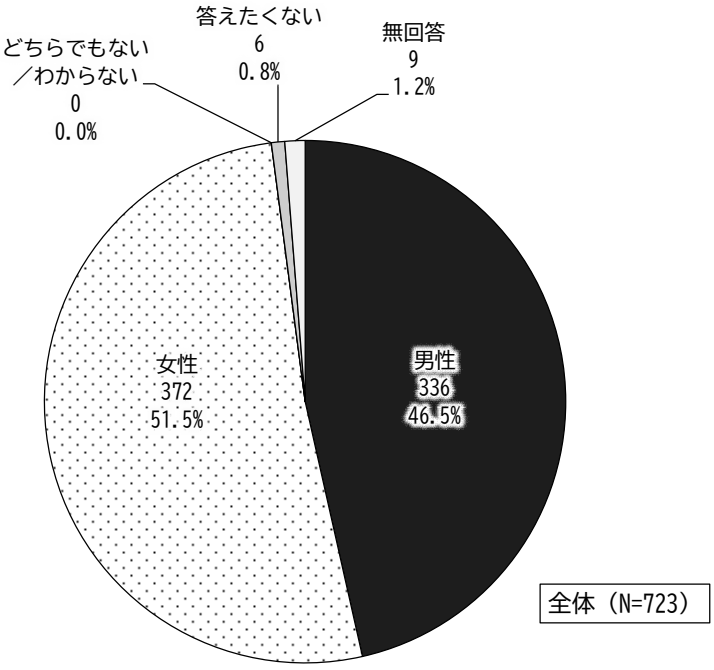
■過年度比較

過年度で比較すると、令和４年度調査よりも芦屋小学校区は 1.6 ポイント、芦屋東小学校区は 1.2 ポイント上昇していますが、山鹿小学校区では 3.2 ポイント低下しています。



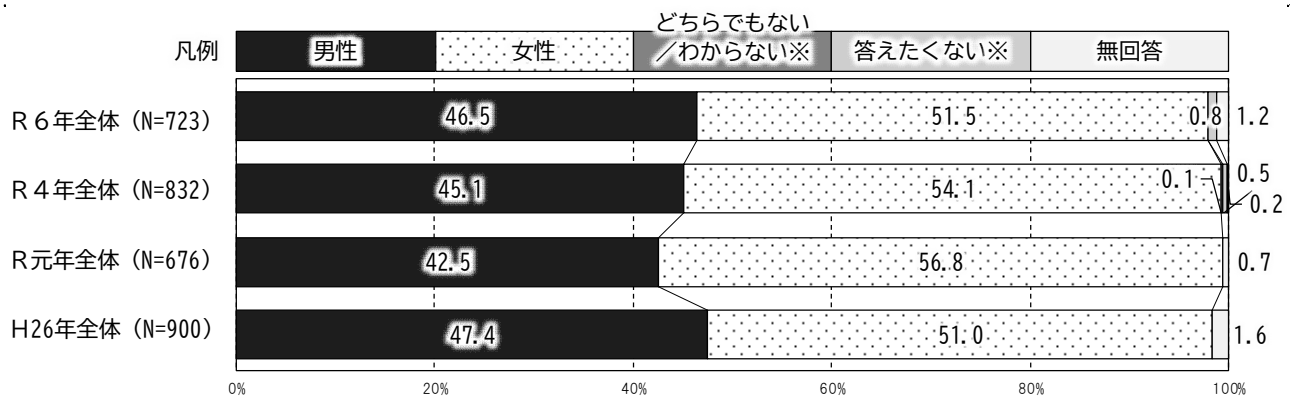
２．性別構成比（問２）

対象者の性別構成比は、男性が 46.5%、女性が 51.5%となっています。



■過年度比較

過年度で比較すると、令和４年度調査よりも男性が 1.4 ポイント上昇、女性が 2.6 ポイント低下しています。

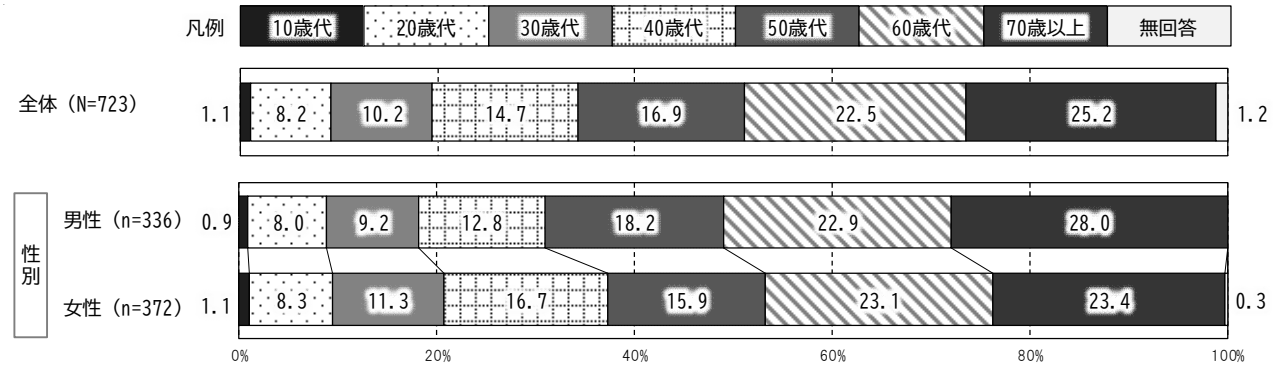


※「どちらでもない／わからない」「答えたくない」はH26 年、Ｒ元年では設定なし

３．年齢別構成比（問３）

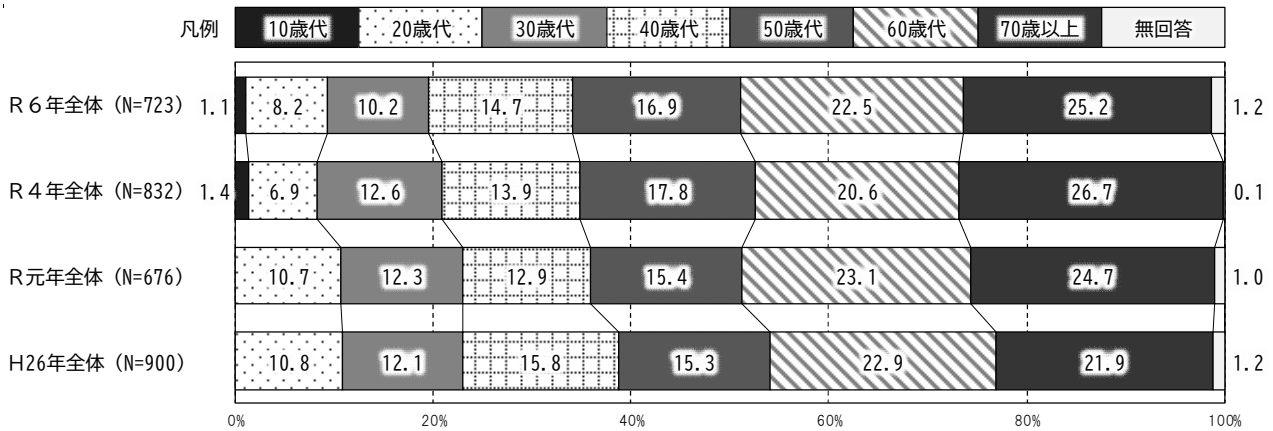
対象者の年齢別構成比は、「70 歳以上」が 25.2％と最も高く、次いで「60 歳代」が 22.5％、「50 歳代」が 16.9％などの順となっています。

性別でみると、男性は女性に比べ「70 歳以上」の割合が高く、『60 歳以上』（「60 歳代」+「70 歳以上」）の割合は５割を超えています（50.9％）。女性は男性に比べ「30 歳代」と「40 歳代」の割合が高くなっています。



■過年度比較

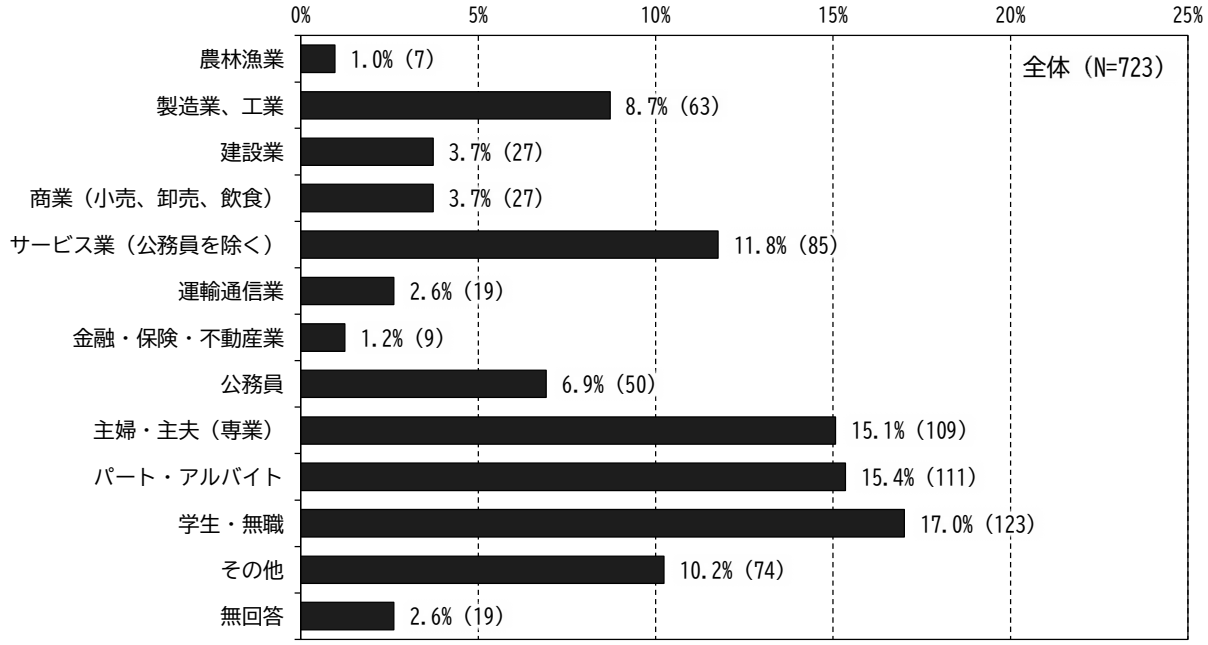
過年度で比較して大きな変化はないものの、「30 歳代」の割合は 10.2％で、前回以前よりもやや低下しています。



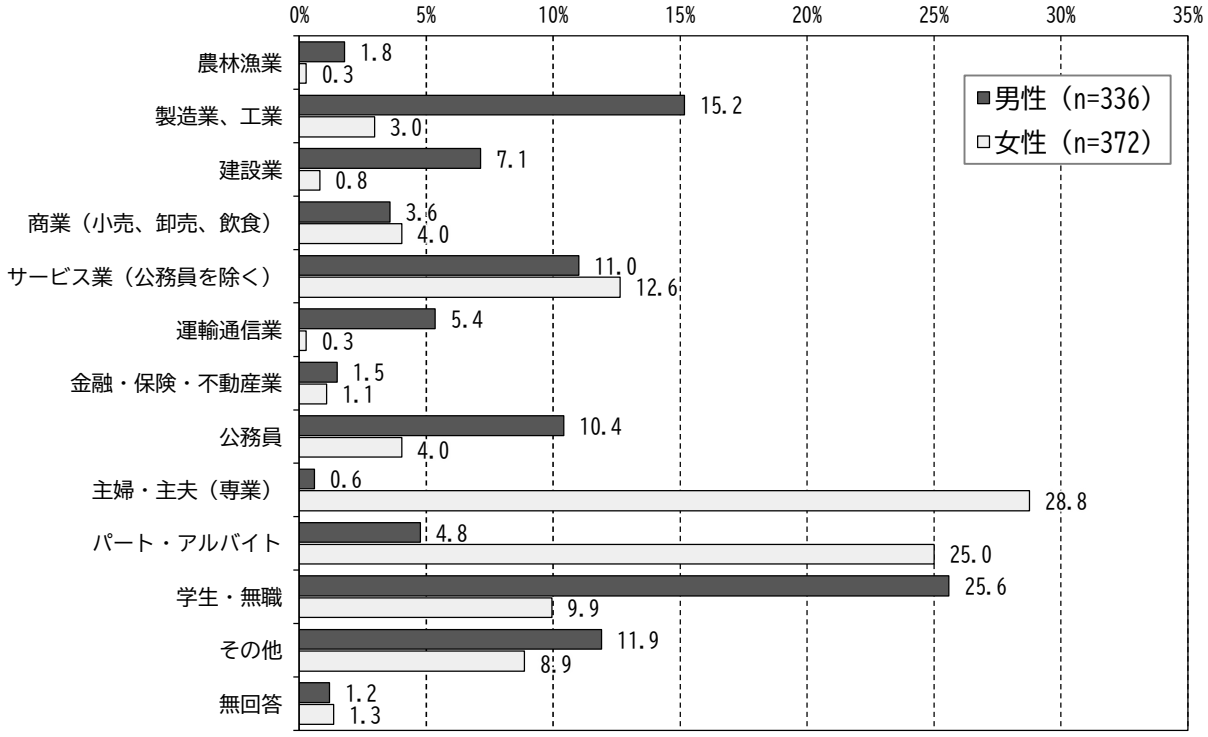
※「10 歳代」はH26 年、Ｒ元年では設定なし

４．職業別構成比（問４）

対象者の職業別構成比は、「学生・無職」が 17.0%と最も高く、次いで「パート・アルバイト」が 15.4%、「主婦・主夫（専業)」が 15.1%などの順となっています。

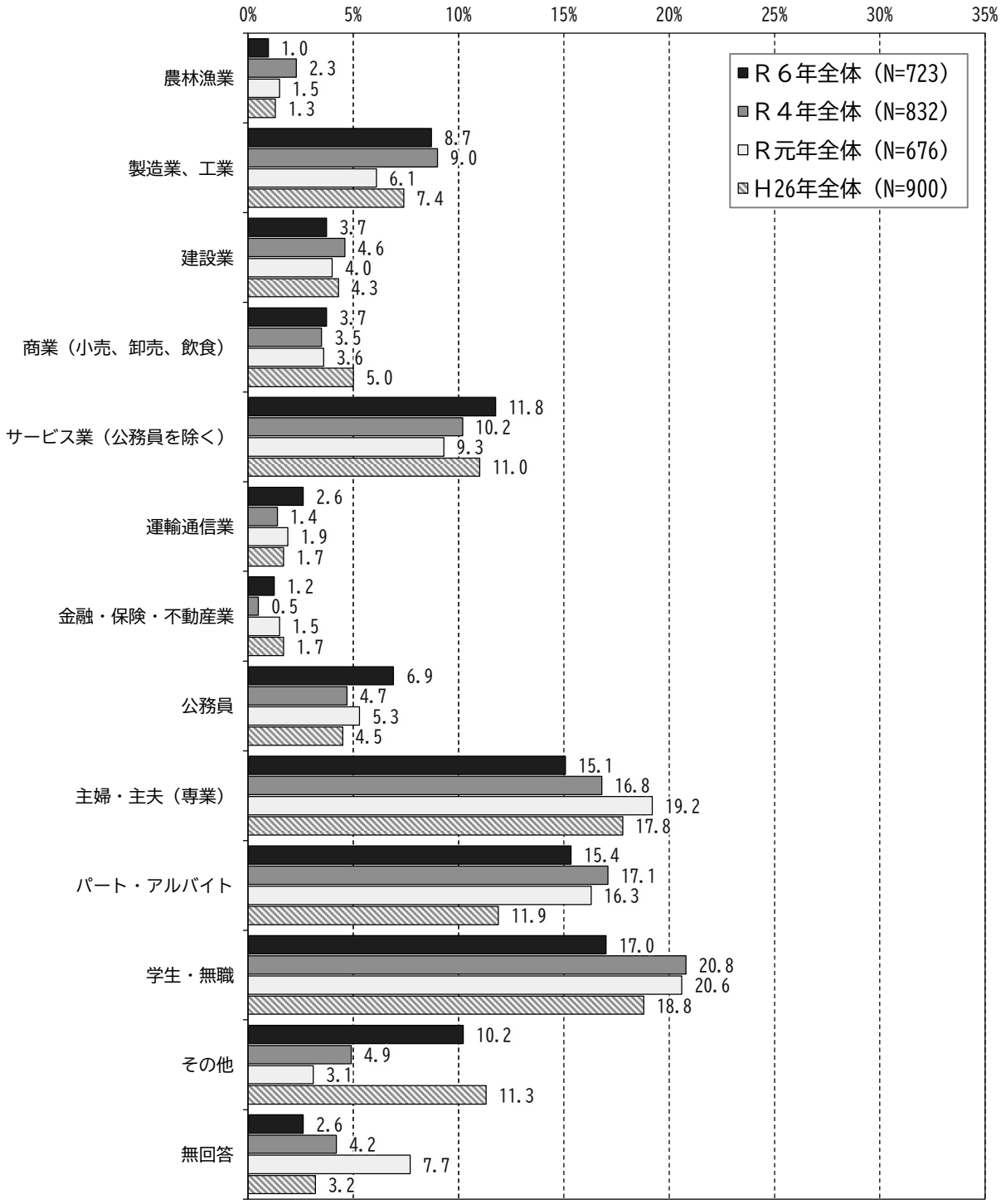


性別でみると、男性は女性に比べ「製造業、工業」や「学生・無職」の割合が高く、女性は「主婦・主夫（専業)」と「パート・アルバイト」の割合が男性を大きく上回っています。



■過年度比較

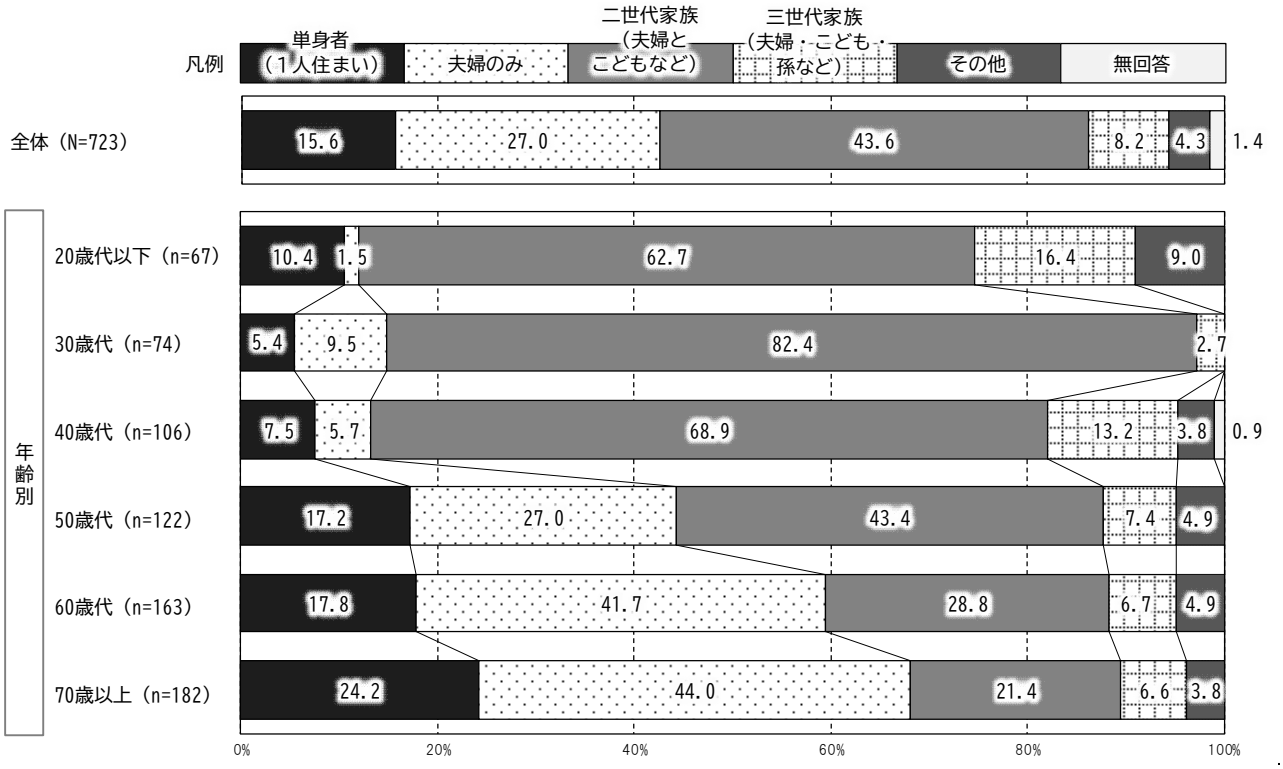
過年度で比較すると、傾向に大きな変化はないものの、「公務員」が前回より高い割合となっている一方で、「学生・無職」は前回以前より低い割合となっています。



５．同居家族別構成比（問５）

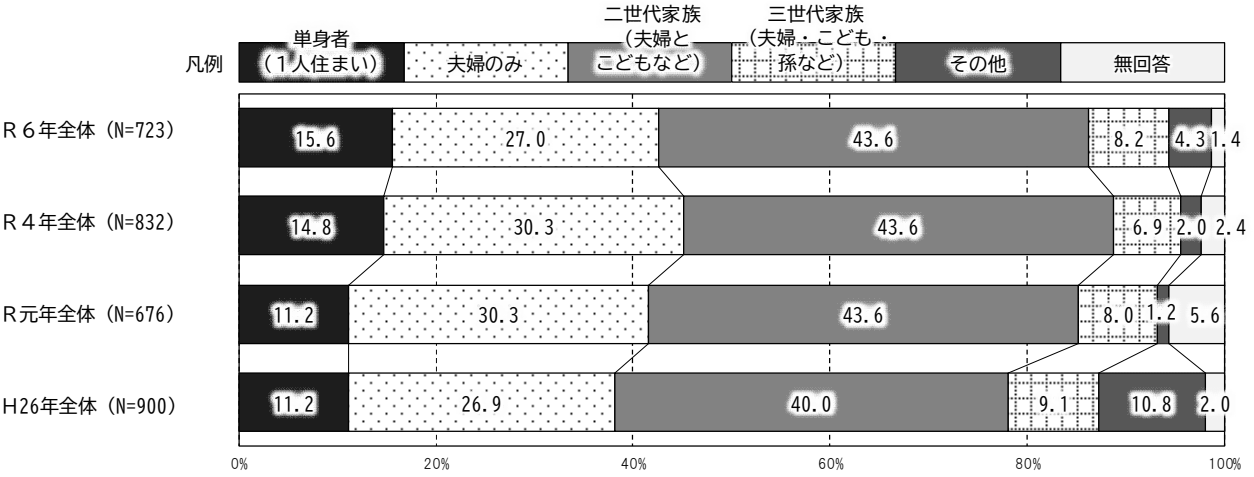
対象者の同居家族別構成比は、「二世代家族（夫婦とこどもなど)」が 43.6％と最も高く、次いで「夫婦のみ」が 27.0％、「単身者（１人住まい)」が 15.6％などの順となっています。

年齢別でみると、40 歳代以下では「二世代家族（夫婦とこどもなど)」が６割を超えています。また、50 歳代以上では「単身者（１人住まい)」は約２割、「夫婦のみ」は約３割以上を占め、それぞれ他の年代よりも高くなっています。



■過年度比較

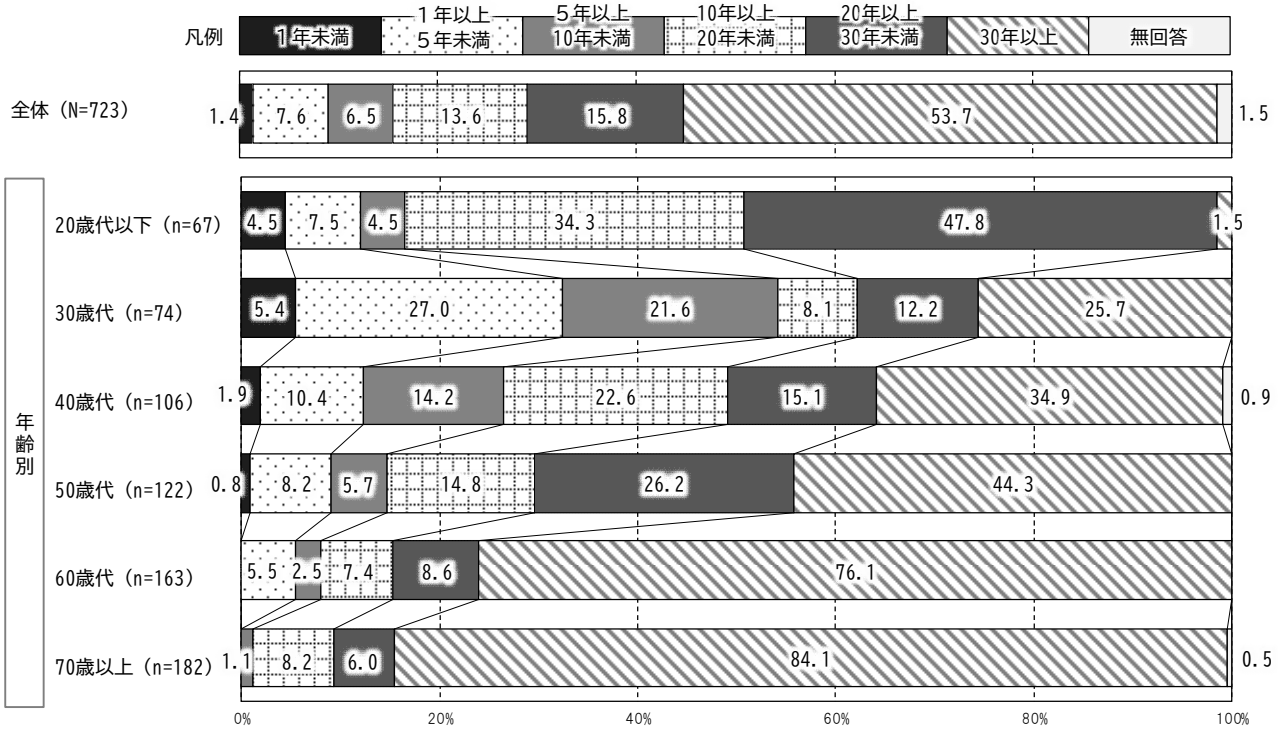
過年度で比較すると、「単身者（１人住まい)」の割合は上昇傾向となっています。また、令和４年度調査よりも「夫婦のみ」の割合は低下、「三世代家族（夫婦・こども・孫など)」は上昇しています。



６．芦屋町での通算居住年数別構成比（問６）

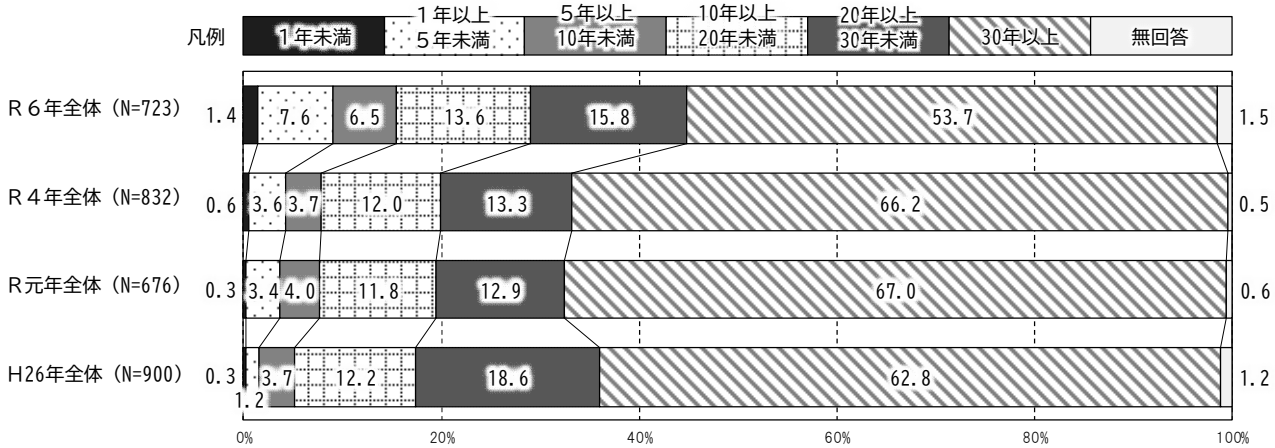
対象者の芦屋町での通算居住年数別構成比は、「30 年以上」の割合が最も高く、５割を超えています。

年齢別でみると、年齢が上がるほど通算居住年数が高くなる傾向がみられる中、20 歳代以下では「10 年以上 20 年未満」（34.3%）と「20 年以上 30 年未満」（47.8%）を合わせると８割を超えています。30 歳代では、「１年以上５年未満」（27.0%）と「５年以上 10 年未満」（21.6%）を合わせると約５割を占めています。



■過年度比較

過年度で比較すると、令和４年度調査よりも「30 年以上」が 12.5 ポイント低下しています。一方で『20 年未満』（「１年未満」+「１年以上５年未満」+「５年以上 10 年未満」+「10 年以上 20 年未満」）は 9.2 ポイント上昇しています。



2. 町の暮らしやすさについて

問７　芦屋町は住みやすいと感じていますか。（１つに○）

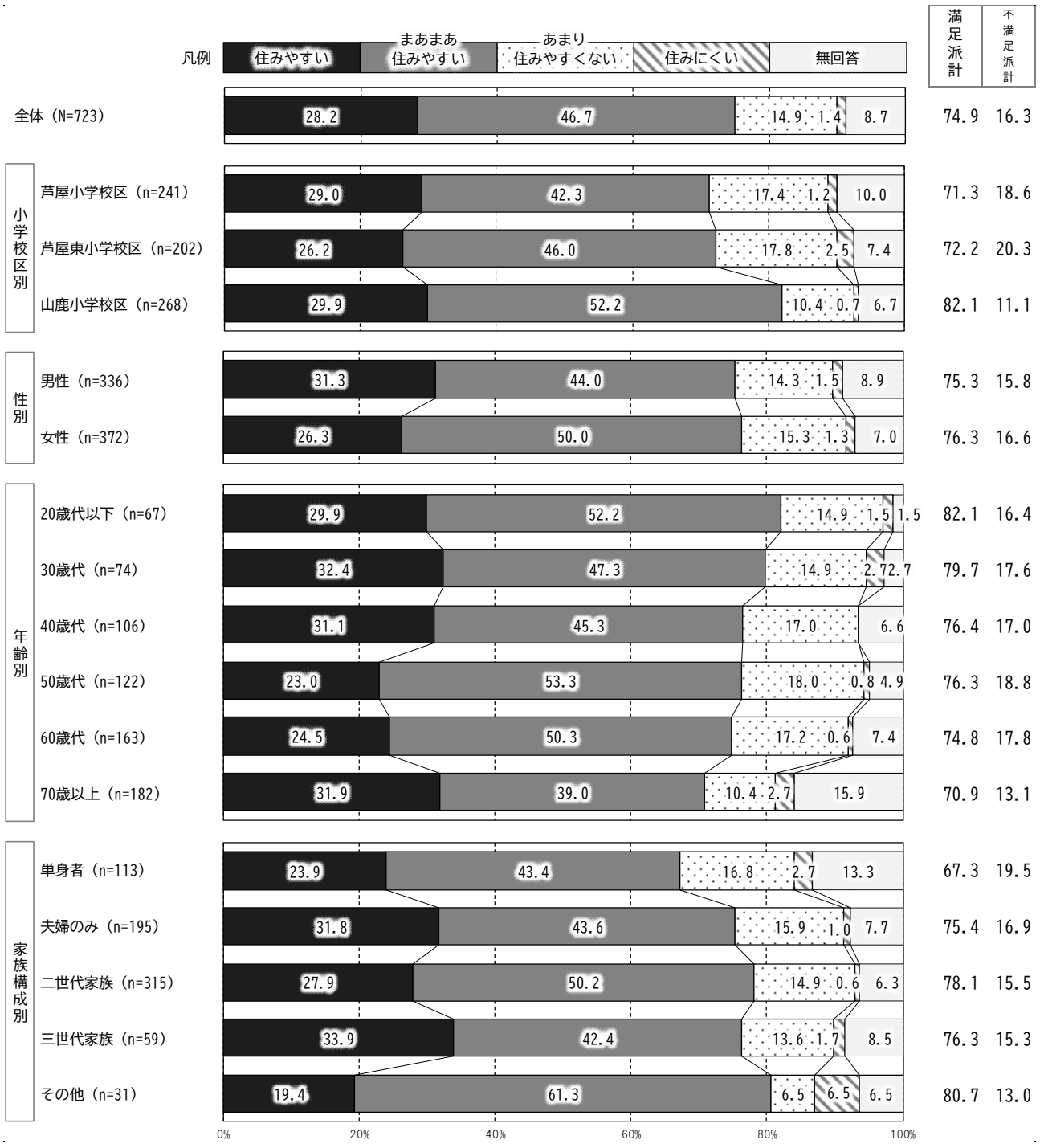
芦屋町の住みやすさをみると、「住みやすい」と「まあまあ住みやすい」を合わせた『住みやすい（以下『満足派』と表記)』と回答した人は 74.9%で、７割以上を占めています。

小学校区別でみると、山鹿小学校区の『満足派』の割合が 82.1%で最も高くなっています。

性別でみると、『満足派』の割合に大きな差はありません。

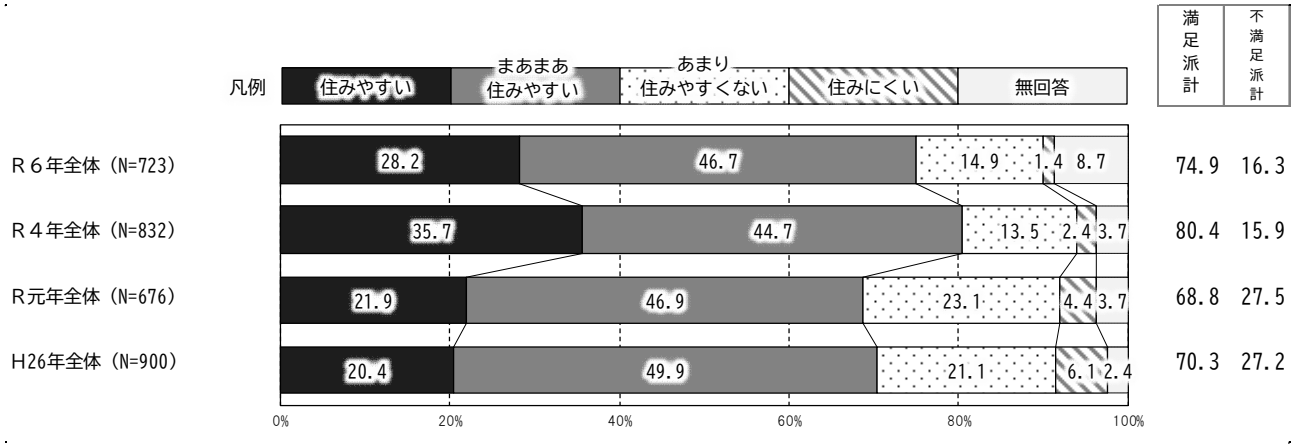
年齢別でみると、『満足派』の割合は 20 歳代以下（82.1%）が最も高く、70 歳以上（70.9%）が最も低くなっています。

家族構成別でみると、『満足派』の割合はその他（80.7%）が最も高く、単身者（67.3%）が最も低くなっています。



■過年度比較

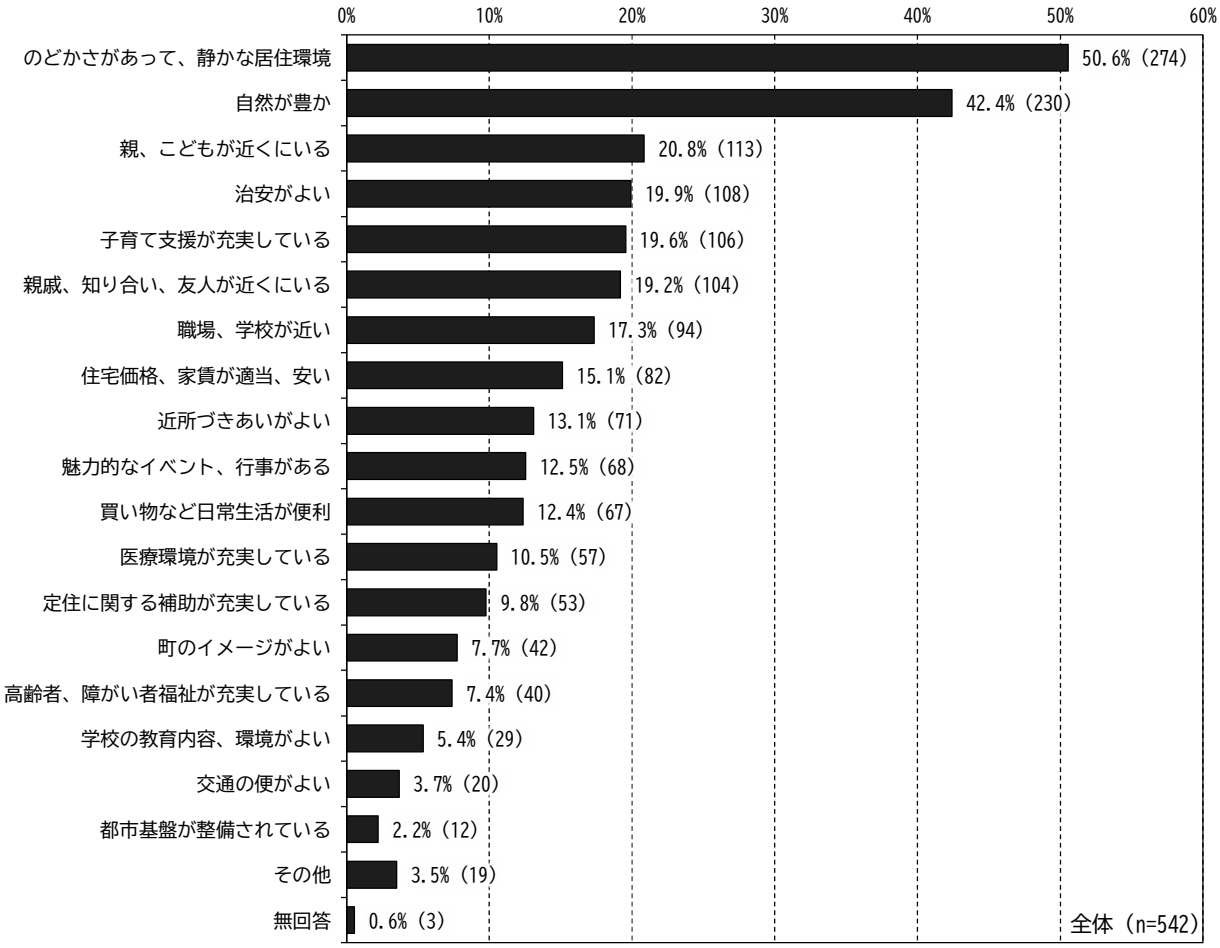
過年度で比較すると、「住みやすい」と回答した人は令和４年度調査から 7.5 ポイント低下して 28.2%となっています。また、『満足派』の割合は令和４年度調査から 5.5 ポイント低下して 74.9%となっています。



※問７で「１」「２」を選んだ方におたずねします。

問７－１　どのような点で住みやすいと感じていますか。（複数回答）

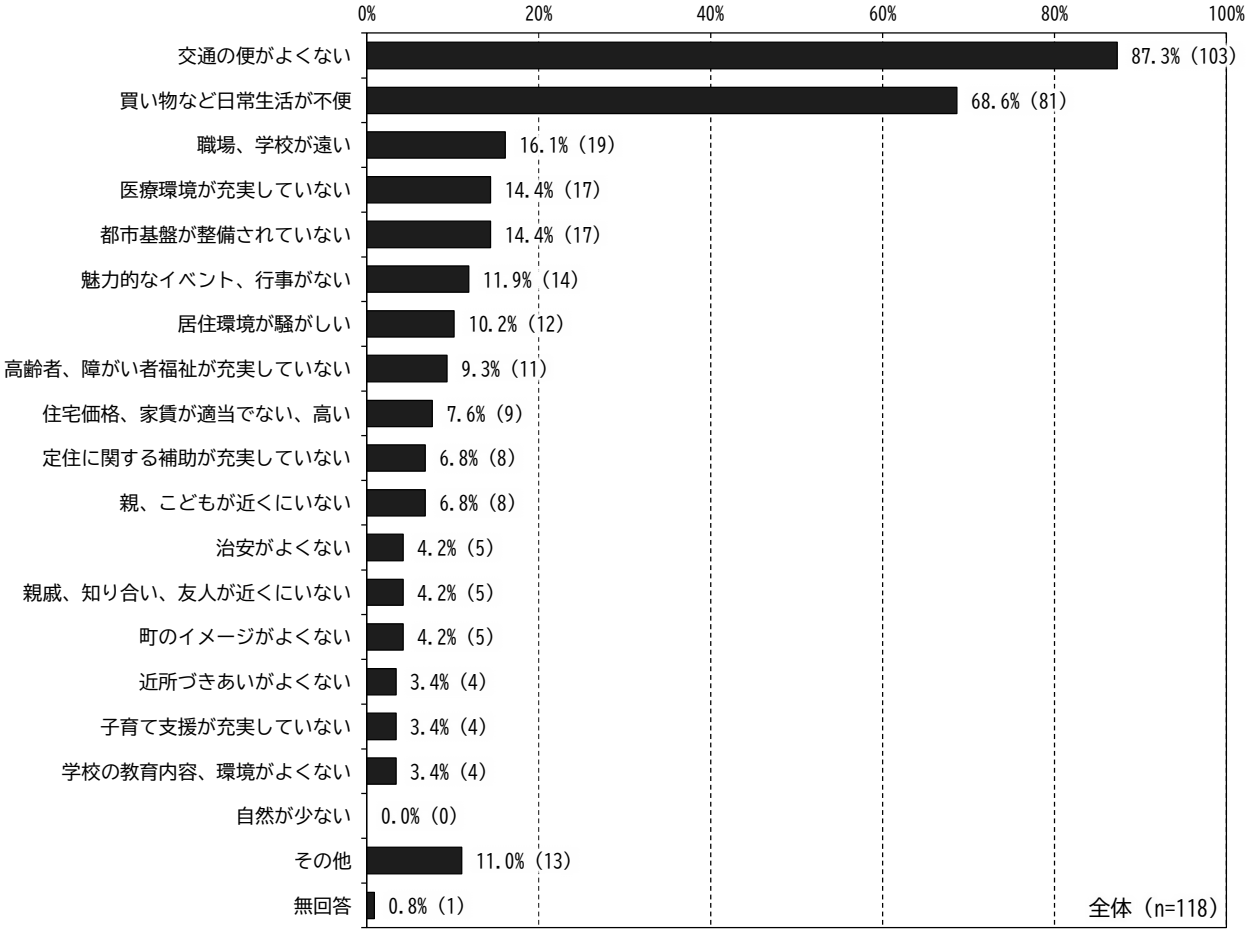
住みやすいと感じる理由をみると、「のどかさがあって、静かな居住環境」の割合が 50.6%で最も高く、次いで「自然が豊か」が 42.4%、「親、こどもが近くにいる」が 20.8%などの順となっています。



※問７で「３」「４」を選んだ方におたずねします。

問７-２ どのような点で住みにくいと感じていますか。（複数回答）

住みにくいと感じる理由をみると、「交通の便がよくない」の割合が 87.3%で最も高く、次いで「買い物など日常生活が不便」が 68.6%、「職場、学校が遠い」が 16.1%などの順となっています。



問８　今後も芦屋町に住み続けたいですか。（１つに○）

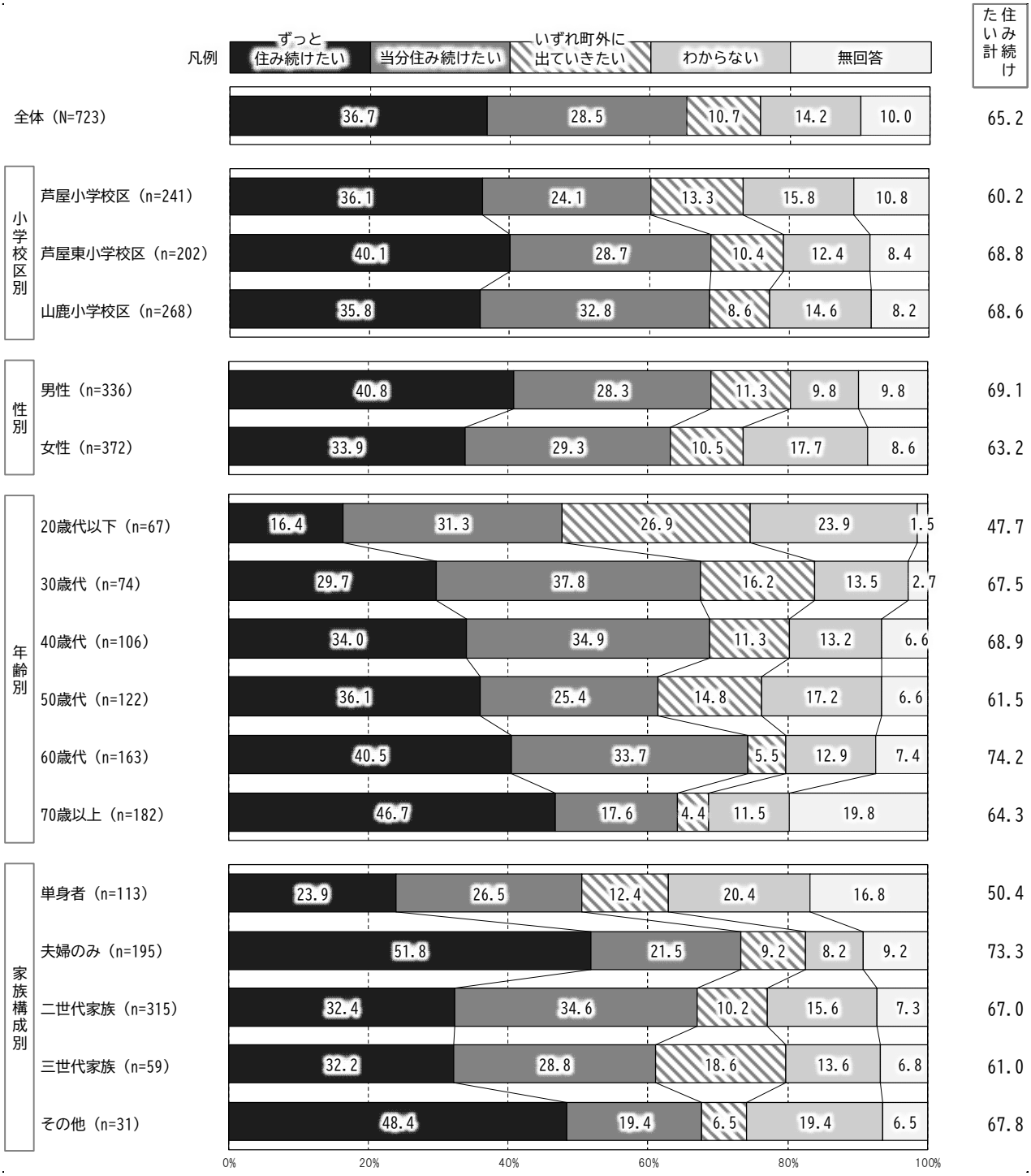
芦屋町の居住意向をみると、「ずっと住み続けたい」と「当分住み続けたい」を合わせた『住み続けたい』と回答した人の割合が 65.2%で６割を超えています。

小学校区別でみると、芦屋小学校区で『住み続けたい』の割合が 60.2%で他の校区より低くなっています。

性別でみると、『住み続けたい』の割合は男性（69.1%）の方が女性（63.2%）よりもやや高くなっています。

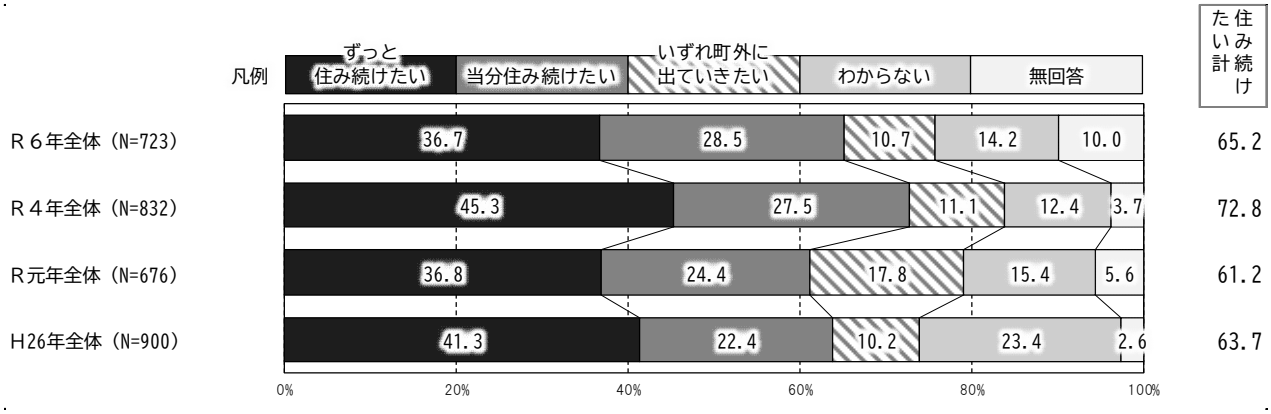
年齢別でみると、30 歳代以上では『住み続けたい』の割合は６割を超えている一方で、20 歳代以下では 47.7%にとどまっています。

家族構成別でみると、『住み続けたい』の割合は単身者（50.4%）が他と比較して低くなっています。



■過年度比較

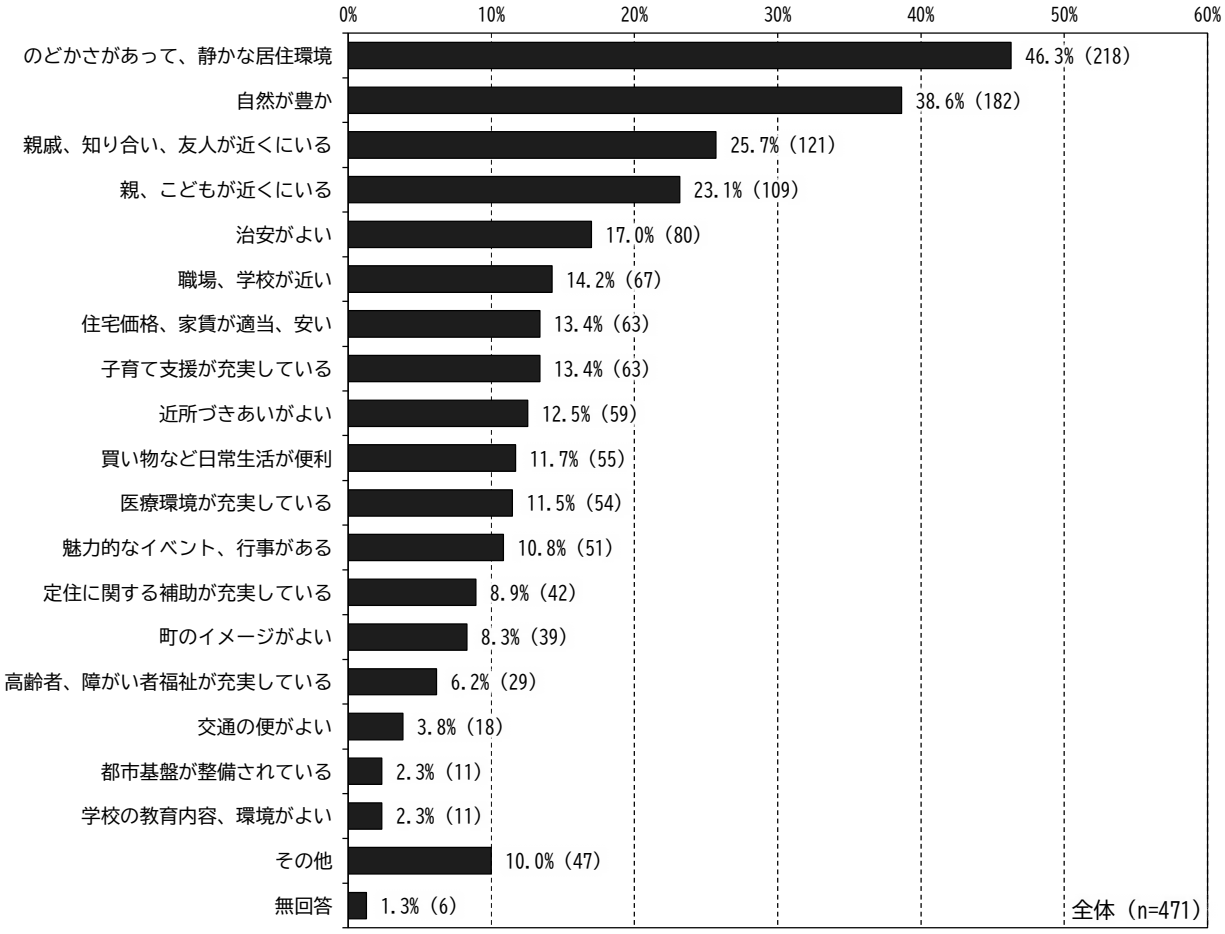
過年度で比較すると、『住み続けたい』の割合は 65.2%で、令和４年度調査と比較して 7.6 ポイント低下しています。



※問８で「１」「２」を選んだ方におたずねします。

問８－１　どのような点で今後も住み続けたいと思いますか。（複数回答）

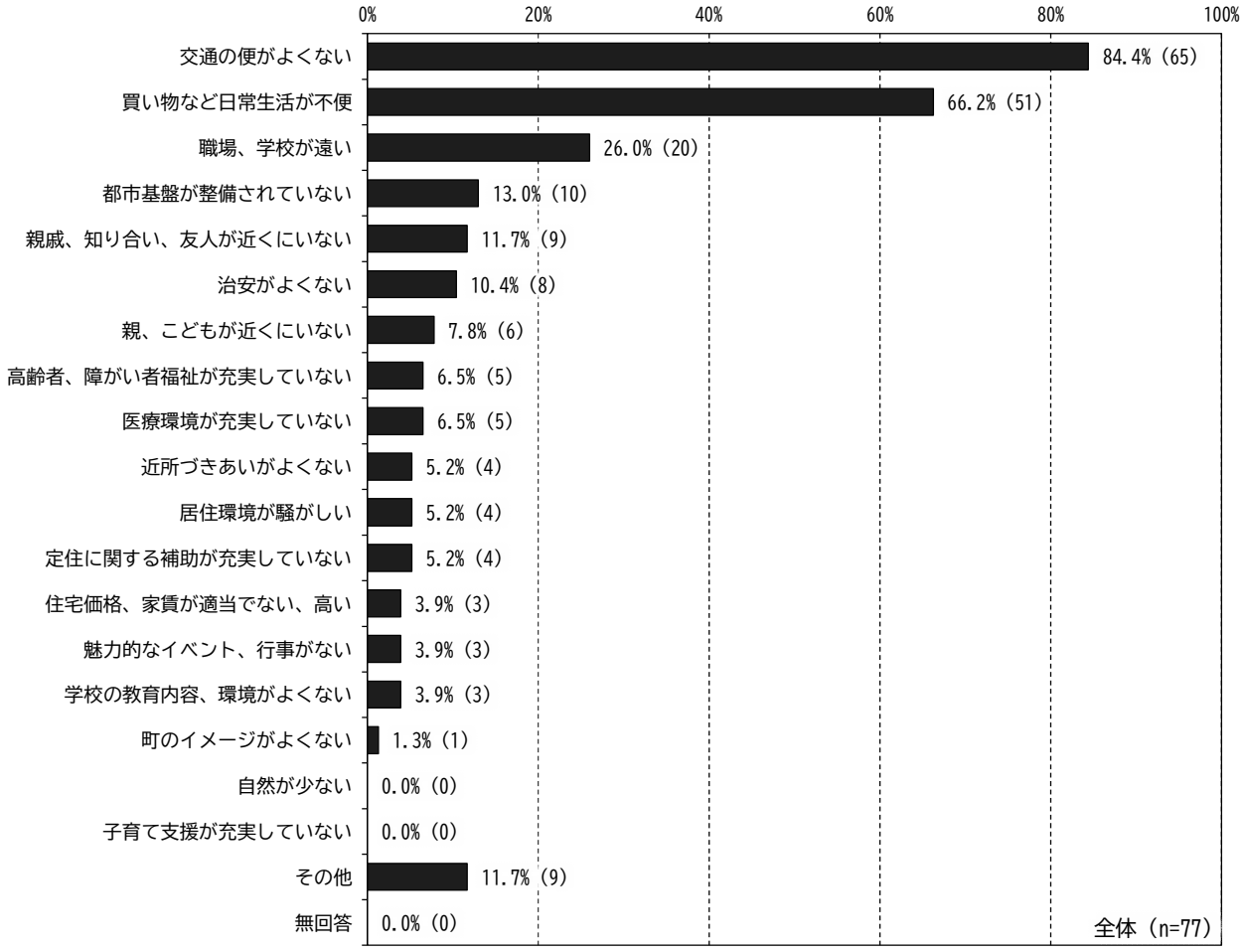
住み続けたい理由をみると、「のどかさがあって、静かな居住環境」の割合が 46.3%で最も高く、次いで「自然が豊か」が 38.6%、「親戚、知り合い、友人が近くにいる」が 25.7%などの順となっています。



※問８で「３」を選んだ方におたずねします。

問８-２ どのような点でいずれ町外に出ていきたいと思いますか。（複数回答）

町外に出ていきたい理由をみると、「交通の便がよくない」の割合が 84.4％で最も高く、次いで「買い物など日常生活が不便」が 66.2％、「職場、学校が遠い」が 26.0％などの順となっていて、上位３つは住みにくいと感じる理由と同じ項目が挙がっています。



3. 町の取り組みに対する満足度・重要度について

問９　芦屋町のこれまでの取り組みについて、あなたはどのくらい満足し、また、重要とお考えですか。（各項目について、「満足度」、「重要度」からそれぞれ１つずつに○）

町の取り組みについて、39 の項目を掲げ、それぞれの「満足度」「重要度」を４段階評価で回答を得ました。

■町の取り組み

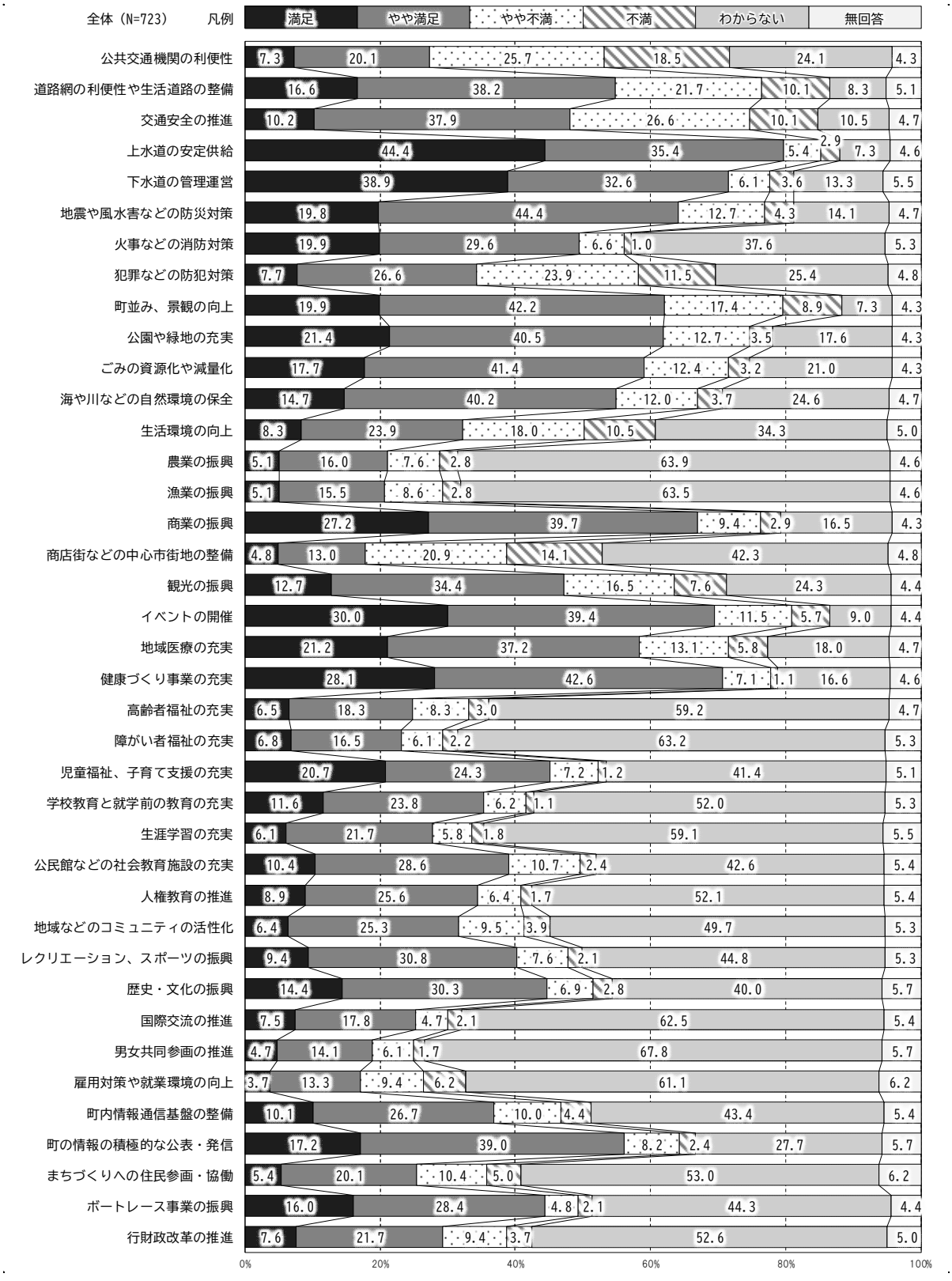
	項目	代表的な事業など
1	公共交通機関の利便性	・町内を運行する北九州市営バス、芦屋タウンバスの路線や運行本数、巡回バスの運行など
2	道路網の利便性や生活道路の整備	・幹線道路、身近な生活道路の利便性、整備の状態など
3	交通安全の推進	・交通安全運動の実施、カーブミラーや道路照明などの交通安全施設の設置状況など
4	上水道の安定供給	・北九州市による水道の安全・安定供給など
5	下水道の管理運営	・下水道施設の維持管理など
6	地震や風水害などの防災対策	・自主防災組織への支援、防災訓練の実施、防災無線や防災マップの整備、避難所の設置状況など
7	火事などの消防対策	・迅速な消火活動、消防団活動の支援など
8	犯罪などの防犯対策	・自治防犯組合などの町内巡回活動の支援、見回りの強化、防犯街灯や防犯カメラの設置など
9	町並み、景観の向上	・花壇の整備、街路樹の剪定、誘導看板や総合案内板などの整備状況など
10	公園や緑地の充実	・中央公園、海浜公園、夏井ヶ浜はまゆう公園などの維持や整備など
11	ごみの資源化や減量化	・自治区などによる資源物の集団回収奨励制度、生ごみ処理容器やダンボールコンポストなどの助成制度など
12	海や川などの自然環境の保全	・ラブアース活動（海岸線や河川の一斉清掃）など
13	生活環境の向上	・不法投棄防止パトロール、放置自転車対策、不法係留船対策など
14	農業の振興	・新規就農者への就農支援、用水路やため池などの維持や整備など
15	漁業の振興	・漁港や漁業施設の維持や整備など
16	商業の振興	・にこにこ商品券・高額商品券発行の補助、商工業者への運営や設備資金の借入支援など
17	商店街などの中心市街地の整備	・商業者への支援や企業誘致、空店舗活用の補助制度など
18	観光の振興	・国民宿舎・レジャープールアクアシアン・芦屋海水浴場の運営、観光情報の発信、芦屋港レジャー港化の推進など
19	イベントの開催	・あしや砂像展の実施、花火大会や祭りあしやなどの開催支援など
20	地域医療の充実	・芦屋中央病院の医療機器の充実や町内の医院との連携など

	項目	代表的な事業など
21	健康づくり事業の充実	・特定健診・がん検診・乳幼児健診の実施、健康・運動教室や保健指導・栄養指導の実施など
22	高齢者福祉の充実	・介護予防事業、地域交流サロン事業や配食サービスなどの在宅福祉サービスの実施など
23	障がい者福祉の充実	・公共施設のバリアフリー化、福祉タクシーチケット給付、手話通訳者の派遣、障がい児デイサービス「芦屋すてっぷくらぶ」の運営など
24	児童福祉、子育て支援の充実	・子ども医療費の助成、学童クラブの運営、保育所などの利用、子育て支援センターの運営や育児教室・相談の実施、小中学校の給食費無償化、小中学校・高校生等の通学費の補助など
25	学校教育と就学前の教育の充実	・小中学生への放課後補習授業（放課後塾、イブニングスタディなど）の実施、英語教育の充実（外国語専科教員の配置、英検受験料補助など）、保育所・幼稚園・認定こども園・小学校・中学校の連携、ICT（情報通信技術）教育・特別支援教育の推進など
26	生涯学習の充実	・各公民館講座、祖父母学級、同好会活動などの推進、文化協会への活動支援など
27	公民館などの社会教育施設の充実	・中央公民館、東公民館、山鹿公民館、図書館、町民会館などの運営など
28	人権教育の推進	・人権まつり、人権講演会の実施、人権カレンダーの発行や人権啓発の実施など
29	地域などのコミュニティの活性化	・自治区活動への支援、自治区担当職員制度（職員が地域活動に参加し、町民による自主的な地域づくりのサポートを行う活動）の推進など
30	レクリエーション、スポーツの振興	・総合体育館・小体育館などの体育施設の管理運営、スロートレーニングなど健康づくり講座の開催、スポーツ大会や体育協会への支援など
31	歴史・文化の振興	・芦屋釜復興への取り組み、芦屋釜の里の運営やさくらコンサートなどの事業、歴史の里の運営や企画展の実施、ギャラリーあしやの運営など
32	国際交流の推進	・国際交流協会への支援、小学生を対象とした英語体験活動、中学生を対象とした海外ホームステイ事業、小中学校での外国人とのオンライン英会話授業の実施など
33	男女共同参画の推進	・男女共同参画社会の実現に向けての啓発や講演会の実施など
34	雇用対策や就業環境の向上	・企業誘致を促進する条例、創業等促進支援事業補助金制度など
35	町内情報通信基盤の整備	・芦屋釜の里、レジャープールアクアシアン、マリンテラスあしや、町民会館、総合体育館、中央公民館、役場庁舎への無料公衆無線LAN（Wi-Fi）の整備など
36	町の情報の積極的な公表・発信	・広報あしやの発行、出前町長室、出前講座、町のホームページ、公式LINEなどの各種SNS運営、KBCテレビｄボタン広報誌、地域情報伝達システムの戸別受信機など
37	まちづくりへの住民参画・協働	・住民と行政との情報の共有、パブリックコメントの実施、計画などへの住民の意見の反映など
38	ボートレース事業の振興	・売上向上に向けた取り組み（電話投票の拡大、キャッシュレス投票の促進）、来場者増加に向けた取り組み（各種イベント、モーヴィ芦屋）、夢リアホールの活用、無料公衆無線LAN（Wi-Fi）の整備など
39	行財政改革の推進	・自主財源の確保、効率的な行政運営の推進など

（1）満足度

満足度が高い取り組み（満足、やや満足を回答）は、「上水道の安定供給」（79.8%）、「下水道の管理運営」（71.5%）、「健康づくり事業の充実」（70.7%）、「イベントの開催」（69.4%）、「商業の振興」（66.9%）などの順となっています。

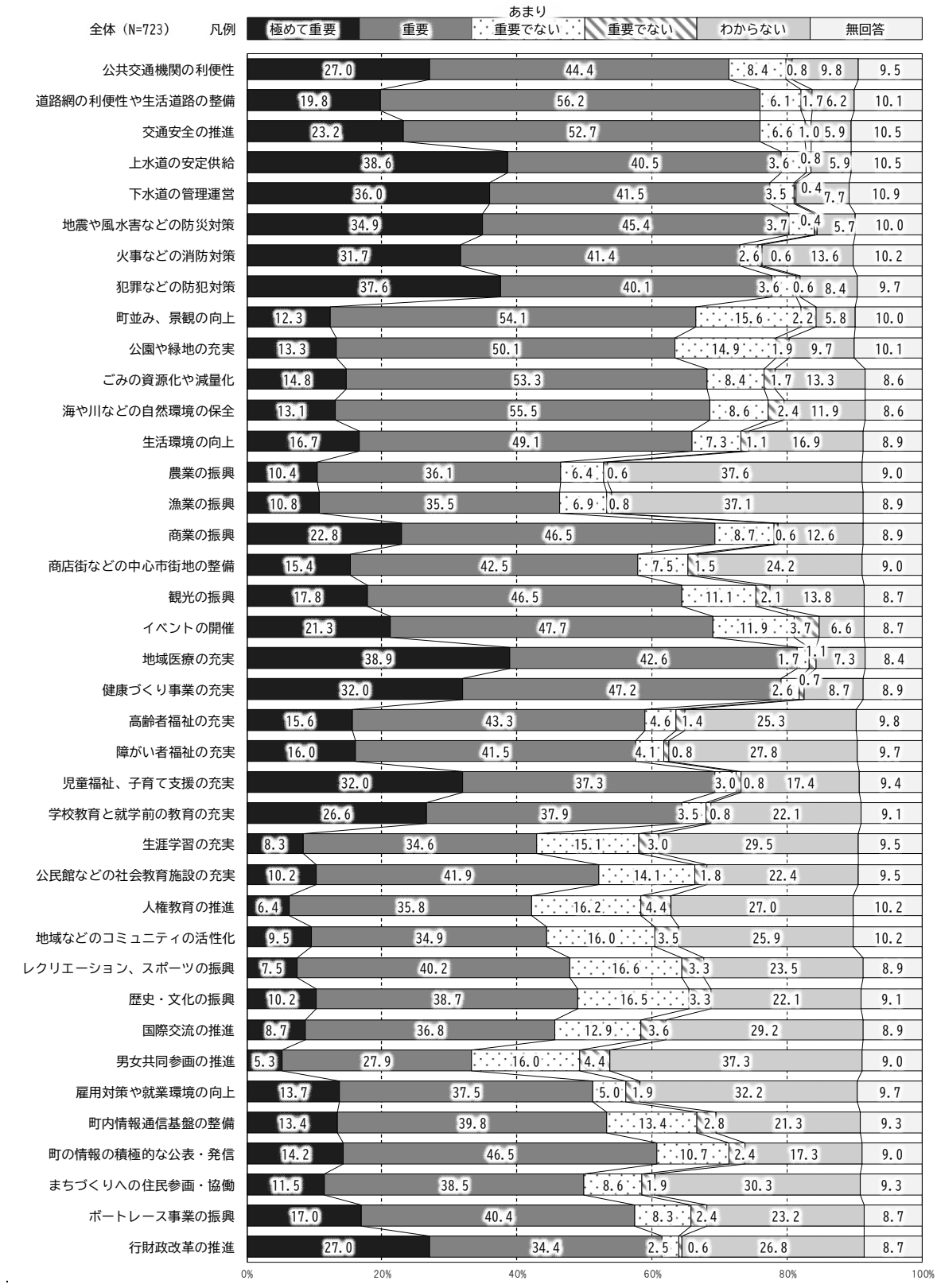
一方、満足度が低い取り組み（やや不満、不満を回答）は、「公共交通機関の利便性」（44.2%）、「交通安全の推進」（36.7%）、「犯罪などの防犯対策」（35.4%）、「商店街などの中心市街地の整備」（35.0%）、「道路網の利便性や生活道路の整備」（31.8%）などの順となっています。



（２）重要度

重要度が高い取り組み（極めて重要、重要を回答）は、「地域医療の充実」（81.5%）、「地震や風水害などの防災対策」（80.3%）、「健康づくり事業の充実」（79.2%）、「上水道の安定供給」（79.1%）、「犯罪などの防犯対策」（77.7%）、などの順となっています。

一方、重要度が低い取り組み（あまり重要でない、重要でないを回答）は、「人権教育の推進」（20.6%）、「男女共同参画の推進」（20.4%）、「レクリエーション、スポーツの振興」（19.9%）、「歴史・文化の振興」（19.8%）、「地域などのコミュニティの活性化」（19.5%）などの順となっています。



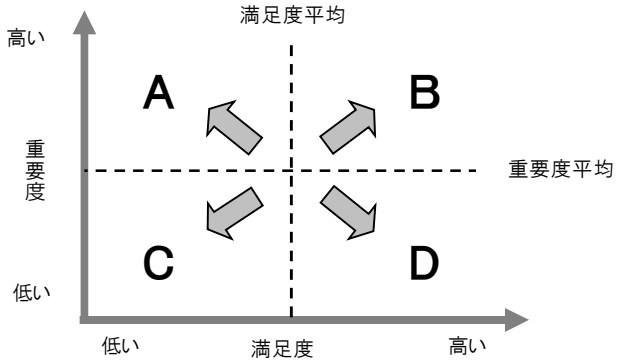
満足度と重要度の相関図による分析

満足度と重要度は以下に示す平均評定値（加重平均値）を算出する方法で点数化しています。

○「満足度」については「満足」「やや満足」への回答とともに、「やや不満」「不満」という選択肢もあります。このため、「満足度」をより的確に分析するために、平均評定値による指標化を行いました。
○平均評定値は、「満足」に４点、「やや満足」に３点、「やや不満」に２点、「不満」に１点の係数（ウエイト）を設定し、
【「満足」の回答件数×４点＋「やや満足」の回答件数×３点＋「やや不満」の回答件数×２点＋「不満」の回答件数×１点】÷【回答者件数－無回答件数－「わからない」の回答件数】の計算によって算出し、指標としています。
○この指標によって、「満足度」の強弱をより明確に分析することが可能です。
○「重要度」についても、同様の算出方法で平均評定値を算出しています。

満足度と重要度それぞれの平均評定値に基づき、縦軸に重要度、横軸に満足度を設定し、39 の項目を散布図上に示したものが相関図です。

縦軸に重要度、横軸に満足度をとった相関図では、満足度と重要度を４つの区画上に示すことで、各項目の位置づけを整理します。満足度と重要度の各々の平均を示す点から左上（A）、右上（B）、左下（C）、右下（D）の４方向に進むに従い、以下の傾向を示しています。



Ａ．重要度が高く、満足度が低い（重点化･見直し領域）

今後のまちづくりにおける重要度が高いが、満足度が相対的に低く、項目の重点化や抜本的な見直しなども含め満足度を高める必要のある領域です。

「犯罪などの防犯対策」、「行財政改革の推進」、「公共交通機関の利便性」、「交通安全の推進」、「高齢者福祉の充実」、「道路網の利便性や生活道路の整備」などが該当します。

Ｂ．重要度、満足度ともに高い（現状維持領域）

今後のまちづくりにおける重要度も満足度も高く、現時点での満足度の水準を維持していくことが必要な領域です。

「地域医療の充実」、「上水道の安定供給」、「下水道の管理運営」、「児童福祉、子育て支援の充実」、「火事などの消防対策」、「地震や風水害などの防災対策」などが該当します。

C．重要度、満足度ともに低い（改善･見直し領域）

今後のまちづくりにおける重要度も満足度も低く、項目の目的やニーズを再確認するとともに、項目のあり方や進め方そのものをあらためて見直す必要のある領域です。

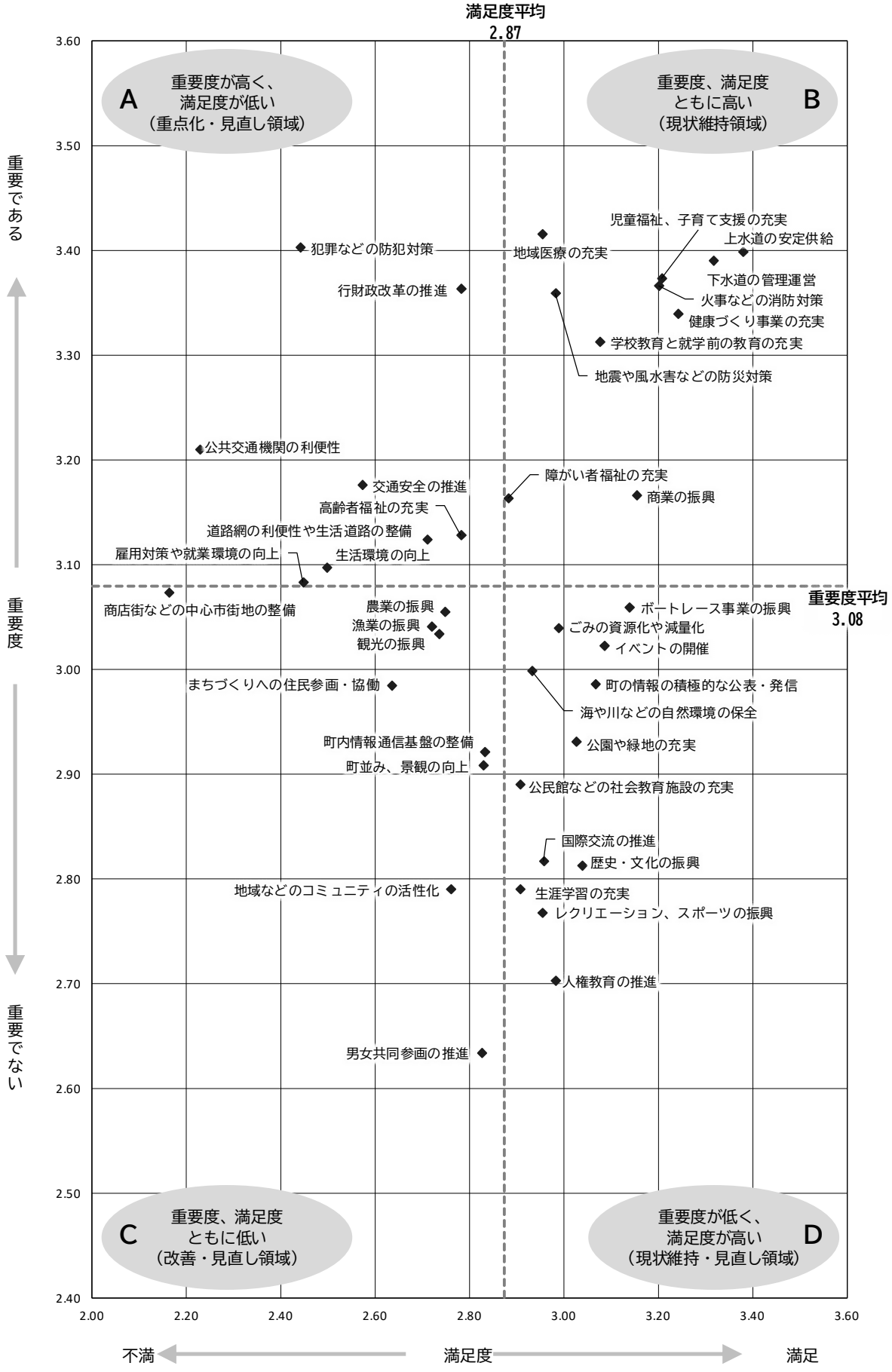
「商店街などの中心市街地の整備」、「農業の振興」、「漁業の振興」、「観光の振興」、「まちづくりへの住民参画・協働」、「町内情報通信基盤の整備」などが該当します。

D．重要度が低く、満足度が高い（現状維持･見直し領域）

今後のまちづくりにおける重要度は低いものの満足度が高く、満足度の水準を維持していくか、あるいは項目のあり方を含めて見直すべき必要のある領域です。

「ボートレース事業の振興」、「ごみの資源化や減量化」、「イベントの開催」、「海や川などの自然環境の保全」、「町の情報の積極的な公表・発信」、「公園や緑地の充実」などが該当します。

◆満足度と重要度の相関図による分析◆



■過年度比較

【平均評定値】	満足度				重要度			
	H26	R元	R４	R６	H26	R元	R４	R６
平均	**2.70**	**2.72**	**2.97**	**2.87**	**2.99**	**3.04**	**3.09**	**3.08**
公共交通機関の利便性	1.99	1.98	2.21	2.23	3.21	3.27	3.14	3.21
道路網の利便性や生活道路の整備	2.72	2.67	2.67	2.71	3.05	3.08	3.06	3.12
交通安全の推進	2.59	2.52	2.62	2.57	3.19	3.21	3.12	3.18
上水道の安定供給	3.22	3.30	3.39	3.38	3.26	3.38	3.38	3.40
下水道の管理運営	3.23	3.28	3.36	3.32	3.27	3.36	3.33	3.39
地震や風水害などの防災対策	2.56	2.61	3.10	2.98	3.38	3.39	3.33	3.36
火事などの消防対策	3.06	3.11	3.19	3.20	3.34	3.38	3.20	3.37
犯罪などの防犯対策	2.58	2.46	2.66	2.44	3.32	3.36	3.18	3.40
町並み、景観の向上	2.74	2.64	2.83	2.83	2.82	2.88	2.97	2.91
公園や緑地の充実	2.61	2.93	2.96	3.02	2.81	2.82	2.96	2.93
ごみの資源化や減量化	2.93	2.85	3.09	2.99	2.90	2.98	3.04	3.04
海や川などの自然環境の保全	2.81	2.86	2.91	2.93	3.01	3.03	3.02	3.00
生活環境の向上	2.32	2.33	2.54	2.49	3.09	3.07	3.06	3.10
農業の振興	2.83	2.62	2.92	2.75	2.80	2.92	3.02	3.05
漁業の振興	2.78	2.62	2.90	2.72	2.82	2.94	3.03	3.04
商業の振興	2.63	2.54	3.22	3.15	2.76	2.78	3.07	3.17
商店街などの中心市街地の整備	2.08	1.86	2.47	2.16	3.02	3.02	3.10	3.07
観光の振興	2.49	2.61	2.76	2.73	3.00	3.03	3.01	3.03
イベントの開催	2.73	2.92	3.05	3.08	2.94	2.96	3.09	3.02
地域医療の充実	2.22	2.62	2.96	2.95	3.38	3.41	3.42	3.42
健康づくり事業の充実	2.98	3.07	3.18	3.24	3.20	3.27	3.33	3.34
高齢者福祉の充実	2.74	2.78	3.05	2.78	3.17	3.19	3.15	3.13
障がい者福祉の充実	2.79	2.70	3.04	2.88	3.14	3.20	3.16	3.16
児童福祉、子育て支援の充実	2.83	2.97	3.18	3.21	3.19	3.22	3.21	3.37
学校教育と就学前の教育の充実	2.86	2.97	3.17	3.07	3.26	3.33	3.23	3.31
生涯学習の充実	2.83	2.85	3.13	2.91	2.81	2.84	2.98	2.79
公民館などの社会教育施設の充実	2.86	2.86	3.00	2.90	2.88	2.87	3.02	2.89
人権教育の推進	2.83	2.80	3.05	2.98	2.60	2.59	2.88	2.70
地域などのコミュニティの活性化	2.71	2.70	2.86	2.76	2.72	2.83	2.98	2.79
レクリエーション、スポーツの振興	2.86	2.85	3.11	2.95	2.73	2.84	2.82	2.77
歴史・文化の振興	2.82	2.85	3.12	3.04	2.66	2.75	2.83	2.81
国際交流の推進	2.90	2.90	3.05	2.96	2.64	2.65	2.88	2.82
男女共同参画の推進	2.77	2.74	2.95	2.82	2.58	2.58	2.79	2.63
雇用対策や就業環境の向上	2.40	2.19	2.89	2.44	3.04	3.03	2.99	3.08
町内情報通信基盤の整備	2.55	2.59	3.06	2.83	2.80	2.87	2.94	2.92
町の情報の積極的な公表・発信	2.78	2.83	3.11	3.06	2.93	2.95	3.07	2.98
まちづくりへの住民参画・協働	2.50	2.43	2.78	2.63	2.95	2.99	3.08	2.98
ボートレース事業の振興	2.67	2.73	3.18	3.14	2.78	2.92	3.10	3.06
行財政改革の推進	2.41	2.34	2.92	2.78	3.21	3.29	3.37	3.36

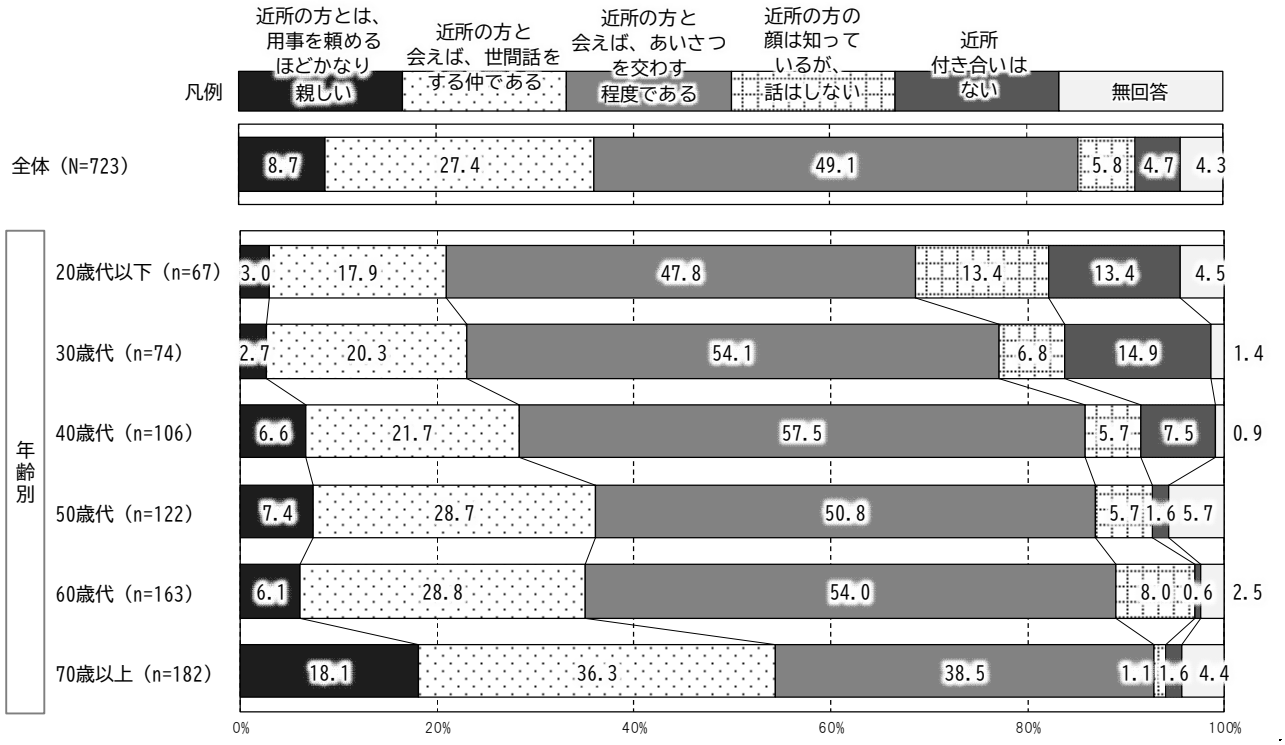
4. その他、まちの重点的な取り組みなどについて

◆地域について

問 10　ふだん近所の方とどの程度の付き合いをされていますか。（１つに○）

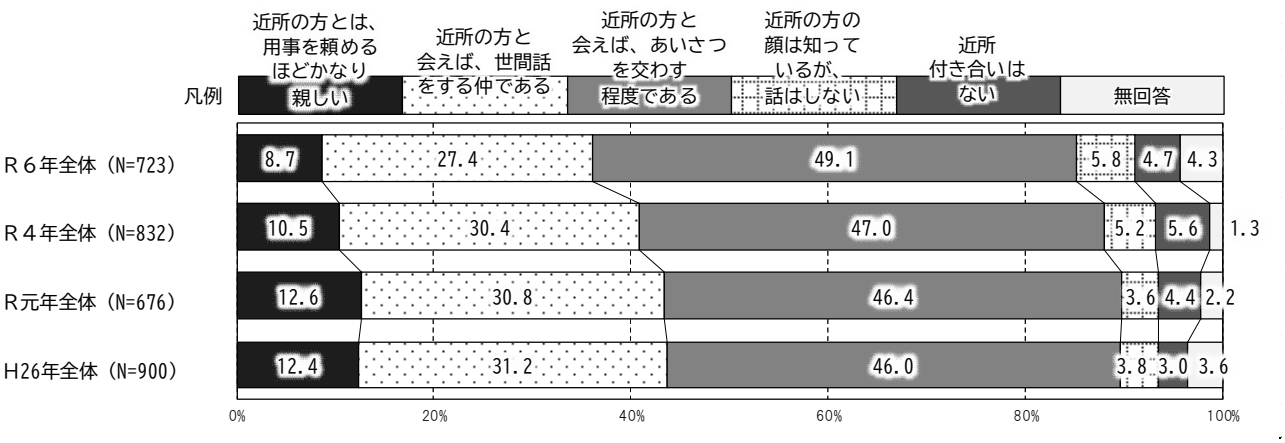
近所との付き合いの程度をみると、「近所の方と会えば、あいさつを交わす程度である」の割合が 49.1%で最も高く、次いで「近所の方と会えば、世間話をする仲である」が 27.4%、「近所の方とは、用事を頼めるほどかなり親しい」が 8.7%などの順となっています。

年齢別でみると、20 歳代以下で「近所の方の顔は知っているが、話はしない」(13.4%)、30 歳代以下で「近所付き合いはない」の割合が 10%を超えています。「近所の方とは、用事を頼めるほどかなり親しい」の割合は、70 歳以上で 18.1%と突出して高くなっています。



■過年度比較

過年度で比較すると、「近所の方とは、用事を頼めるほどかなり親しい」の割合が低下傾向、「近所の方と会えば、あいさつを交わす程度である」の割合が上昇傾向となっています。



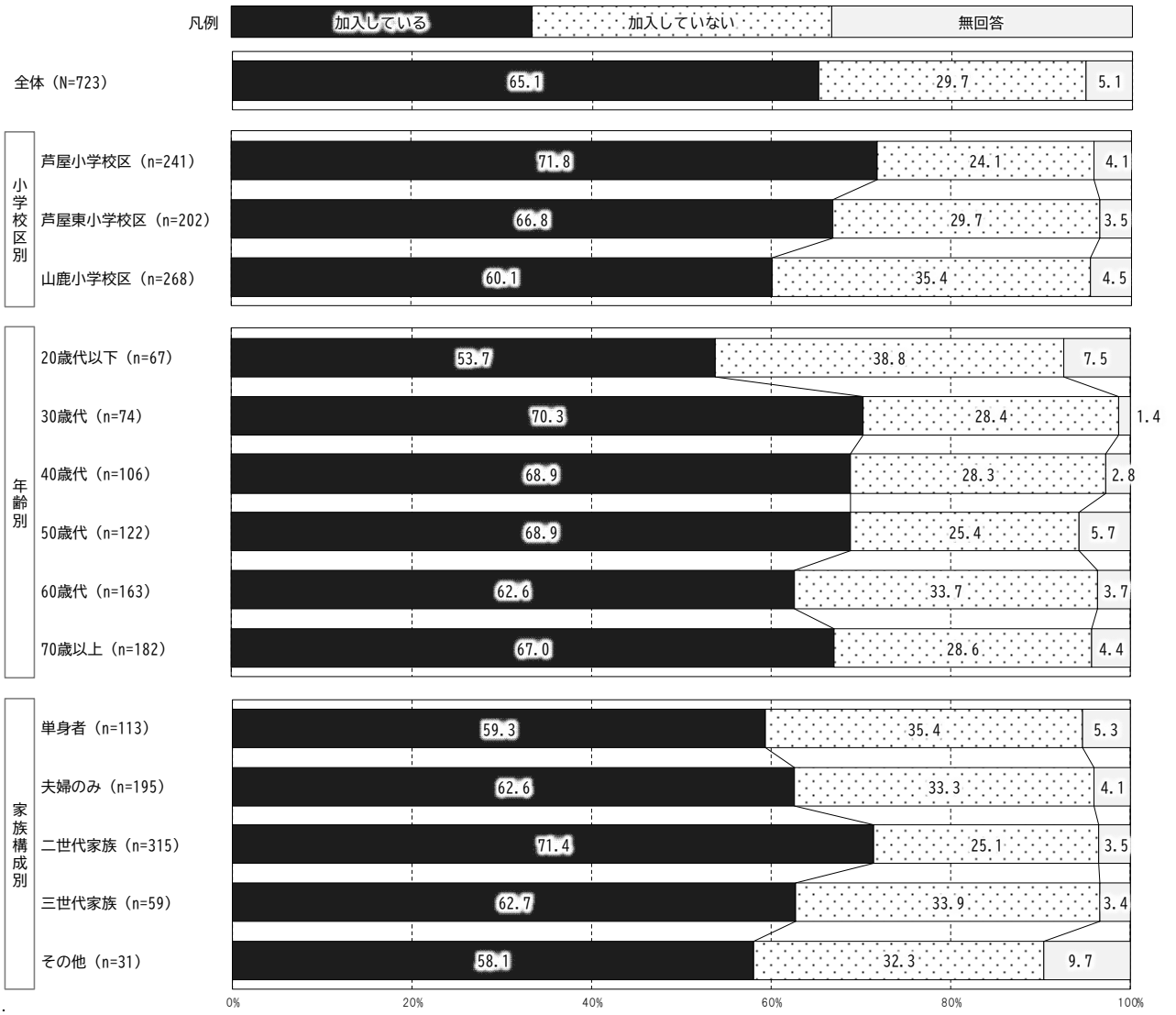
問 11　自治区に加入していますか。（１つに○）

自治区の加入状況をみると、「加入している」の割合（以下、「加入率」）は 65.1%で、６割以上を占めています。

小学校区別でみると、「加入率」は芦屋小学校区の 71.8%が最も高くなっています。

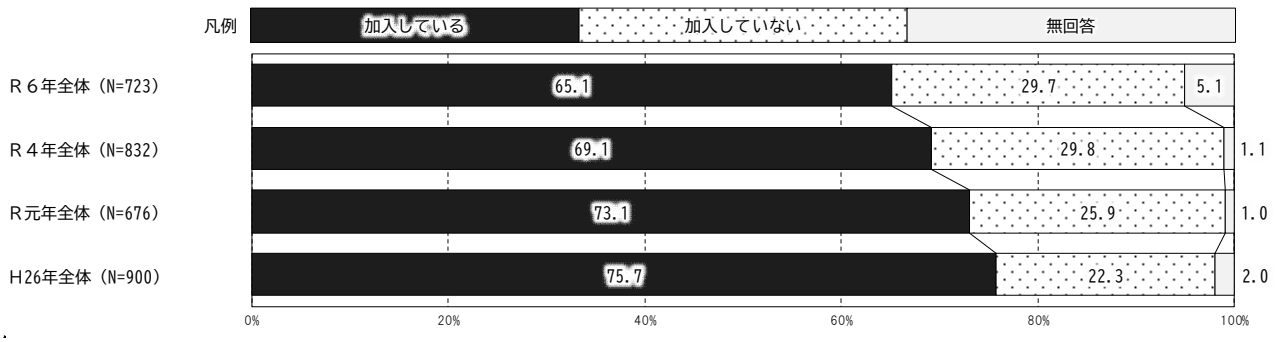
年齢別でみると、「加入率」は 60 歳代（62.6%）や 20 歳代以下（53.7%）でやや低めです。

家族構成別でみると、「加入率」は二世代家族が 71.4%で最も高くなっています。



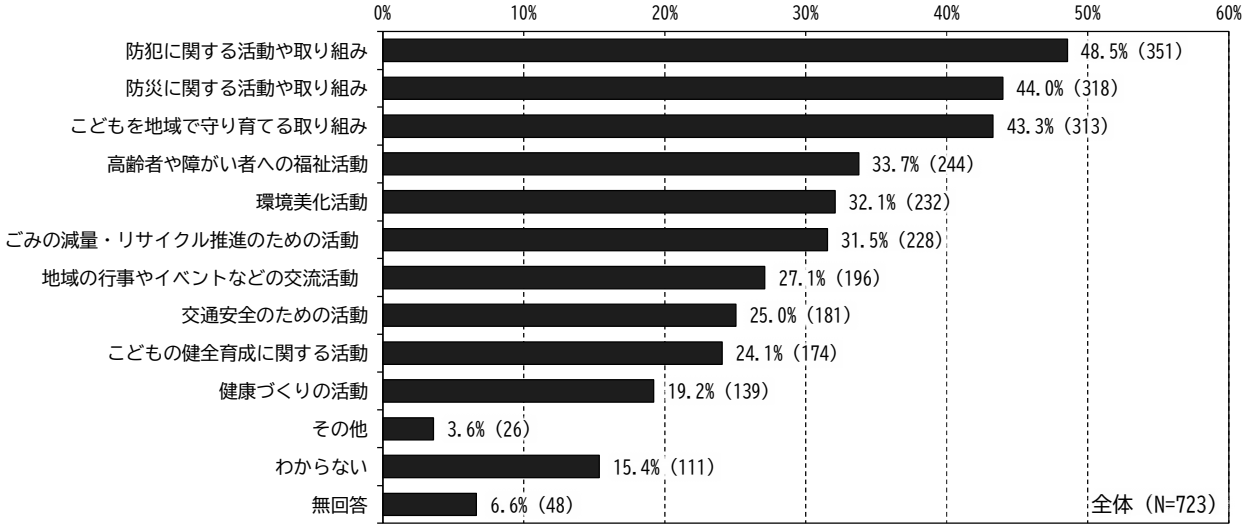
■過年度比較

過年度で比較すると、「加入率」は低下傾向となっています。



問 12　自治区の活動に今後どのような活動が必要だと思いますか。（複数回答）

自治区に今後必要な活動をみると、「防犯に関する活動や取り組み」の割合が 48.5%で最も高く、次いで「防災に関する活動や取り組み」が 44.0%、「こどもを地域で守り育てる取り組み」が 43.3%、「高齢者や障がい者への福祉活動」が 33.7%などの順となっています。



小学校別、性別でみると、「防犯に関する活動や取り組み」の割合が最も高くなっています。

年齢別でみると、30 歳代と 40 歳代は「こどもを地域で守り育てる取り組み」の割合が最も高くなっています。70 歳以上は「高齢者や障がい者への福祉活動」（46.2%）、「ごみの減量・リサイクル推進のための活動」（42.9%）、「地域の行事やイベントなどの交流活動」（37.9%）、「健康づくりの活動」（33.5%）の割合が他の年代より高くなっています。

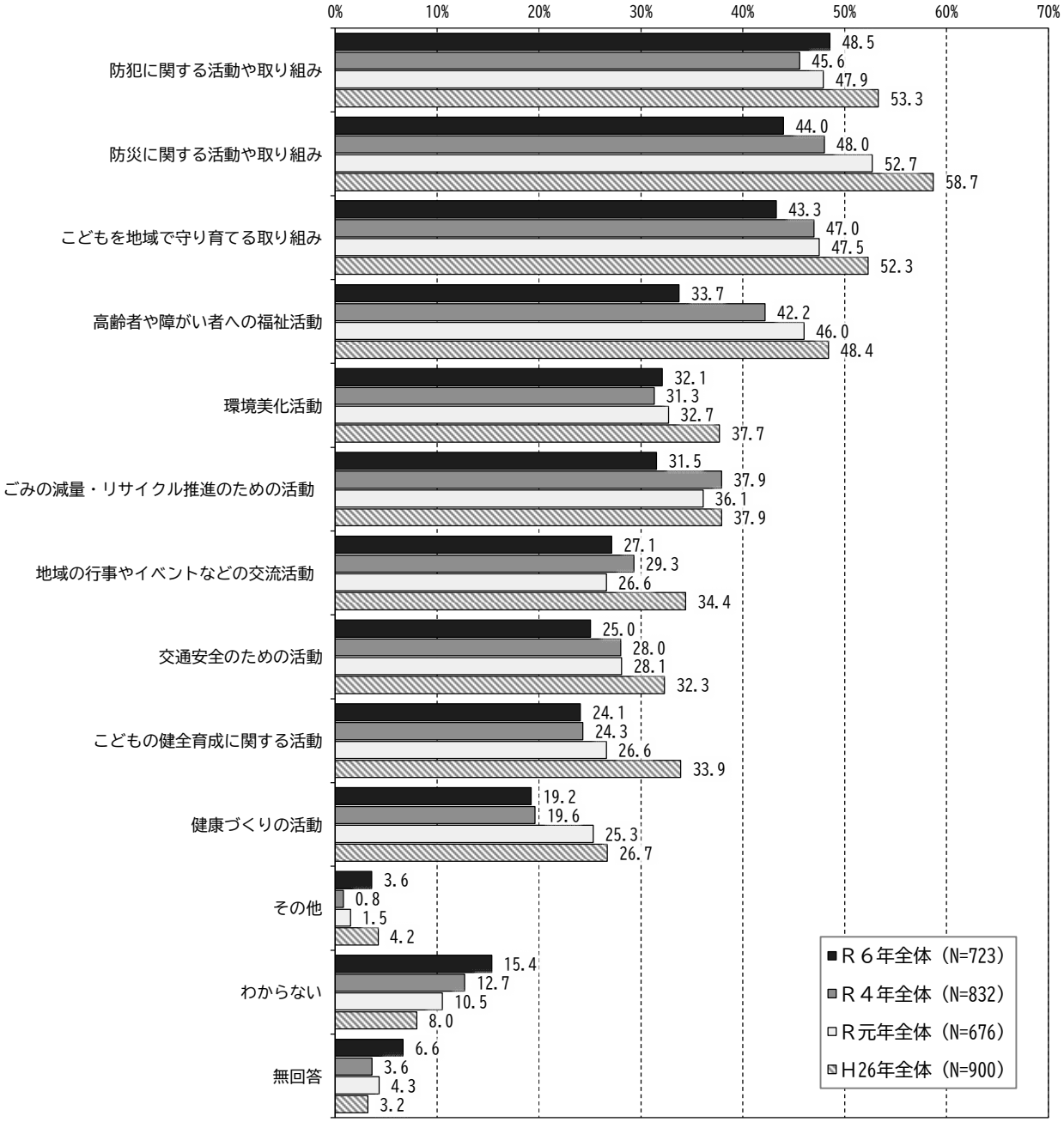
単位：%

		サンプル数（人）	防犯に関する活動や取り組み	防災に関する活動や取り組み	こどもを地域で守り育てる取り組み	高齢者や障がい者への福祉活動	環境美化活動	ごみの減量・リサイクル推進のための活動	地域の行事やイベントなどの交流活動	交通安全のための活動	こどもの健全育成に関する活動	健康づくりの活動	その他	わからない	無回答
全体		723	**48.5**	**44.0**	43.3	33.7	32.1	31.5	27.1	25.0	24.1	19.2	3.6	15.4	6.6
小学校区別	芦屋小学校区	241	**46.9**	**44.8**	41.5	36.9	30.3	32.4	28.6	21.6	25.3	19.1	27.0	18.7	6.2
	芦屋東小学校区	202	**52.5**	**45.0**	44.6	31.7	36.1	28.7	26.2	28.7	25.7	17.8	25.2	14.4	5.4
	山鹿小学校区	268	**48.1**	42.9	**44.8**	32.8	31.0	33.6	27.2	25.7	22.4	20.5	29.1	13.4	5.6
性別	男性	336	**47.6**	43.2	**44.9**	31.3	34.5	33.9	29.8	26.5	26.8	19.6	29.5	16.7	5.1
	女性	372	**50.0**	**45.4**	42.5	36.8	30.1	30.1	25.0	23.9	22.3	19.1	25.3	14.2	6.5
年齢別	20歳代以下	67	**38.8**	29.9	**34.3**	22.4	22.4	20.9	20.9	32.8	22.4	14.9	47.8	28.4	4.5
	30歳代	74	35.1	**37.8**	**48.6**	24.3	28.4	23.0	28.4	27.0	24.3	12.2	47.3	25.7	1.4
	40歳代	106	**43.4**	32.1	**47.2**	22.6	31.1	18.9	22.6	23.6	18.9	6.6	46.2	21.7	2.8
	50歳代	122	**51.6**	**45.9**	41.8	33.6	32.8	32.8	25.4	25.4	25.4	17.2	35.2	12.3	9.8
	60歳代	163	**55.8**	**52.8**	47.2	37.4	34.4	35.6	22.1	20.2	22.7	17.8	12.9	11.7	4.3
	70歳以上	182	**53.8**	**50.5**	41.2	46.2	36.3	42.9	37.9	26.9	28.6	33.5	7.7	8.8	8.2

※ **■** は１番多い項目、 ■ は２番目に多い項目を示している

■過年度比較

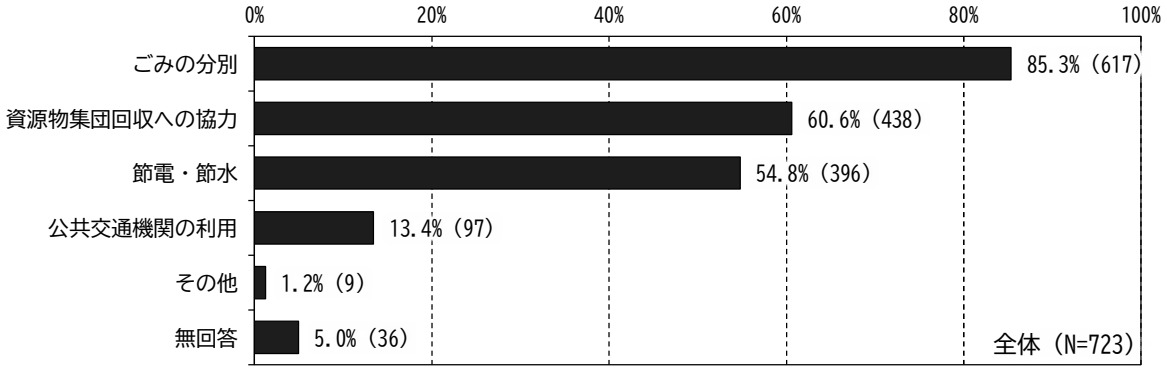
過年度で比較すると、多くの項目が低下傾向となっています。「わからない」の割合の上昇と併せて、加入率の低下とともに関心の低下がうかがえます。



◆環境問題への取り組みについて

問 13　日ごろから環境問題について、どのような取り組みをされていますか。（複数回答）

環境問題への取り組みをみると、「ごみの分別」の割合が 85.3%で最も高く、次いで「資源物集団回収への協力」が 60.6%「節電・節水」が 54.8%などの順となっています。



小学校区別でみると、山鹿小学校区では「節電・節水」（59.3%）の割合が他の校区よりやや高くなっています。

性別でみると、「資源物集団回収への協力」の割合は、女性（65.1%）の方が男性（56.5%）より高くなっています。

年齢別でみると、「ごみの分別」の割合は、60 歳代（90.8%）が最も高く、20 歳代以下（74.6%）で最も低くなっています。20 歳代以下では「資源物集団回収への協力」（32.8%）と「節電・節水」（37.3%）の割合が他の年代より低い一方で、「公共交通機関の利用」（20.9%）の割合は他の年代より高くなっています。

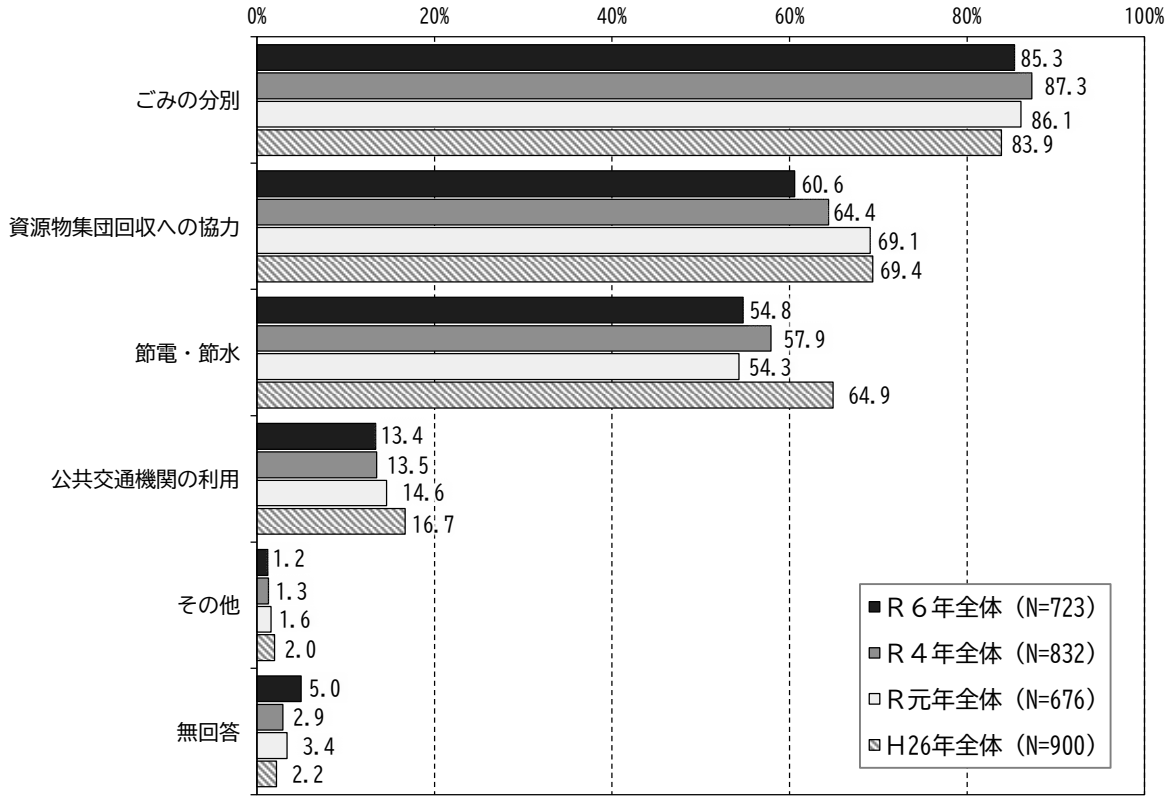
単位：%

		サンプル数（人）	ごみの分別	資源物集団回収への協力	節電・節水	公共交通機関の利用	その他	無回答
全体		723	**85.3**	**60.6**	54.8	13.4	1.2	5.0
小学校区別	芦屋小学校区	241	**85.5**	**63.5**	51.5	15.4	0.4	20.7
	芦屋東小学校区	202	**84.2**	**60.4**	54.5	13.4	2.0	22.8
	山鹿小学校区	268	**88.4**	**59.7**	59.3	11.6	1.5	20.5
性別	男性	336	**84.8**	**56.5**	56.3	14.9	1.5	27.1
	女性	372	**87.1**	**65.1**	54.8	11.8	1.1	15.6
年齢別	20歳代以下	67	**74.6**	32.8	**37.3**	20.9	0.0	35.8
	30歳代	74	**86.5**	48.6	**54.1**	10.8	1.4	32.4
	40歳代	106	**86.8**	**56.6**	52.8	13.2	2.8	30.2
	50歳代	122	**86.1**	**57.4**	54.9	13.9	1.6	19.7
	60歳代	163	**90.8**	**69.9**	55.2	8.6	1.2	17.2
	70歳以上	182	**85.7**	**73.6**	64.3	15.4	0.5	11.0

※ ■は１番多い項目、 □は２番目に多い項目を示している

■過年度比較

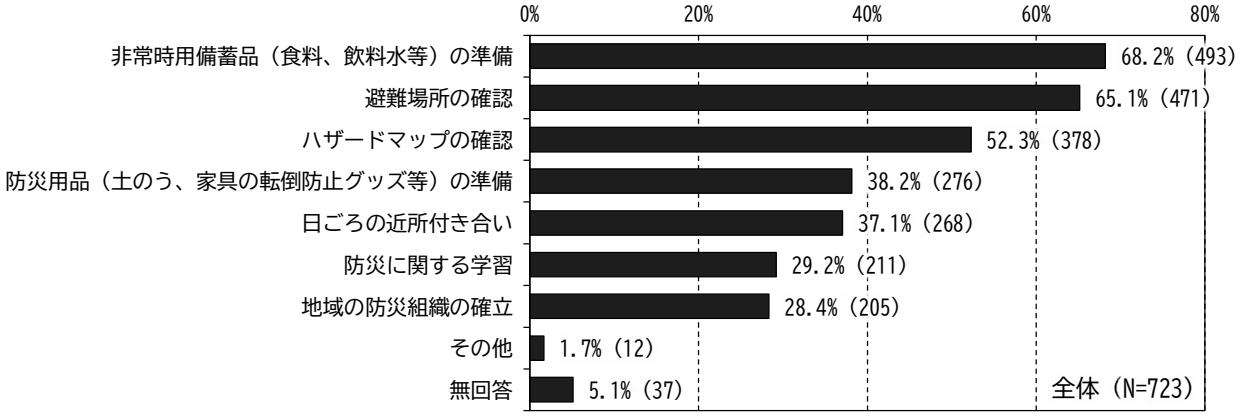
過年度で比較すると、「ごみの分別」の割合は常に８割を超えています。一方で、他の項目は減少傾向となっています。



◆防災について

問 14-1　地震や風水害に備えてどのようなことが必要と考えていますか。（複数回答）

災害への備えをみると、「非常時用備蓄品（食料、飲料水等）の準備」の割合が 68.2%で最も高く、次いで「避難場所の確認」が 65.1%、「ハザードマップの確認」が 52.3%などの順となっています。



小学校区別でみると、芦屋小学校区では「避難場所の確認」（70.1%）が「非常時用備蓄品（食料、飲料水等）の準備」（64.3%）の割合より高くなっています。

性別でみると、大きな差はありませんが、「非常時用備蓄品（食料、飲料水等）の準備」と「避難場所の確認」の割合で女性の方が男性より高くなっています。

年齢別でみると、30 歳代では「防災用品（土のう、家具の転倒防止グッズ等）の準備」（55.4%）、40 歳代以下では「防災に関する学習」（6 割以上）、70 歳以上では「日ごろの近所付き合い」（61.5%）の割合が他の年代に比べて高くなっています。

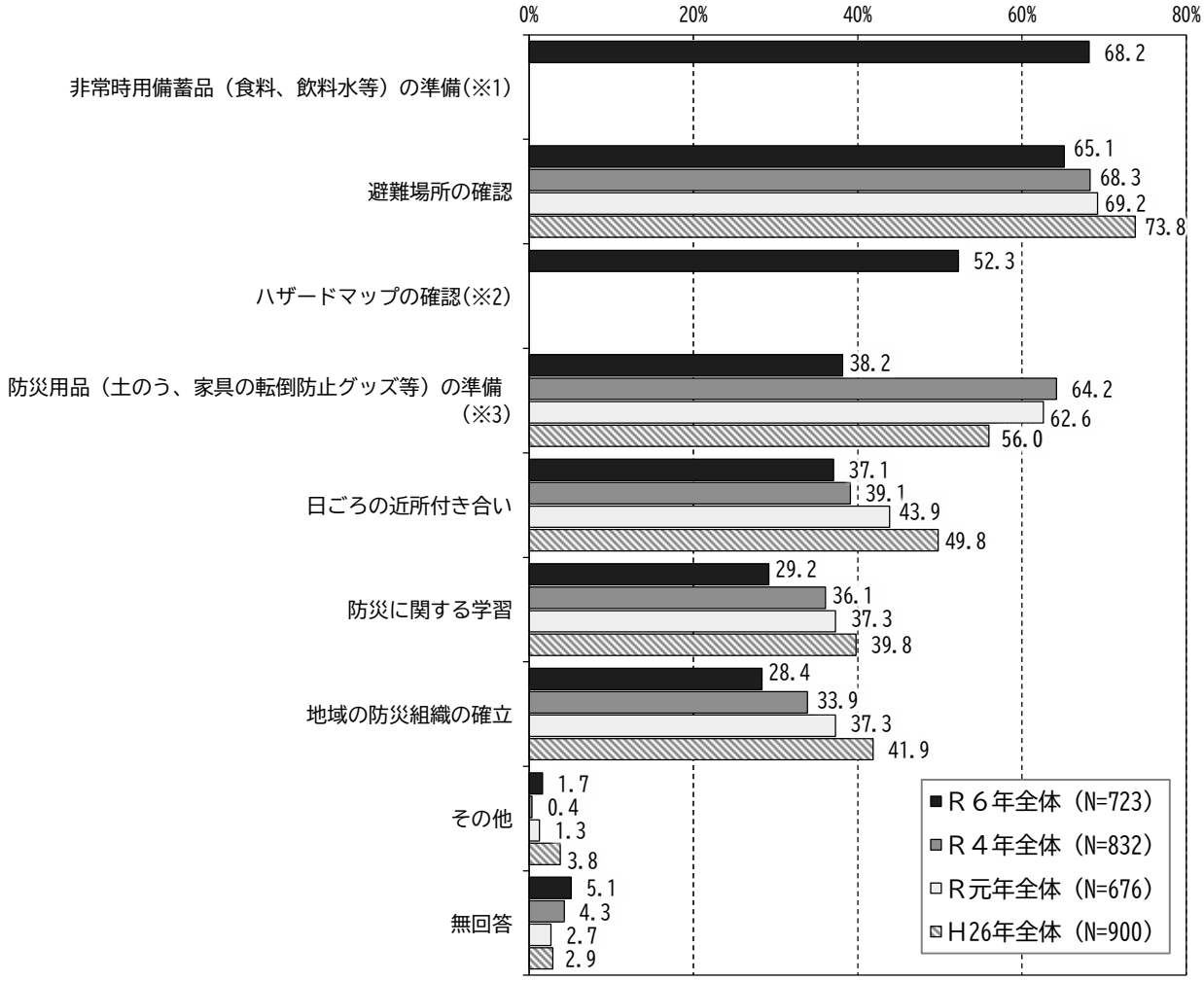
単位：%

		サンプル数（人）	非常時用備蓄品（食料、飲料水等）の準備	避難場所の確認	ハザードマップの確認	防災用品（土のう、家具の転倒防止グッズ等）の準備	日ごろの近所付き合い	防災に関する学習	地域の防災組織の確立	その他	無回答
全体		723	**68.2**	**65.1**	52.3	38.2	37.1	29.2	28.4	1.7	5.1
小学校区別	芦屋小学校区	241	64.3	**70.1**	55.6	40.7	39.4	47.7	29.5	0.8	6.2
	芦屋東小学校区	202	**72.8**	64.9	49.5	39.6	39.1	44.1	27.2	3.0	3.0
	山鹿小学校区	268	**69.8**	63.1	51.9	36.2	34.3	46.6	28.4	1.1	3.7
性別	男性	336	**66.7**	**63.1**	52.4	38.1	37.2	46.4	28.6	1.8	3.3
	女性	372	**70.4**	**68.8**	52.7	39.2	37.9	46.2	28.5	1.3	5.1
年齢別	20歳代以下	67	**64.2**	**64.2**	43.3	38.8	19.4	61.2	19.4	－	4.5
	30歳代	74	**77.0**	**70.3**	59.5	55.4	25.7	62.2	24.3	2.7	1.4
	40歳代	106	**68.9**	**65.1**	52.8	34.9	29.2	61.3	20.8	1.9	2.8
	50歳代	122	**68.0**	**67.2**	61.5	39.3	32.8	54.1	36.1	1.6	5.7
	60歳代	163	**73.0**	**62.0**	54.0	41.7	31.3	33.7	22.7	1.8	3.7
	70歳以上	182	**63.7**	**67.6**	45.6	30.2	61.5	30.8	38.5	1.6	6.0

※**■**は１番多い項目、□は２番目に多い項目を示している

■過年度比較

過年度で比較すると、「避難所の確認」の割合は常に７割近くとなっています。また、令和４年度調査と比較すると、「防災用品（土のう、家具の転倒防止グッズ等）の準備」の割合は 26 ポイントと大きく低下し、今回の令和６年度調査より追加した「非常時用備蓄品（食料、飲料水等）の準備」は非常に高い割合となっています。これは、選択肢の追加や一部変更したことによるものと考えられます。



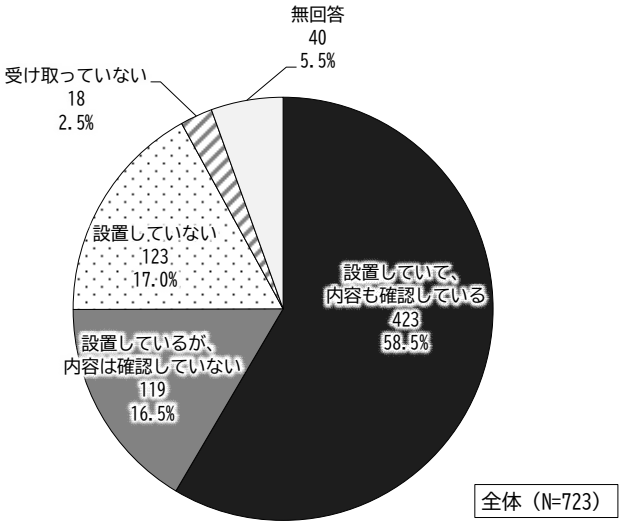
（※1）非常時用備蓄品（食料、飲料水等）の準備は H26 年、R 元年、R４年では設定なし

（※2）ハザードマップの確認は H26 年、R 元年、R４年では設定なし

（※3）防災用品（土のう、家具の転倒防止グッズ等）の準備は R６年に防災用品の準備から変更

問 14-２　地域情報伝達システムの戸別受信機の設置状況について教えてください。
（１つに○）

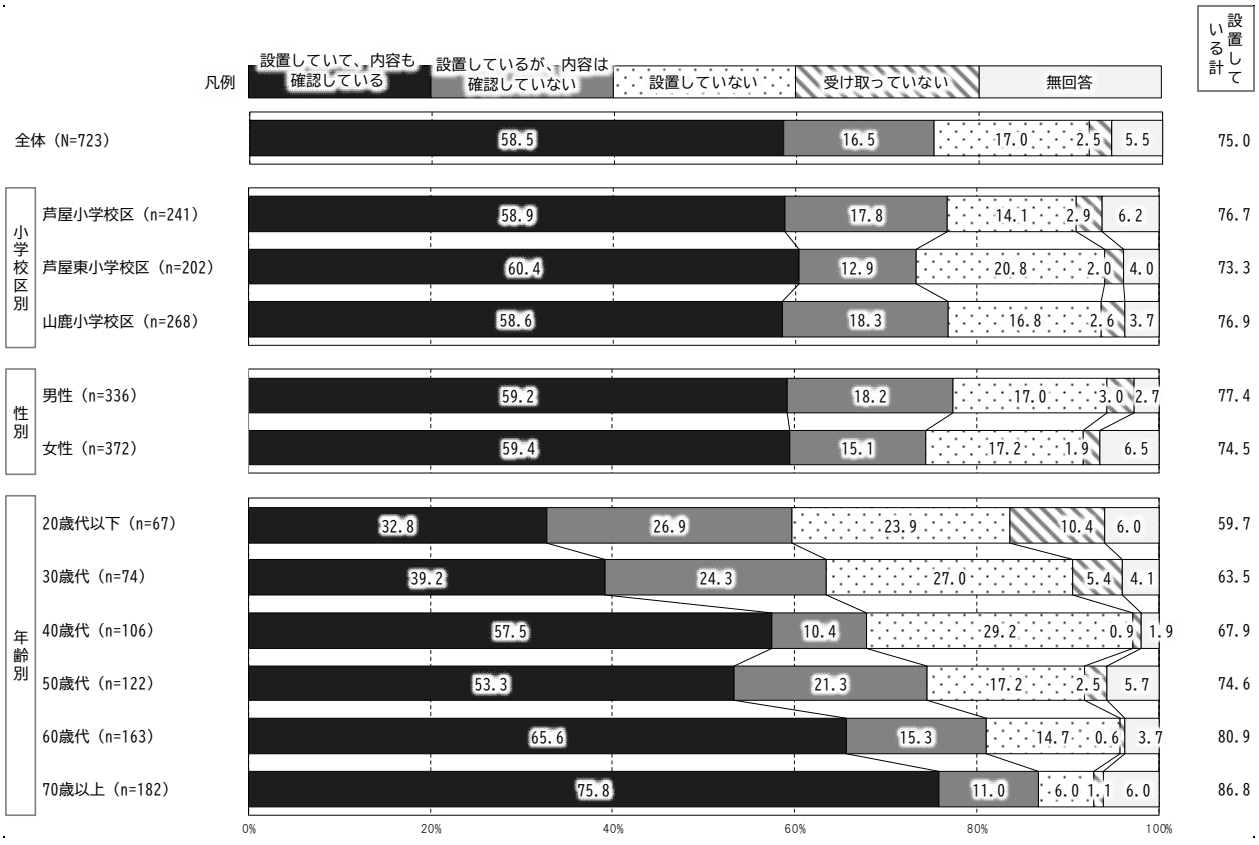
戸別受信機の設置状況をみると、「設置していて、内容も確認している」の割合は 58.5%、「設置しているが、内容は確認していない」は 16.5%で、２つを合わせた『設置している』の割合は 75.0%となっています。一方、「設置していない」は 17.0%、「受け取っていない」は 2.5%となっています。



小学校区別でみると、『設置している』の割合に大きな差はありません。

性別でみると、「設置しているが、内容は確認していない」の割合は、男性（18.2%）の方が女性（15.1%）より高くなっています。

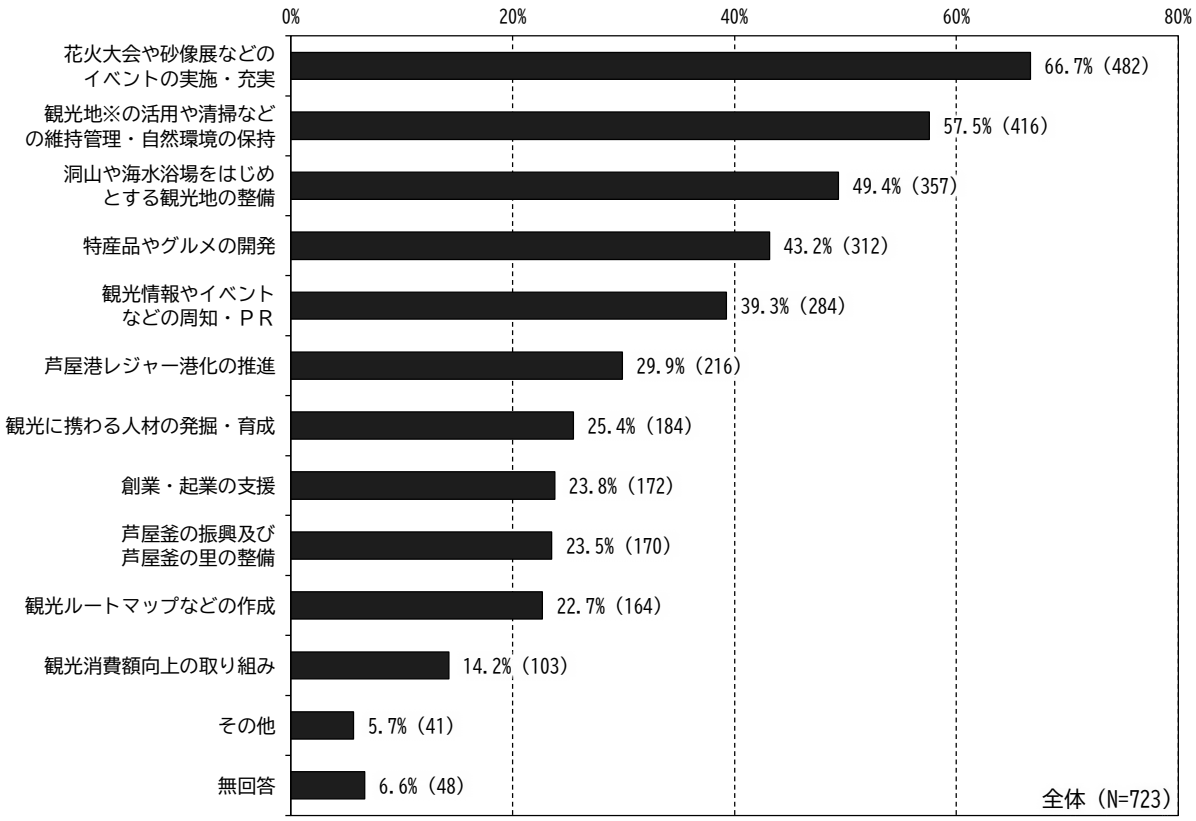
年齢別でみると、『設置している』の割合は 20 歳代以下が 59.7%で最も低く、年齢が高くなるほどその割合は高くなっており、70 歳以上の 86.8%が最も高くなっています。30 歳代と 40 歳代では、「設置していない」の割合が約３割になっています。



◆観光の活性化について

問 15　町の観光をより推進するために、今後どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。（複数回答）

観光の活性化のためにすべき取り組みをみると、「花火大会や砂像展などのイベントの実施・充実」の割合が 66.7%で最も高く、次いで「観光地の活用や清掃などの維持管理・自然環境の保持」が 57.5%、「洞山や海水浴場をはじめとする観光地の整備」が 49.4%などの順となっています。



※夏井ヶ浜はまゆう公園、海浜公園、レジャープールアクアシアン、芦屋海岸、洞山など

小学校区別でみると、山鹿小学校区では「観光地の活用や清掃などの維持管理・自然環境の保持」（64.6%）の割合が他の校区よりも高くなっています。

性別でみると、「芦屋港レジャー港化の推進」と「創業・起業の支援」の割合は、男性の方が女性よりもやや高くなっています。

年齢別でみると、30 歳代は「観光消費額向上の取り組み」（21.6%）と「花火大会や砂像展などのイベントの実施・充実」（82.4%）の割合が他の年代よりも高くなっています。

単位：%

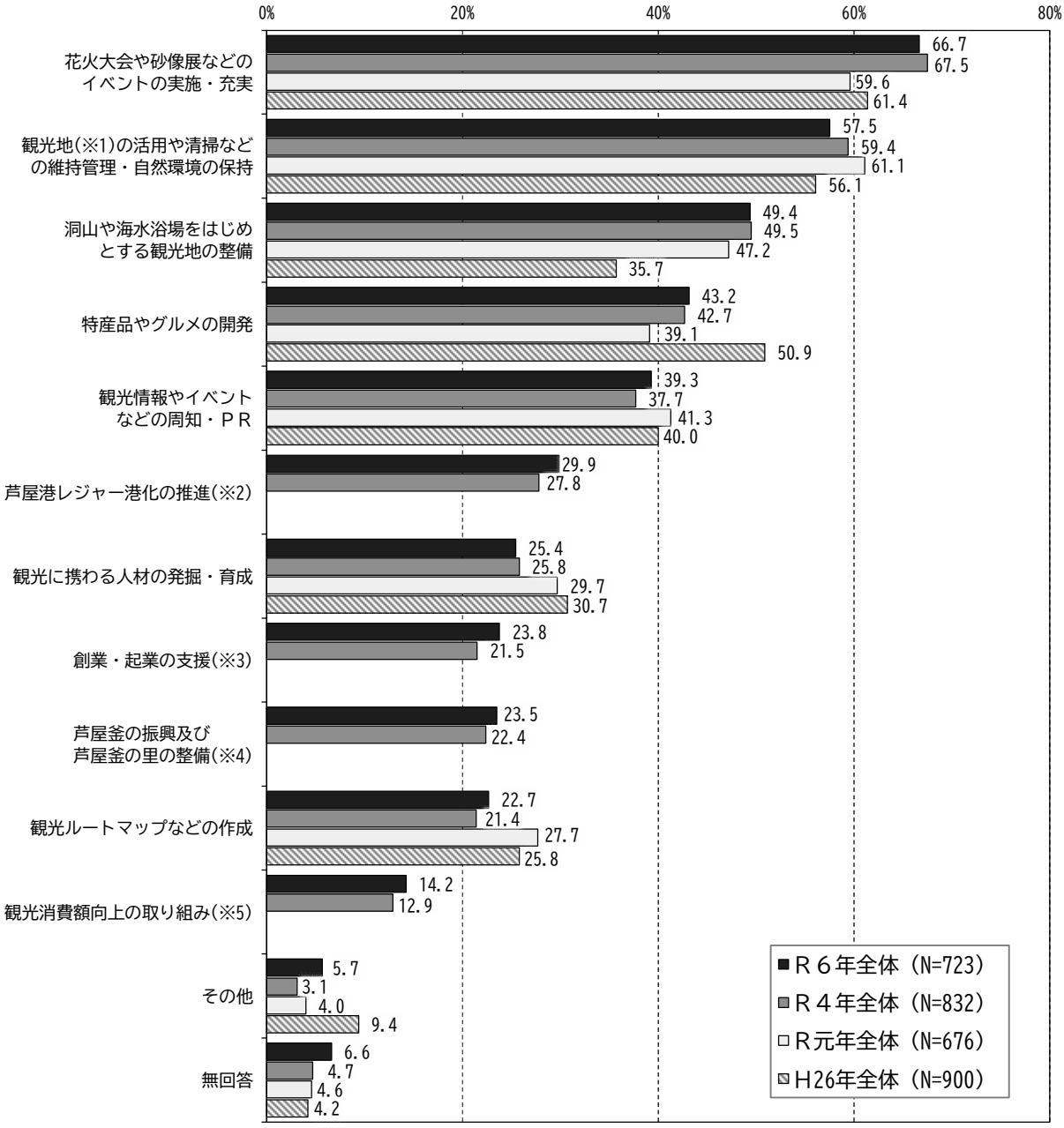
		サンプル数（人）	花火大会や砂像展などのイベントの実施・充実	観光地※の活用や清掃などの維持管理・自然環境の保持	洞山や海水浴場をはじめとする観光地の整備	特産品やグルメの開発	観光情報やイベントなどの周知・PR	芦屋港レジャー港化の推進	観光に携わる人材の発掘・育成	創業・起業の支援	芦屋釜の振興及び芦屋釜の里の整備	観光ルートマップなどの作成	観光消費額向上の取り組み	その他	無回答
全体		723	**66.7**	**57.5**	49.4	43.2	39.3	29.9	25.4	23.8	23.5	22.7	14.2	5.7	6.6
小学校区別	芦屋小学校区	241	**70.5**	**54.4**	51.5	37.8	40.2	30.7	24.5	24.5	25.3	22.8	12.0	6.6	5.8
	芦屋東小学校区	202	**60.9**	**54.0**	46.0	44.1	35.6	32.7	24.3	19.3	22.8	23.3	13.4	5.0	6.4
	山鹿小学校区	268	**69.0**	**64.6**	51.9	48.9	42.2	28.4	28.4	27.2	23.5	22.8	17.5	4.9	5.2
性別	男性	336	**67.0**	**57.7**	50.0	44.6	40.8	33.9	24.7	27.4	24.7	21.7	16.4	6.3	3.9
	女性	372	**68.0**	**58.6**	50.5	42.5	38.7	27.2	26.6	20.4	23.4	24.5	12.4	4.8	7.5
年齢別	20歳代以下	67	**74.6**	**59.7**	55.2	37.3	40.3	26.9	26.9	20.9	10.4	19.4	7.5	3.0	4.5
	30歳代	74	**82.4**	**67.6**	52.7	43.2	37.8	36.5	27.0	25.7	21.6	21.6	21.6	4.1	1.4
	40歳代	106	**72.6**	**57.5**	48.1	49.1	42.5	36.8	24.5	29.2	19.8	18.9	15.1	6.6	2.8
	50歳代	122	**59.8**	50.8	**54.1**	47.5	42.6	30.3	27.0	25.4	27.9	21.3	15.6	7.4	8.2
	60歳代	163	**65.0**	**58.9**	51.5	41.1	44.2	29.4	28.8	21.5	25.8	24.5	11.7	4.9	6.1
	70歳以上	182	**62.1**	**58.2**	44.0	42.3	32.4	25.8	22.0	22.5	27.5	26.9	15.4	6.0	7.7

※ **■** は１番多い項目、 ■ は２番目に多い項目を示している

※ 夏井ヶ浜はまゆう公園、海浜公園、レジャープールアクアシアン、芦屋海岸、洞山など

■過年度比較

過年度で比較すると、「花火大会や砂像展などのイベントの実施・充実」と「観光地の活用や清掃などの維持管理・自然環境の保持」が５割を超えるなど全体の傾向に大きな変化はありませんが、「観光に携わる人材の発掘・育成」は低下を続けています。



（※1）夏井ヶ浜はまゆう公園、海浜公園、レジャープールアクアシアン、芦屋海岸、洞山など
（※2）「芦屋港レジャー港化の推進」はH26 年、Ｒ元年では設定なし
（※3）「創業・起業の支援」はH26 年、Ｒ元年では設定なし
（※4）「芦屋釜の振興及び芦屋釜の里の整備」はH26 年、Ｒ元年では設定なし
（※5）「観光消費額向上の取り組み」はH26 年、Ｒ元年では設定なし

◆教育について

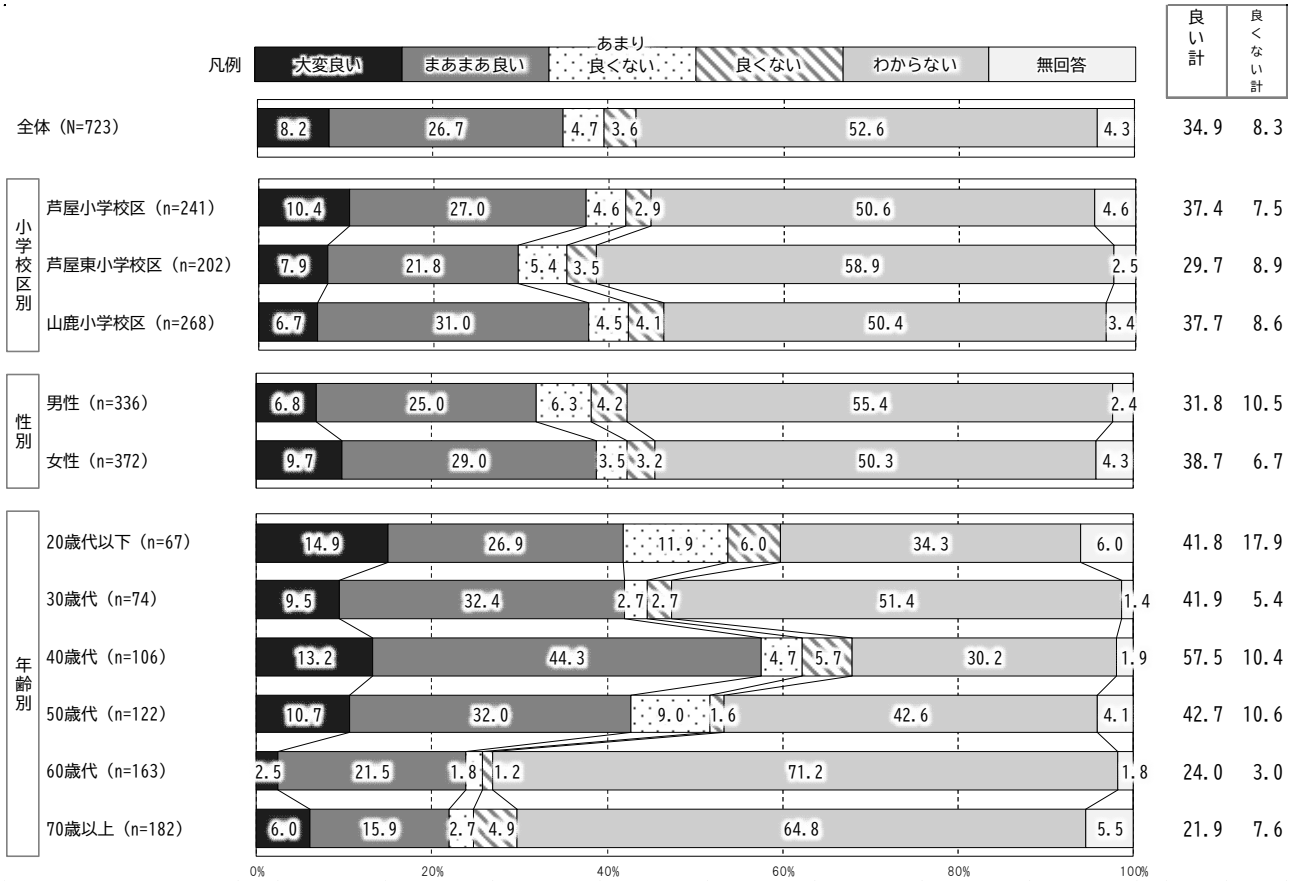
問 16　町の小中学校の教育についてどう評価しますか。（１つに○）

町の小中学校の教育に対する評価をみると、「大変良い」が 8.2%、「まあまあ良い」が 26.7%で合計 34.9%が『良い』と評価しています。一方、「あまり良くない」が 4.7%、「良くない」が 3.6%で合計 8.3%が『良くない』と評価しています。また、「わからない」は 52.6%で半数を占めています。

小学校区別でみると、『良い』の割合は芦屋東小学校区の 29.7%が最も低くなっています。

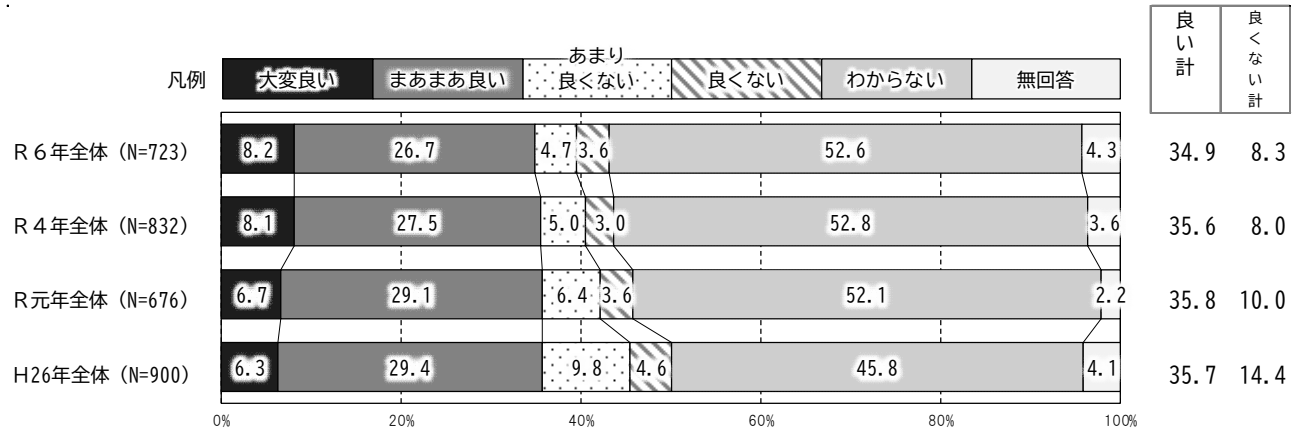
性別でみると、『良い』の割合は女性（38.7%）の方が男性（31.8%）より高くなっています。

年齢別でみると、『良い』の割合は 50 歳代以下で高い傾向があり、40 歳代が 57.5%で最も高く、70 歳以上が 21.9%で最も低くなっています。



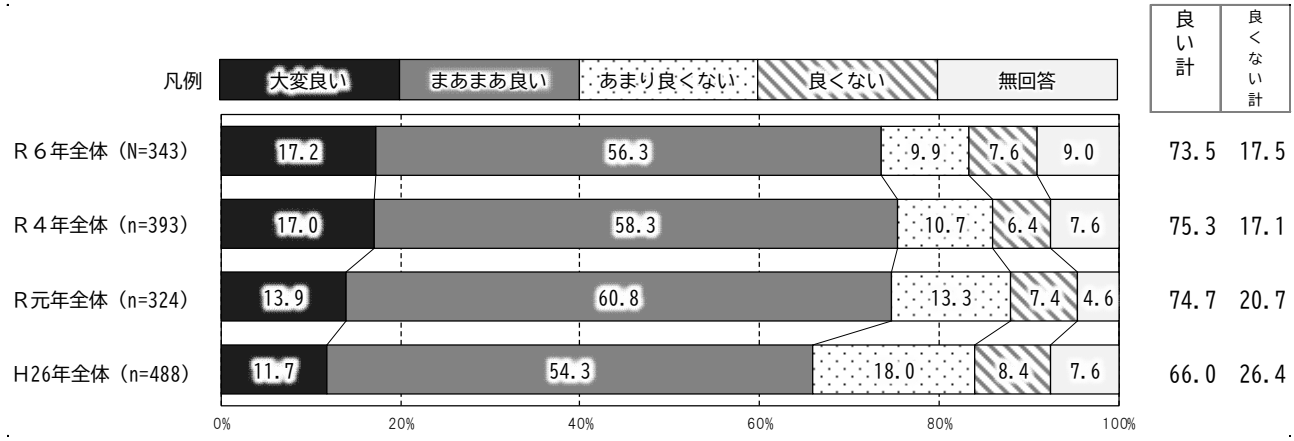
■過年度比較

過年度で比較すると、『良い』の割合に大きな変化はありません。ただし、「わからない」の割合は約５割となっています。



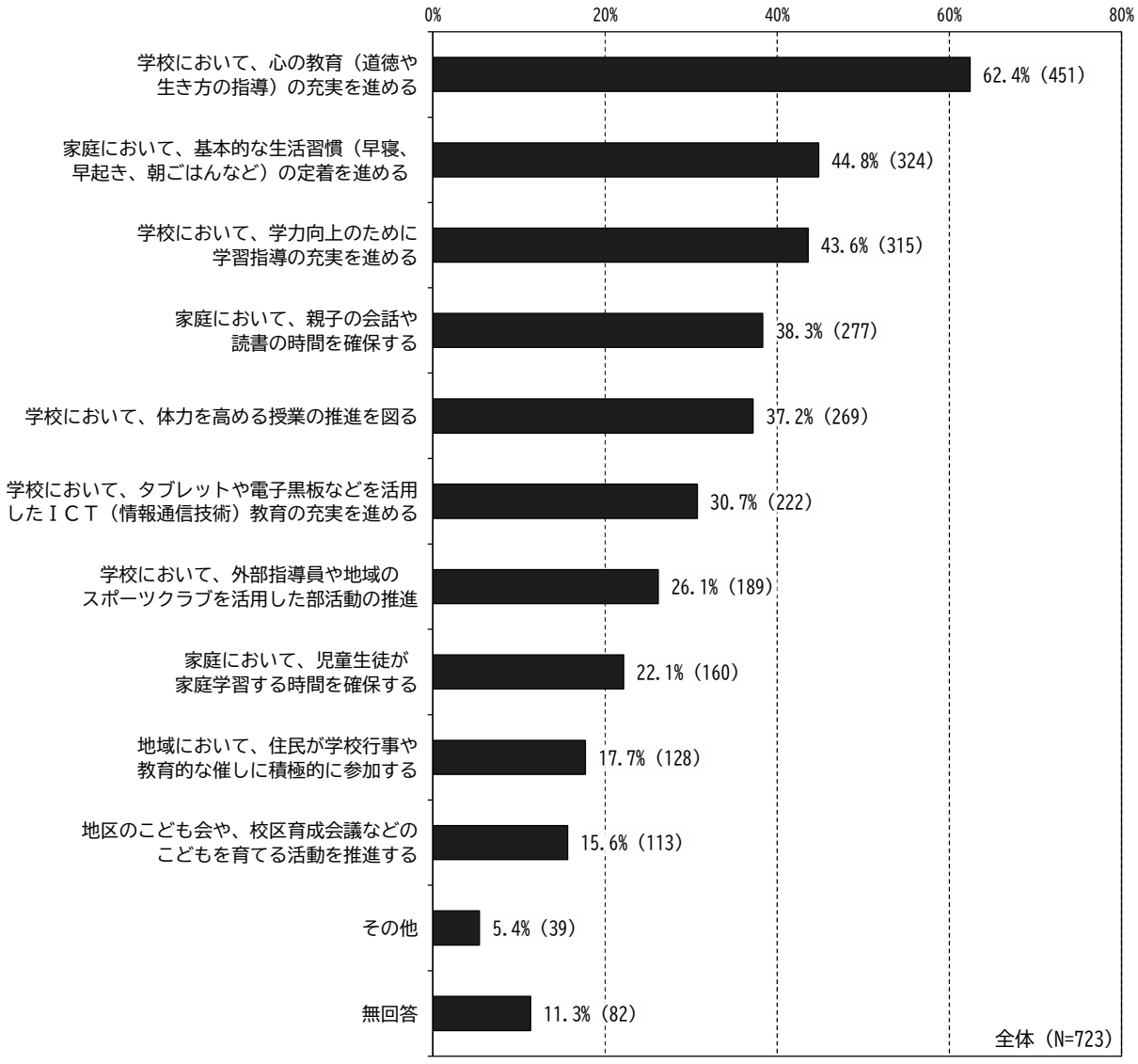
■過年度比較（参考：「わからない」を除く）

本設問については、「わからない」との回答が約５割となっています。このため、参考として「わからない」を除いた過年度比較を掲載します。



問 17　町の小中学生等に対する教育を向上するために、今後どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。（複数回答）

小中学生の教育向上のために力を入れるべきことをみると、「学校において、心の教育（道徳や生き方の指導）の充実を進める」が 62.4%で最も高く、次いで、「家庭において、基本的な生活習慣（早寝、早起き、朝ごはんなど）の定着を進める」が 44.8%、「学校において、学力向上のために学習指導の充実を進める」が 43.6%、「家庭において、親子の会話や読書の時間を確保する」が 38.3%などの順となっています。



小学校区別でみると、芦屋東小学校区では「学校において、体力を高める授業の推進を図る」、山鹿小学校区では「学校において、心の教育（道徳や生き方の指導）の充実を進める」、「家庭において、親子の会話や読書の時間を確保する」の割合が他の校区と比べて高くなっています。

性別でみると、大きな差はありません。

年齢別でみると、どの年代も「学校において、心の教育（道徳や生き方の指導）の充実を進める」の割合が最も高く、続くものとして30歳代以下では「学校において、学力向上のために学習指導の充実を進める」、40 歳代は「学校において、体力を高める授業の推進を図る」、50歳代以上では「家庭において、基本的な生活習慣（早寝、早起き、朝ごはんなど）の定着を進める」の割合が高くなっています。また、30歳代では「地区のこども会や、校区育成会議などのこどもを育てる活動を推進する」の割合が他の年代より高くなっています。

単位：%

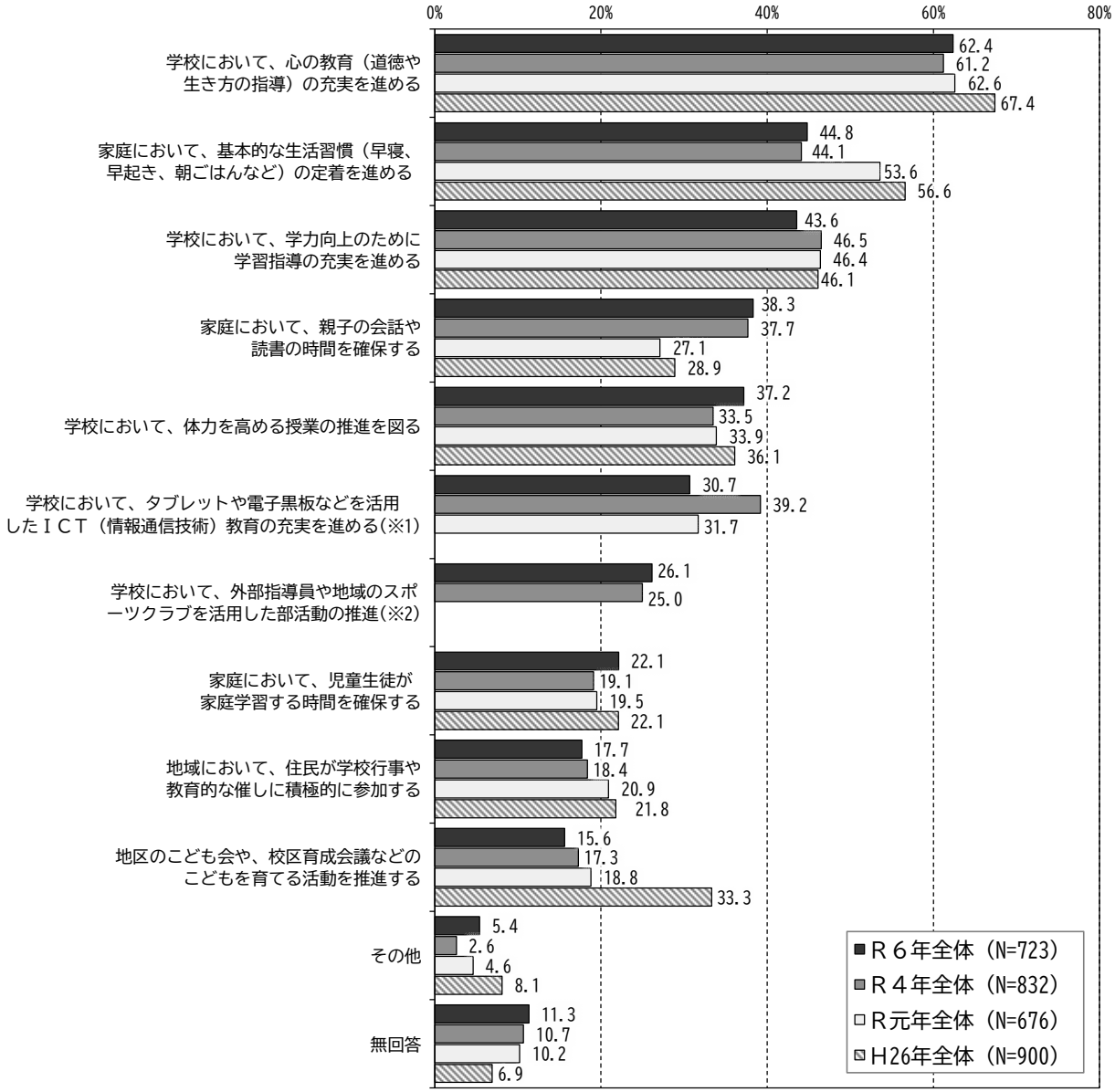
		サンプル数（人）	学校において、心の教育（道徳や生き方の指導）の充実を進める	家庭において、基本的な生活習慣（早寝、早起き、朝ごはんなど）の定着を進める	学校において、学力向上のために学習指導の充実を進める	家庭において、親子の会話や読書の時間を確保する	学校において、体力を高める授業の推進を図る	学校において、タブレットや電子黒板などを活用したICT（情報通信技術）教育の充実を進める	学校において、外部指導員や地域のスポーツクラブを活用した部活動の推進を図る	家庭において、児童生徒が家庭学習する時間を確保する	地域において、住民が学校行事や教育的な催しに積極的に参加する	地区のこども会や、校区育成会議などのこどもを育てる活動を推進する	その他	無回答
全体		723	**62.4**	**44.8**	43.6	38.3	37.2	30.7	26.1	22.1	17.7	15.6	5.4	11.3
小学校区別	芦屋小学校区	241	**58.1**	**43.6**	43.2	37.3	35.3	26.6	24.5	22.4	19.1	16.6	9.1	12.0
	芦屋東小学校区	202	**62.9**	**46.0**	44.1	34.7	42.6	31.7	29.7	19.3	18.3	17.3	4.0	11.4
	山鹿小学校区	268	**67.5**	**46.6**	45.1	42.9	36.2	34.3	25.7	24.6	16.4	13.8	3.4	7.8
性別	男性	336	**61.0**	44.9	**45.5**	37.2	38.1	31.0	23.5	22.3	19.0	16.7	6.5	10.1
	女性	372	**64.8**	**45.4**	42.5	40.1	37.1	30.9	28.8	22.6	16.9	15.1	4.3	10.8
年齢別	20歳代以下	67	**64.2**	40.3	**52.2**	47.8	31.3	31.3	26.9	25.4	19.4	10.4	4.5	7.5
	30歳代	74	**66.2**	40.5	**50.0**	40.5	44.6	31.1	20.3	23.0	13.5	23.0	6.8	5.4
	40歳代	106	**68.9**	45.3	45.3	34.9	**48.1**	37.7	26.4	23.6	16.0	12.3	4.7	2.8
	50歳代	122	**59.8**	**48.4**	40.2	34.4	35.2	32.0	32.0	23.0	18.9	15.6	6.6	13.1
	60歳代	163	**66.9**	**42.3**	39.9	38.7	34.4	28.8	24.5	20.9	18.4	13.5	3.7	9.2
	70歳以上	182	**56.6**	**49.5**	44.0	39.6	35.2	28.0	26.4	20.9	18.7	18.7	6.6	17.0

※ は１番多い項目、 は２番目に多い項目を示している

■過年度比較

過年度で比較すると、「地域において、住民が学校行事や教育的な催しに積極的に参加する」と「地区のこども会や、校区育成会議などのこどもを育てる活動を推進する」の減少が続いています。

また、令和４年度調査と比較すると、「学校において、体力を高める授業の推進を図る」の割合が 3.7 ポイント上昇しています。



（※1）「学校において、タブレットや電子黒板などを活用したＩＣＴ（情報通信技術）教育の充実を進める」はH26 年では設定なし

（※2）「学校において、外部指導員や地域のスポーツクラブを活用した部活動の推進」はH26 年、Ｒ元年では設定なし

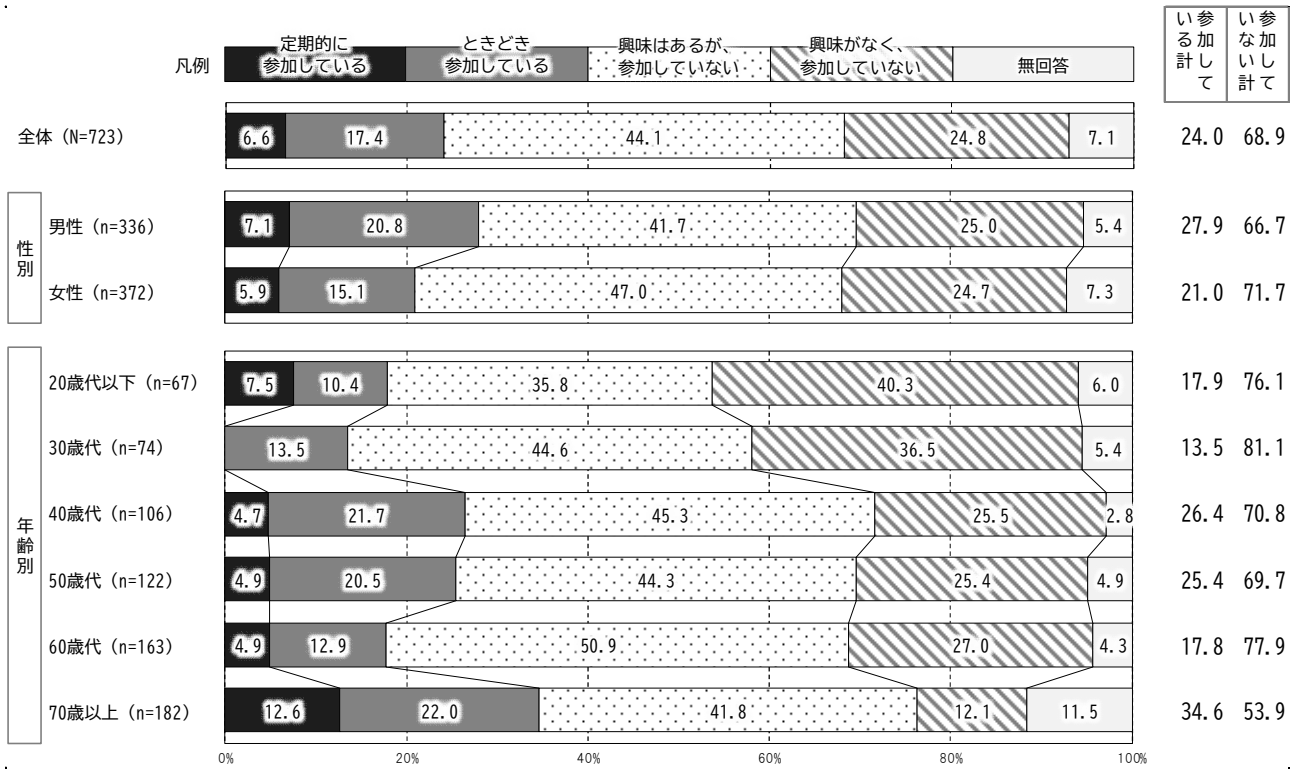
◆協働のまちづくりについて

問 18　ボランティア活動に参加していますか。（１つに○）

ボランティア活動への参加状況をみると、「定期的に参加している」が 6.6%、「ときどき参加している」が 17.4%で、２つを合わせた『参加している』の割合は 24.0%となっています。一方、「興味はあるが、参加していない」が 44.1%、「興味がなく、参加していない」が 24.8%で、２つを合わせた『参加していない』の割合は 68.9%で、『参加している』を大きく上回っています。

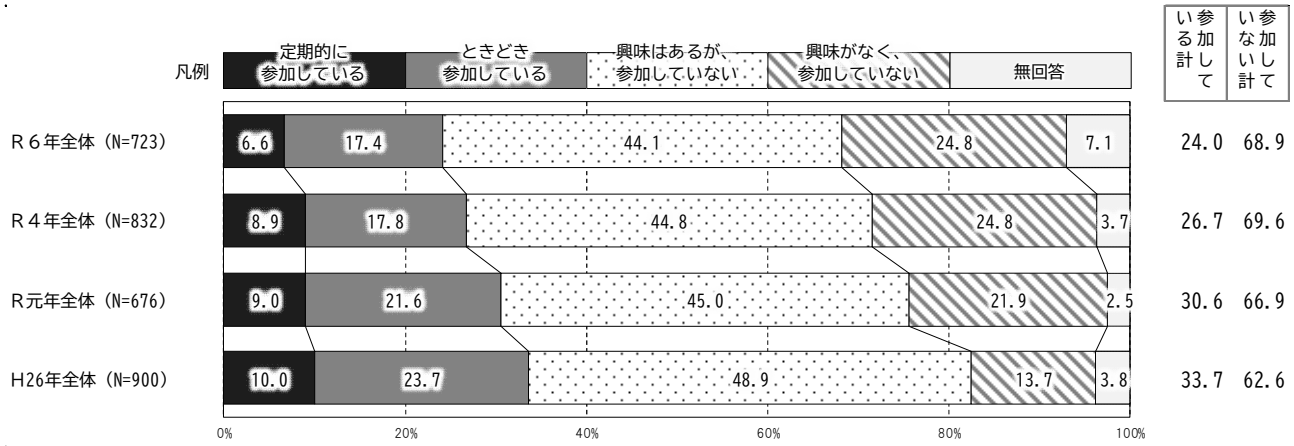
性別でみると、『参加している』の割合は男性（27.9%）の方が女性（21.0%）よりも高くなっています。

年齢別でみると、70 歳以上は『参加している』の割合は 34.6%で最も高くなっています。



■過年度比較

過年度で比較すると、『参加している』の割合は低下傾向となっています。

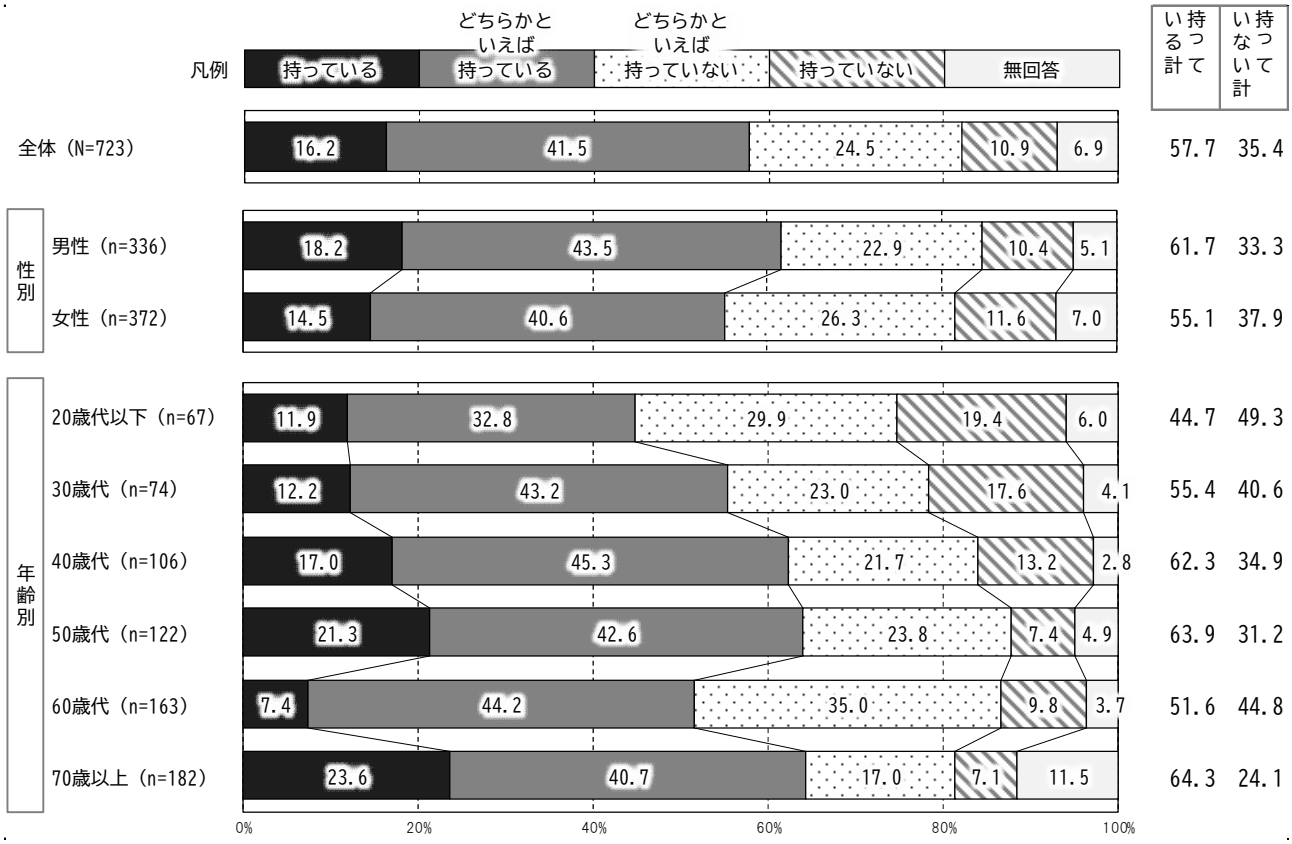


問 19　町の計画や取り組みについて関心を持っていますか。（１つに○）

町の計画や取り組みに対する関心をみると、「持っている」が 16.2%、「どちらかといえば持っている」が 41.5%で、２つを合わせた『持っている』の割合は 57.7%となっています。

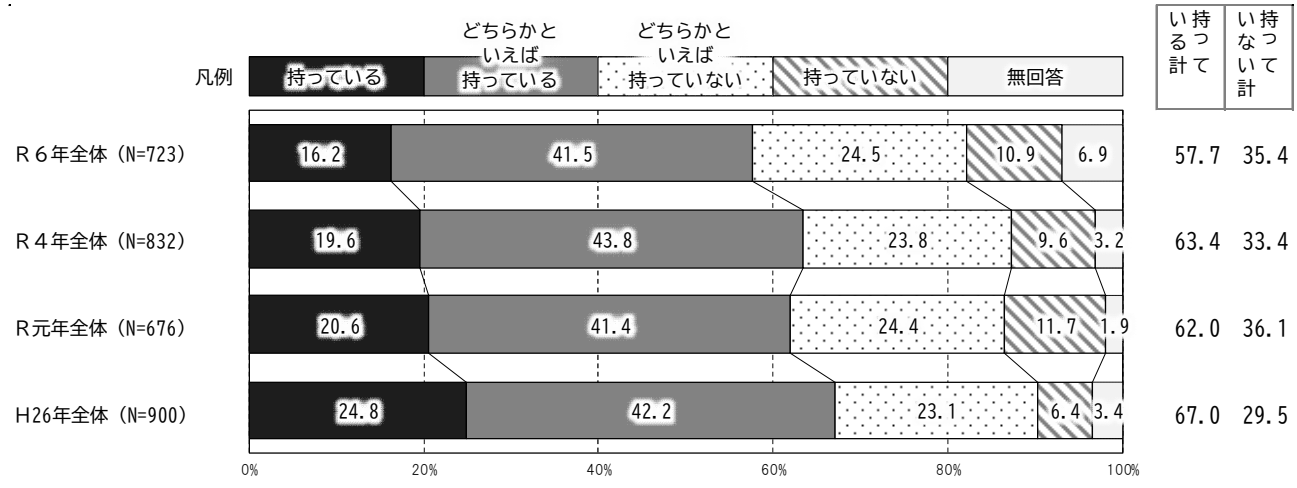
性別でみると、『持っている』の割合は男性（61.7%）の方が女性（55.1%）よりも高く、関心の強さがうかがえます。

年齢別でみると、『持っている』の割合は 20 歳代以下が 44.7%で最も低く、40 歳代と 50 歳代、70 歳以上は６割を超えています。



■過年度比較

過年度で比較すると、『持っている』の割合は６割台を推移していましたが、令和４年度調査より 5.7 ポイント低下し６割を下回っています。

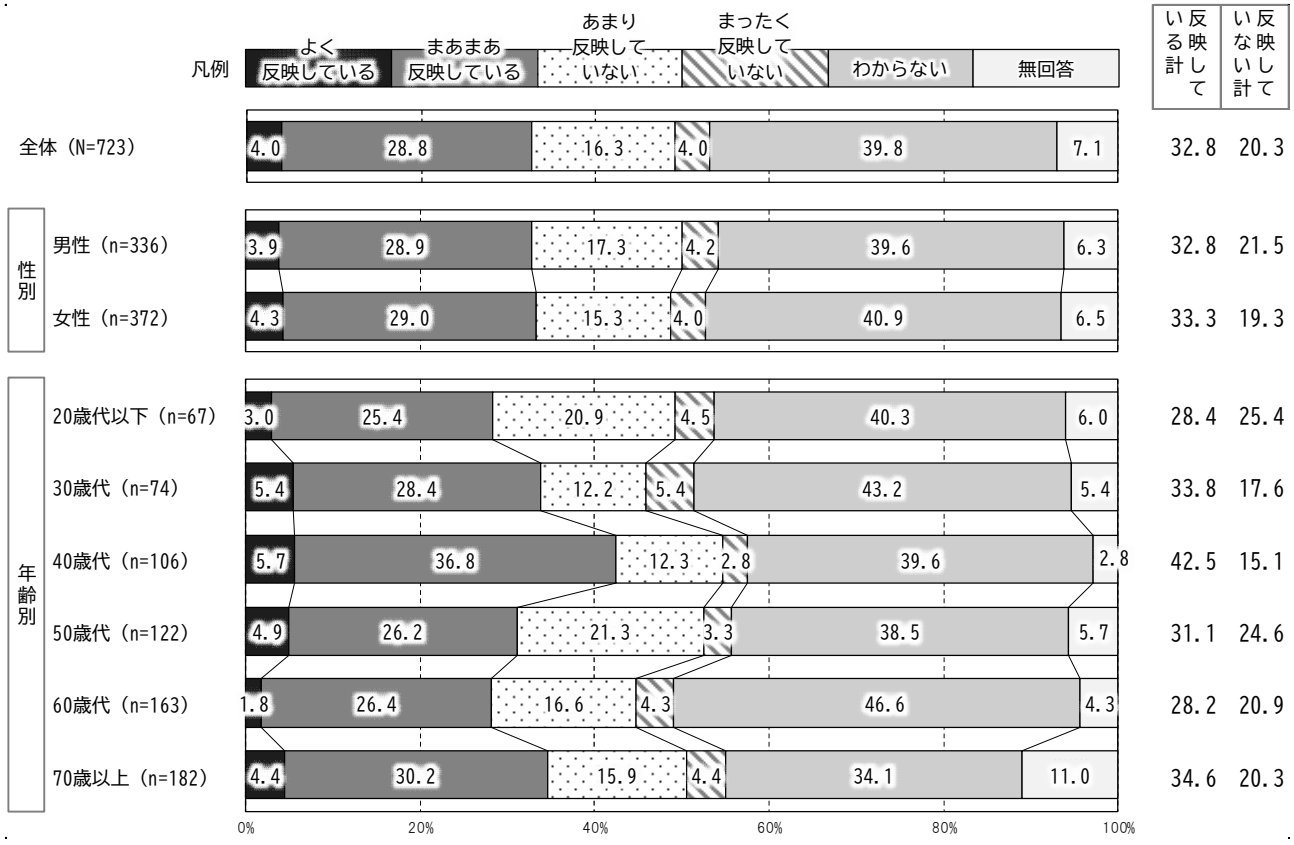


問 20　町は、住民の意見をまちづくりに反映していると思いますか。（１つに○）

まちづくりへの住民意見の反映をみると、「よく反映している」が 4.0%、「まあまあ反映している」が 28.8%で、２つを合わせた『反映している』の割合は 32.8%となっています。

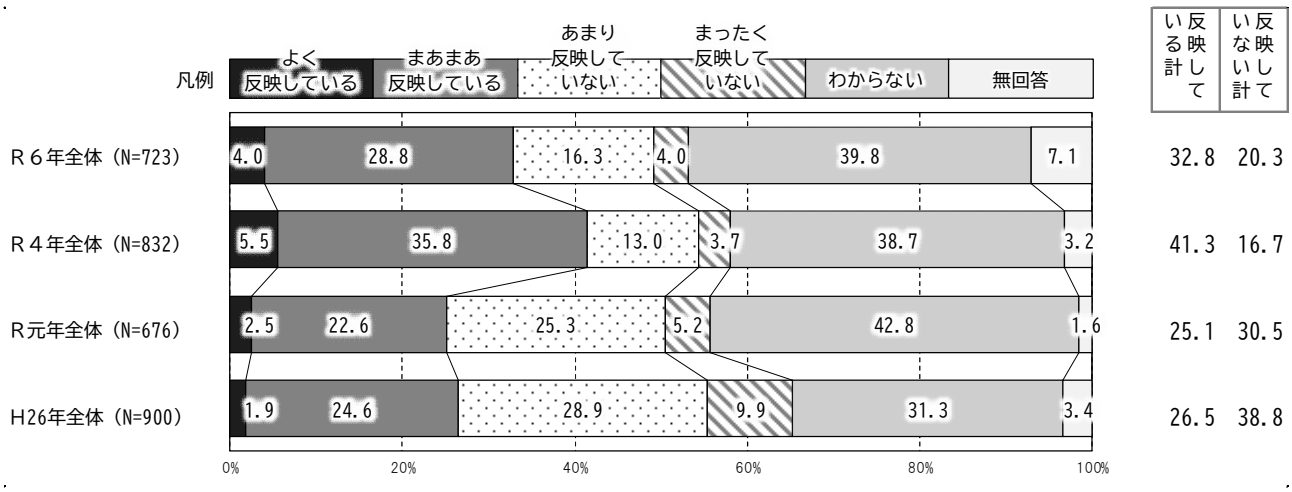
性別でみると、大きな差はありません。

年齢別でみると、『反映している』は 40 歳代（42.5%）で最も高い割合となっています。「あまり反映していない」と「まったく反映していない」を合わせた『反映していない』は、どの年代も約２割程度となっています。



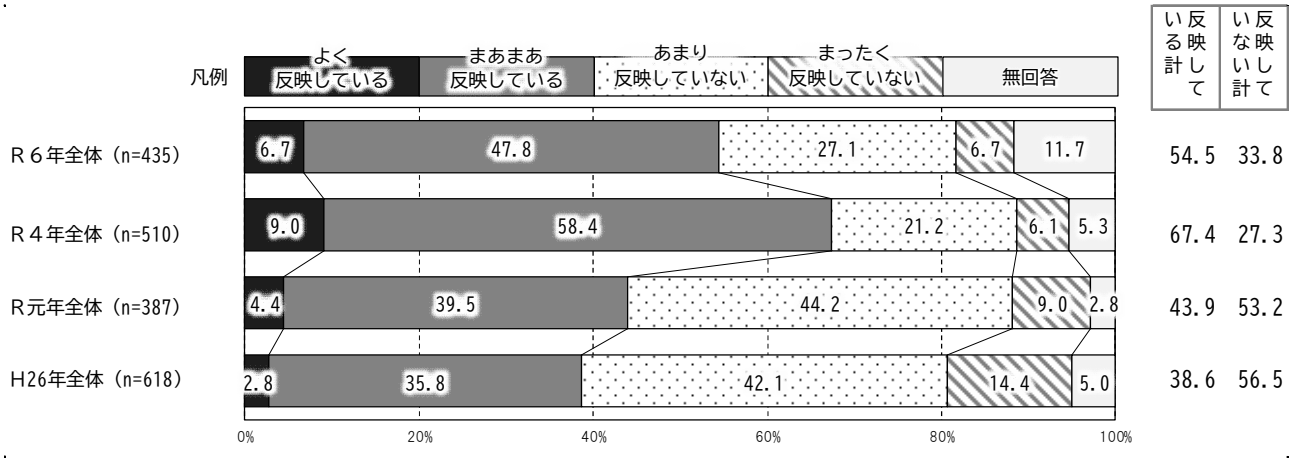
■過年度比較

過年度で比較すると、『反映している』の割合は、前回大きく上昇した令和４年度調査から 8.5 ポイント低下しているものの、平成 26 年度調査や令和元年度調査より高い割合となっています。



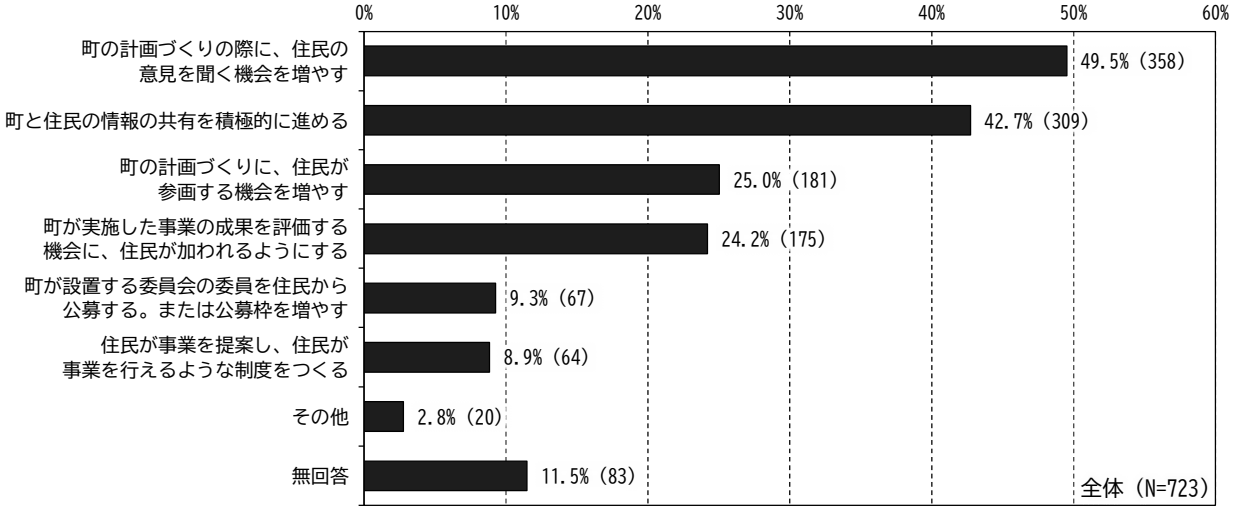
■過年度比較（参考：「わからない」を除く）

本設問については、「わからない」との回答が約４割となっています。このため、参考として「わからない」を除いた過年度比較を掲載します。



問 21　住民の意見をもっと反映するために、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。（複数回答）

住民の意見を反映するために力を入れるべきことをみると、「町の計画づくりの際に、住民の意見を聞く機会を増やす」の割合が 49.5%で最も高く、次いで「町と住民の情報の共有を積極的に進める」が 42.7%で、２つが突出して高い割合となっています。



小学校区別でみると、芦屋小学校区では「町の計画づくりに、住民が参画する機会を増やす」（29.0%）、山鹿小学校区では「町の計画づくりの際に、住民の意見を聞く機会を増やす」（55.2%）と「町が実施した事業の成果を評価する機会に、住民が加われるようにする」（29.1%）の割合が他の校区より高くなっています。

性別でみると、「町が実施した事業の成果を評価する機会に、住民が加われるようにする」の割合は男性（27.7%）の方が女性（21.8%）よりもやや高くなっています。

年齢別でみると、20 歳代以下では「町の計画づくりの際に、住民の意見を聞く機会を増やす」（62.7%）、30 歳代では「町と住民の情報の共有を積極的に進める」（51.4%）の割合が他の年代より高くなっています。

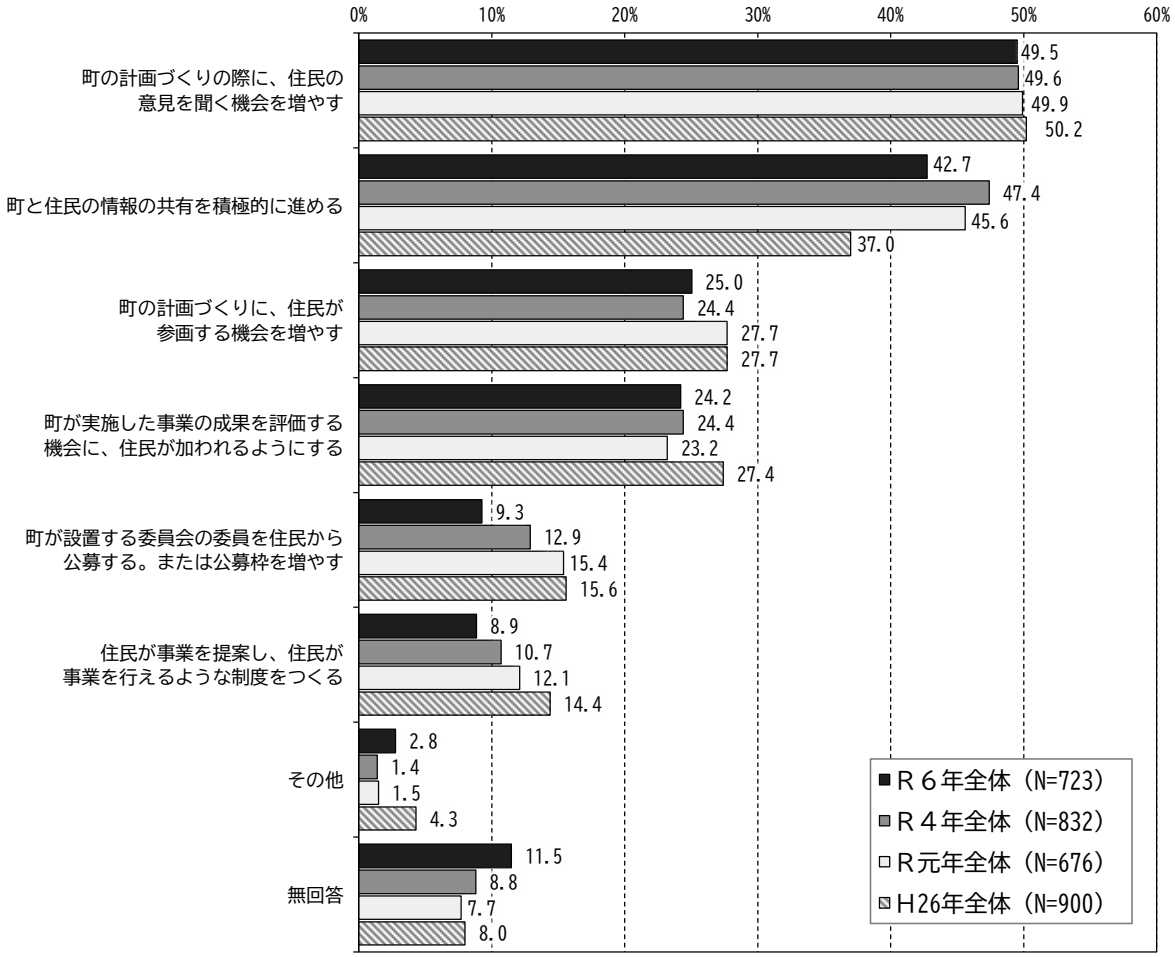
単位：%

		サンプル数（人）	町の計画づくりの際に、住民の意見を聞く機会を増やす	町と住民の情報の共有を積極的に進める	町の計画づくりに、住民が参画する機会を増やす	町が実施した事業の成果を評価する機会に、住民が加われるようにする	町が設置する委員会の委員を住民から公募する。または公募枠を増やす	住民が事業を提案し、住民が事業を行えるような制度をつくる	その他	無回答
全体		723	49.5	42.7	25.0	24.2	9.3	8.9	2.8	11.5
小学校区別	芦屋小学校区	241	46.9	43.2	29.0	24.1	9.5	10.0	2.5	11.6
	芦屋東小学校区	202	48.0	44.1	21.3	19.3	13.4	7.9	4.0	11.4
	山鹿小学校区	268	55.2	42.2	25.4	29.1	6.3	9.0	1.9	9.0
性別	男性	336	49.1	44.0	24.7	27.7	6.5	11.0	3.3	9.2
	女性	372	50.8	42.5	25.8	21.8	11.8	7.3	2.2	12.1
年齢別	20歳代以下	67	62.7	49.3	22.4	25.4	7.5	3.0	3.0	9.0
	30歳代	74	40.5	51.4	24.3	18.9	10.8	13.5	2.7	8.1
	40歳代	106	50.0	40.6	29.2	25.5	8.5	11.3	4.7	4.7
	50歳代	122	51.6	38.5	27.9	26.2	8.2	15.6	3.3	6.6
	60歳代	163	50.9	46.6	23.3	26.4	9.8	7.4	0.6	11.0
	70歳以上	182	47.8	39.0	24.7	23.1	10.4	4.9	3.3	17.6

※■は１番多い項目、□は２番目に多い項目を示している

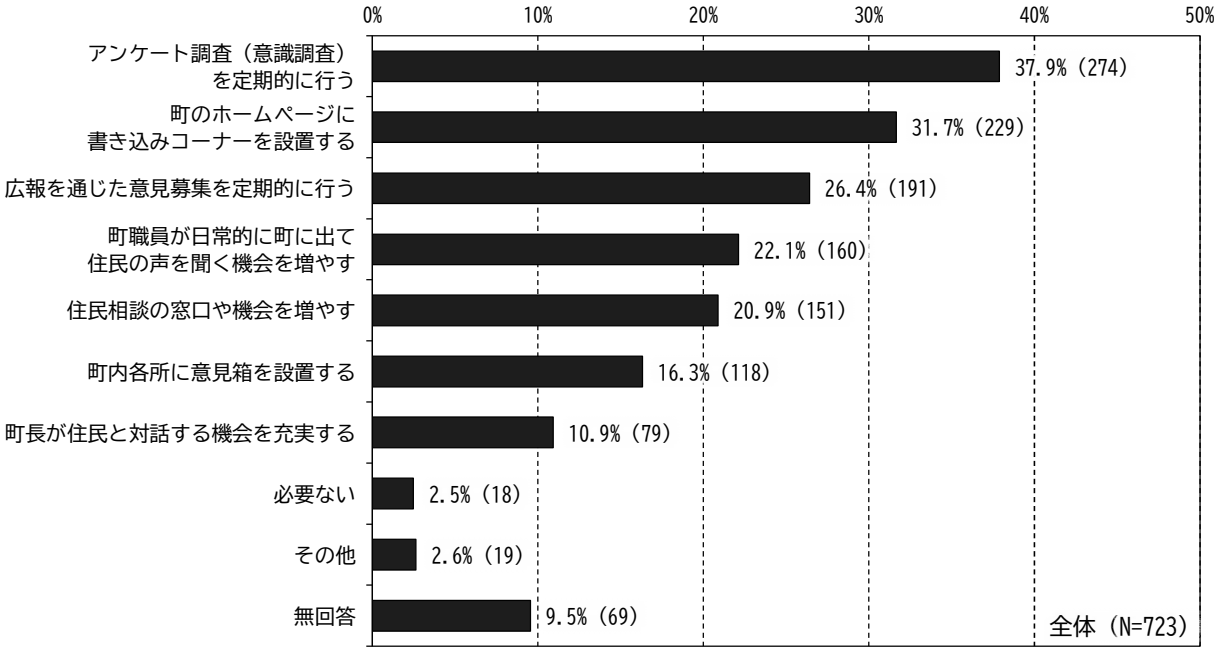
■過年度比較

過年度で比較すると、「町の計画づくりの際に、住民の意見を聞く機会を増やす」の割合は常に約５割となっています。「町と住民の情報の共有を積極的に進める」の割合は令和４年度調査より 4.7 ポイント低下しています。



問 22　まちづくりを行う際、住民の意見を集めるために、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。（複数回答）

住民の意見を集めるために力を入れるべきことをみると、「アンケート調査（意識調査）を定期的に行う」の割合が 37.9%で最も高く、次いで「町のホームページに書き込みコーナーを設置する」が 31.7%、「広報を通じた意見募集を定期的に行う」が 26.4%などの順となっています。



小学校区別でみると、芦屋東小学校区では「町のホームページに書き込みコーナーを設置する」（35.1%）の割合が最も高くなっています。

性別でみると、男性は「アンケート調査（意識調査）を定期的に行う」の割合が女性よりも高く、女性は「広報を通じた意見募集を定期的に行う」や「住民相談の窓口や機会を増やす」の割合が男性よりも高くなっています。

年齢別でみると、50歳代以下で「アンケート調査（意識調査）を定期的に行う」は約４割を超えており、高い割合となっています。20歳代以下では「広報を通じた意見募集を定期的に行う」（31.3%）、40歳代では「町のホームページに書き込みコーナーを設置する」（42.5%）、60歳代では「住民相談の窓口や機会を増やす」（29.4%）の割合が他の年代より高くなっています。

単位：%

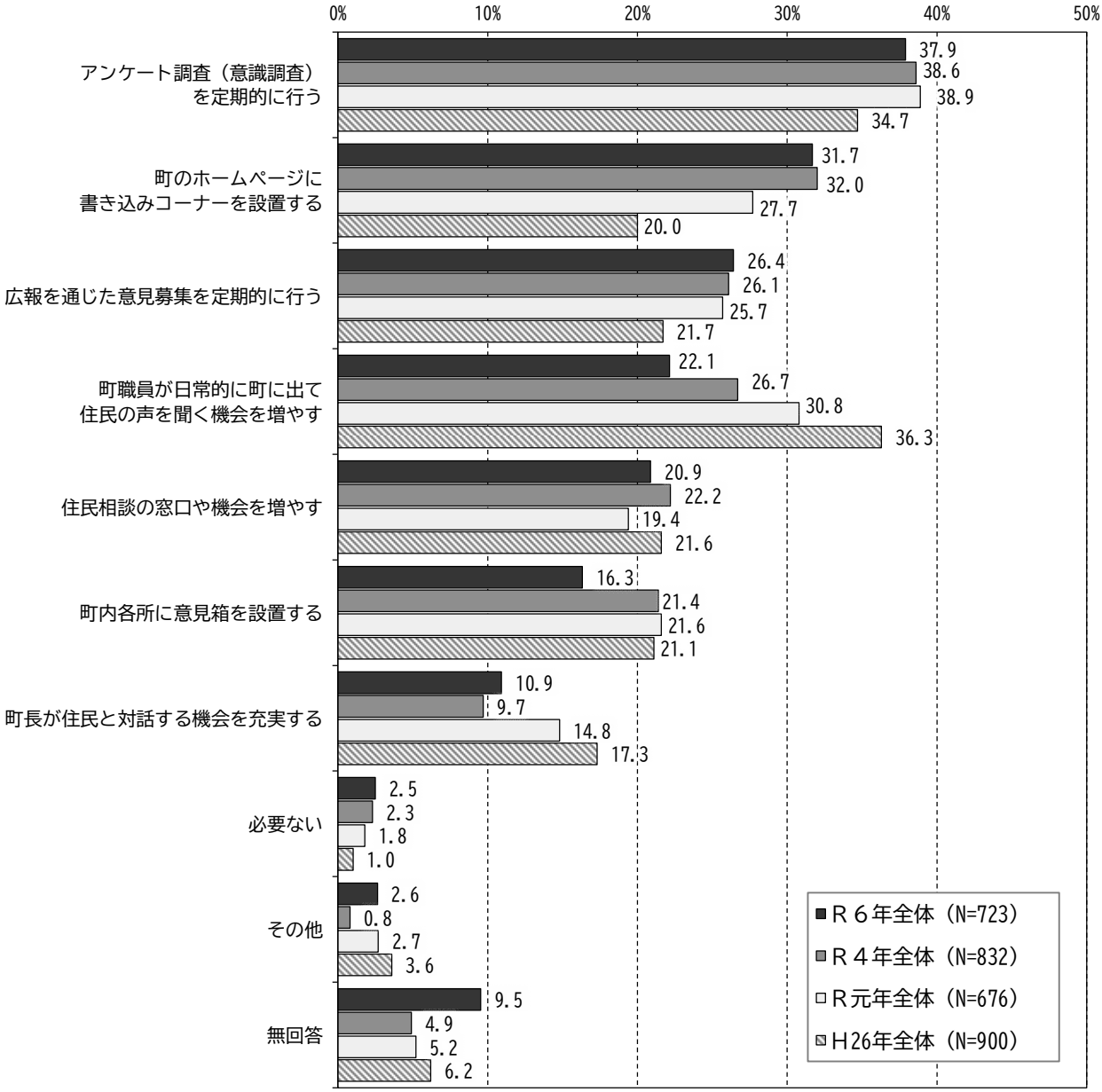
		サンプル数（人）	アンケート調査（意識調査）を定期的に行う	町のホームページに書き込みコーナーを設置する	広報を通じた意見募集を定期的に行う	町職員が日常的に町に出て住民の声を聞く機会を増やす	住民相談の窓口や機会を増やす	町内各所に意見箱を設置する	町長が住民と対話する機会を充実する	必要ない	その他	無回答
全体		723	**37.9**	**31.7**	26.4	22.1	20.9	16.3	10.9	2.5	2.6	9.5
小学校区別	芦屋小学校区	241	**39.4**	**25.7**	25.3	21.2	21.2	17.8	10.4	3.7	3.7	10.0
	芦屋東小学校区	202	**33.2**	**35.1**	29.2	21.8	19.3	15.8	13.9	1.0	2.5	9.4
	山鹿小学校区	268	**41.4**	**35.8**	25.7	23.9	22.4	15.3	9.3	2.6	1.5	7.1
性別	男性	336	**40.8**	**31.8**	22.6	22.6	19.0	15.8	11.6	3.3	4.2	7.1
	女性	372	**36.3**	**32.3**	30.1	22.0	23.1	16.7	10.5	1.6	0.8	10.5
年齢別	20歳代以下	67	**38.8**	**38.8**	31.3	22.4	16.4	14.9	10.4	3.0	-	7.5
	30歳代	74	**43.2**	**35.1**	25.7	12.2	14.9	14.9	9.5	8.1	4.1	4.1
	40歳代	106	**47.2**	**42.5**	23.6	16.0	15.1	20.8	15.1	3.8	5.7	2.8
	50歳代	122	**41.8**	**36.1**	22.1	25.4	21.3	18.0	10.7	-	2.5	5.7
	60歳代	163	**30.1**	**35.6**	28.8	25.8	29.4	16.0	7.4	3.7	1.2	6.7
	70歳以上	182	**36.3**	16.5	**28.0**	24.7	21.4	14.3	12.6	-	2.7	18.1

※ は１番多い項目、 は２番目に多い項目を示している

■過年度比較

過年度で比較すると、「広報を通じた意見募集を定期的に行う」の割合が上昇傾向にある一方、「町職員が日常的に町に出て住民の声を聞く機会を増やす」は大きく低下を続けています。

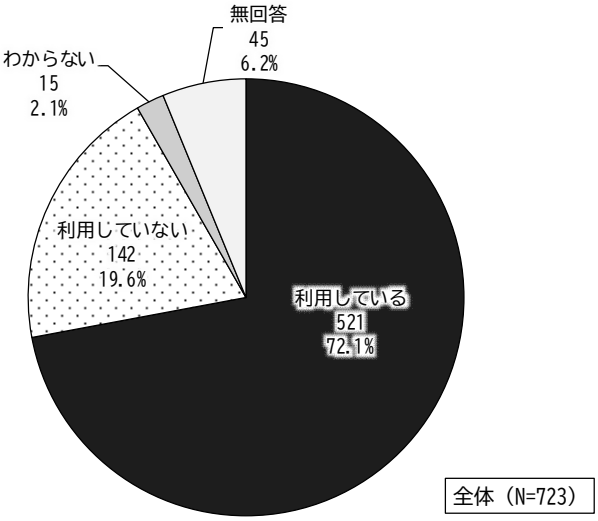
また、令和４年度調査と比較すると、「町内各所に意見箱を設置する」の割合が 5.1 ポイント低下しています。



◆インターネット環境、情報入手経路について

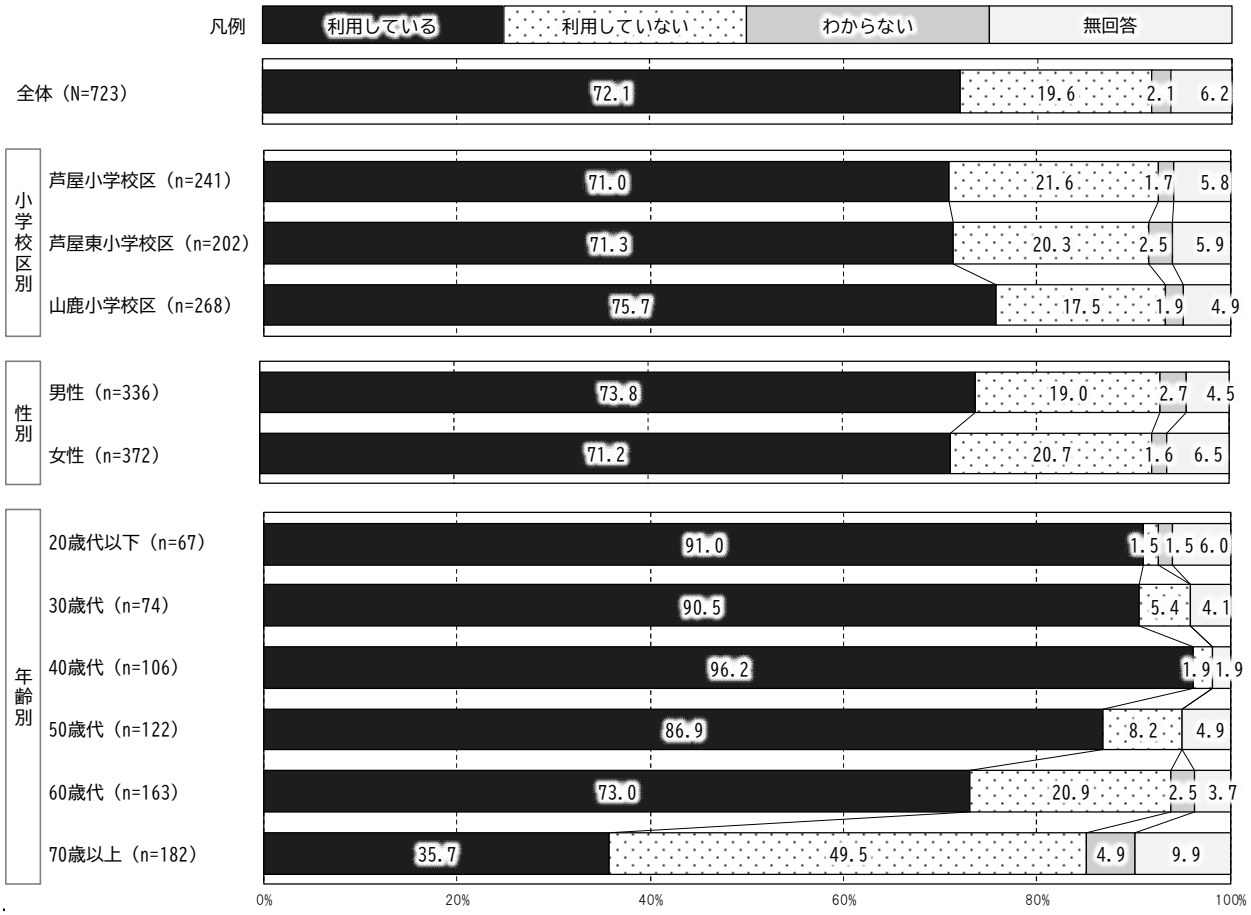
問 23　普段の生活でインターネットを利用していますか。（１つに○）

普段の生活でのインターネット利用をみると、「利用している」の割合が 72.1%、「利用していない」が 19.6%で、７割以上が利用していることがうかがえます。



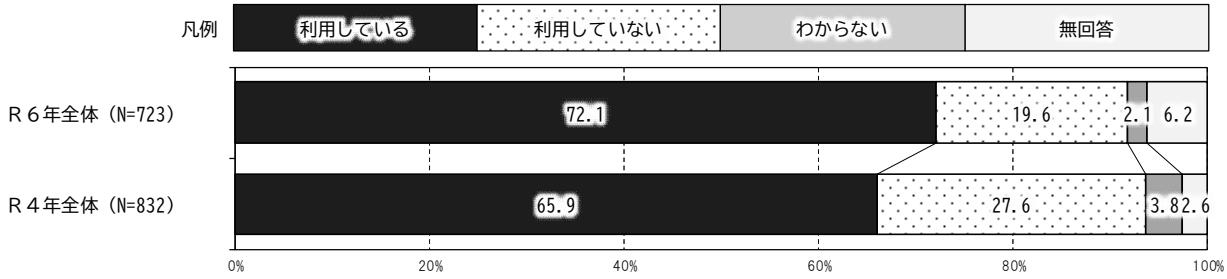
小学校区別、性別でみると、大きな差はありません。

年齢別でみると、「利用している」の割合は全体的に高い傾向にありますが、70 歳以上では 35.7%と他の年代に比べて低くなっています。



■過年度比較

過年度で比較すると、令和４年度調査から「利用している」の割合は6.2ポイント上昇し、「利用していない」の割合は８ポイント低下しています。

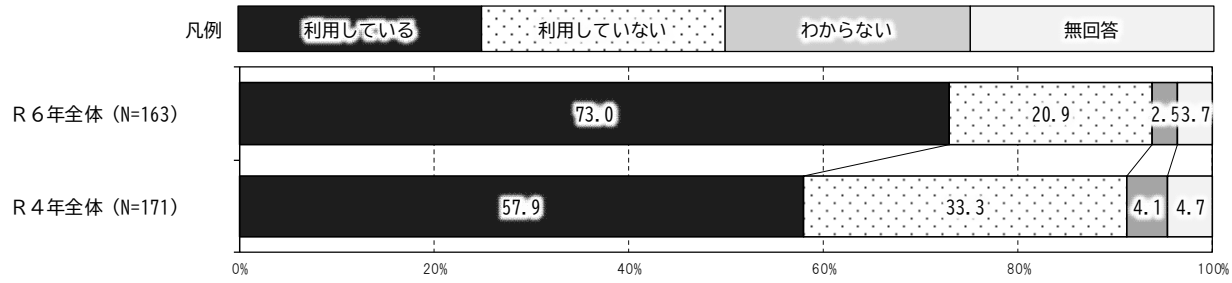


※ H26 年、R 元年では設問を設けていない

■過年度比較（参考：60 歳代以上の利用状況）

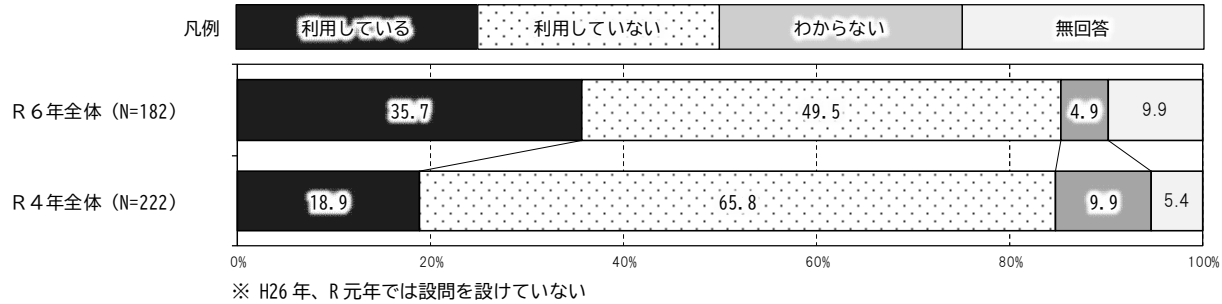
本設問については、前回調査と比較して 60 歳代、70 歳以上の利用割合が増えたため、前回調査との過年度比較を掲載します。60 歳代以上の「利用している」の割合は、他の年代に比べ低いものの、令和４年度調査と比較すると、上昇していることがわかります。

■60 歳代の利用状況



※ H26 年、R 元年では設問を設けていない

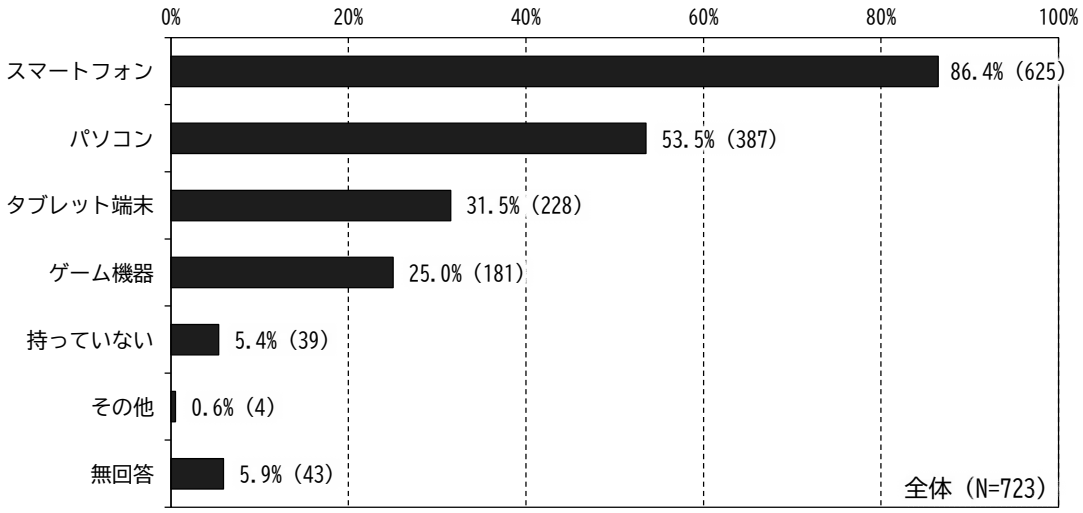
■70 歳以上の利用状況



※ H26 年、R 元年では設問を設けていない

問 24　ご自宅にある情報通信機器を教えてください。（複数回答）

自宅にある情報通信機器をみると、「スマートフォン」の割合が 86.4%で最も高く、次いで「パソコン」が 53.5%、「タブレット端末」が 31.5%などの順となっています。「持っていない」の割合は 5.4%となっています。



小学校区別でみると、山鹿小学校区で「パソコン」（61.2%）の割合が他の校区より高くなっています。

性別でみると、大きな差はありません。

年齢別でみると、「パソコン」の割合は 60 歳代以下では約６割、70 歳以上では３割となっています。30 歳代では「ゲーム機器」（60.8%）、70 歳以上では「持っていない」（15.9%）の割合が他の年代より高くなっています。

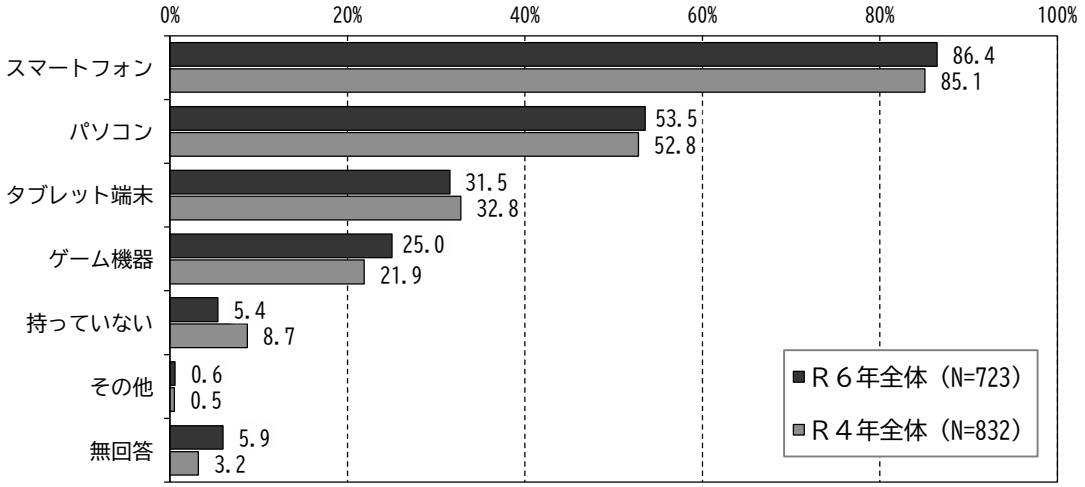
単位：%

		サンプル数（人）	スマートフォン	パソコン	タブレット端末	ゲーム機器	持っていない	その他	無回答
全体		723	**86.4**	**53.5**	31.5	25.0	5.4	0.6	5.9
小学校区別	芦屋小学校区	241	**87.6**	**49.4**	29.5	27.8	4.1	0.4	5.8
	芦屋東小学校区	202	**83.2**	**51.0**	34.2	21.8	8.4	1.0	5.4
	山鹿小学校区	268	**89.9**	**61.2**	32.5	25.4	4.1	0.4	4.5
性別	男性	336	**86.0**	**57.7**	29.5	21.7	5.7	0.9	4.8
	女性	372	**87.9**	**50.3**	33.9	28.0	5.4	0.3	5.6
年齢別	20歳代以下	67	**92.5**	**62.7**	37.3	53.7	－	－	6.0
	30歳代	74	**95.9**	**60.8**	48.6	**60.8**	－	1.4	4.1
	40歳代	106	**97.2**	**63.2**	49.1	52.8	0.9	－	1.9
	50歳代	122	**91.0**	**64.8**	40.2	17.2	0.8	0.8	5.7
	60歳代	163	**91.4**	**57.1**	20.9	10.4	4.3	－	3.7
	70歳以上	182	**69.8**	**33.0**	17.0	2.7	15.9	1.1	8.2

※ **■** は１番多い項目、 ■ は２番目に多い項目を示している

■過年度比較

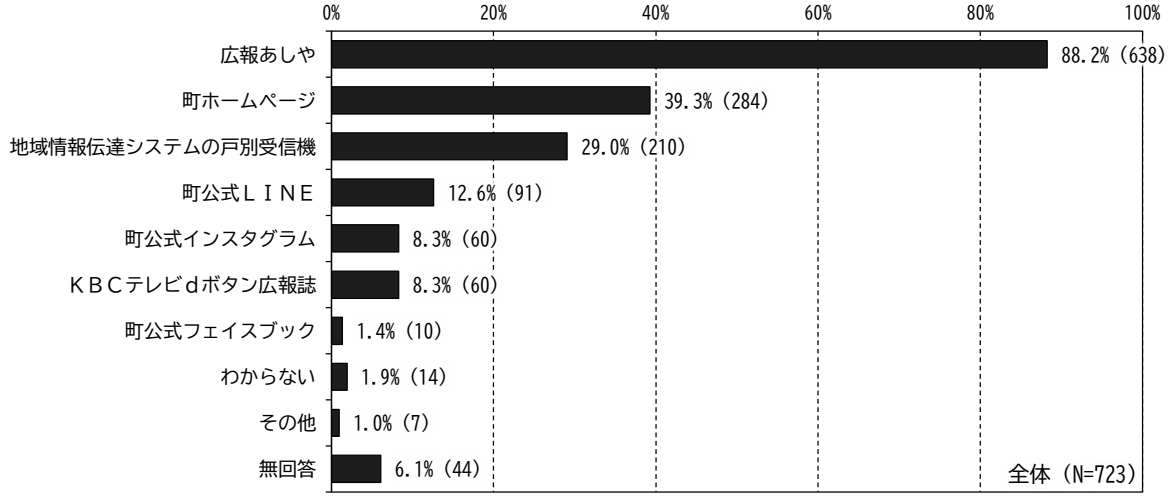
過年度で比較すると、令和４年度調査から「持っていない」の割合は3.3ポイント低下しています。



※ H26年、R元年では設問を設けていない

問 25　町の情報を得るために、活用しているものを教えてください。（複数回答）

町の情報を得るために活用しているものをみると、「広報あしや」の割合が 88.2%で突出して高く、次いで「町ホームページ」が 39.3%、「地域情報伝達システムの戸別受信機」が 29.0%などの順となっています。



小学校区別でみると、芦屋東小学校区では「地域情報伝達システムの戸別受信機」（23.3%）の割合が他の校区より低くなっています。

性別でみると、全体的に女性の方が男性よりやや高い割合となっています。

年齢別でみると、「広報あしや」の割合は 40 歳代以上で約９割となっています。40 歳代以下では「町公式ＬＩＮＥ」や「町公式インスタグラム」の割合が他の年代より高くなっています。70 歳以上では他の年代と異なり、「地域情報伝達システムの戸別受信機」（36.8%）の方が「町ホームページ」（21.4%）よりも高い割合となっています。

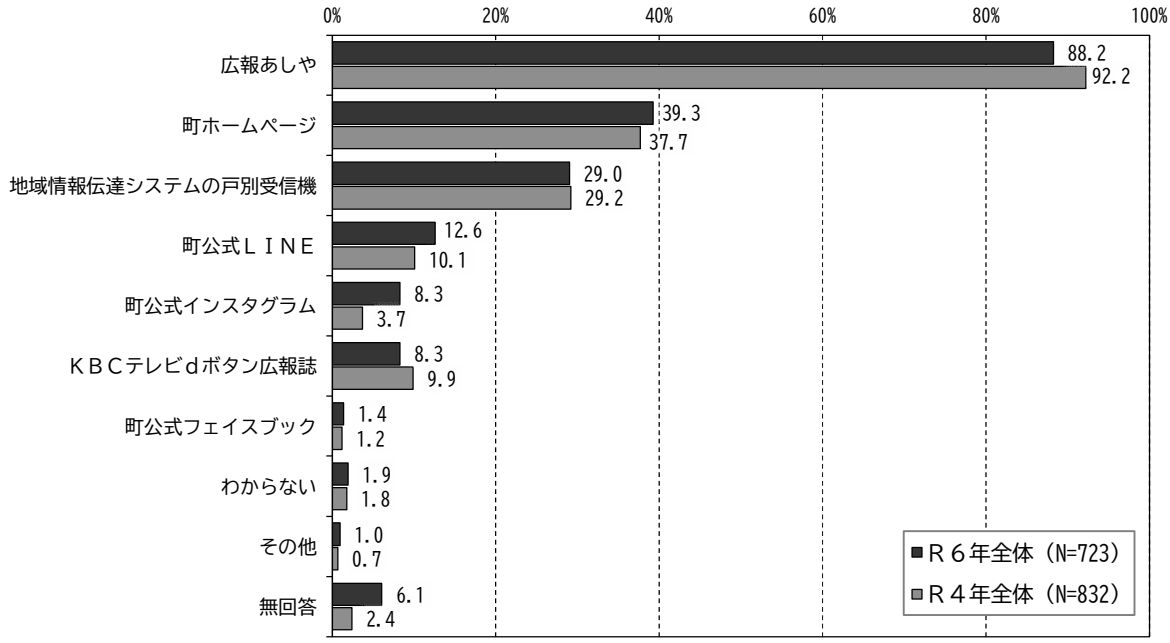
単位：%

		サンプル数（人）	広報あしや	町ホームページ	地域情報伝達システムの戸別受信機	町公式ＬＩＮＥ	町公式インスタグラム	ＫＢＣテレビｄボタン広報誌	町公式フェイスブック	わからない	その他	無回答
全体		723	**88.2**	**39.3**	29.0	12.6	8.3	8.3	1.4	1.9	1.0	6.1
小学校区別	芦屋小学校区	241	**86.7**	**39.4**	31.1	12.4	7.1	7.5	1.7	2.5	1.2	5.8
	芦屋東小学校区	202	**89.6**	**39.1**	23.3	12.4	7.4	7.4	1.5	2.5	－	5.4
	山鹿小学校区	268	**91.0**	**40.3**	32.5	13.1	10.4	9.3	1.1	0.7	1.5	4.5
性別	男性	336	**86.0**	**38.1**	27.4	10.7	5.7	7.4	1.8	3.3	1.2	5.1
	女性	372	**91.4**	**40.3**	31.2	14.5	11.0	8.6	1.1	0.8	0.5	5.6
年齢別	20歳代以下	67	**77.6**	**35.8**	16.4	13.4	17.9	3.0	－	9.0	3.0	6.0
	30歳代	74	**83.8**	**39.2**	18.9	21.6	25.7	4.1	2.7	4.1	1.4	5.4
	40歳代	106	**93.4**	**57.5**	30.2	28.3	12.3	5.7	2.8	0.9	－	2.8
	50歳代	122	**92.6**	**51.6**	29.5	10.7	8.2	8.2	1.6	0.8	1.6	4.9
	60歳代	163	**89.6**	**41.1**	30.1	8.0	3.7	12.9	1.2	0.6	0.6	3.7
	70歳以上	182	**90.1**	21.4	**36.8**	4.9	－	9.3	0.5	0.5	0.5	8.2

※ **太字** は１番多い項目、 は２番目に多い項目を示している

■過年度比較

過年度で比較すると、令和４年度調査から「広報あしや」の割合は４ポイント低下しているものの、「町公式ＬＩＮＥ」と「町公式インスタグラム」の割合は上昇しています。



※ H26 年、R 元年では設問を設けていない

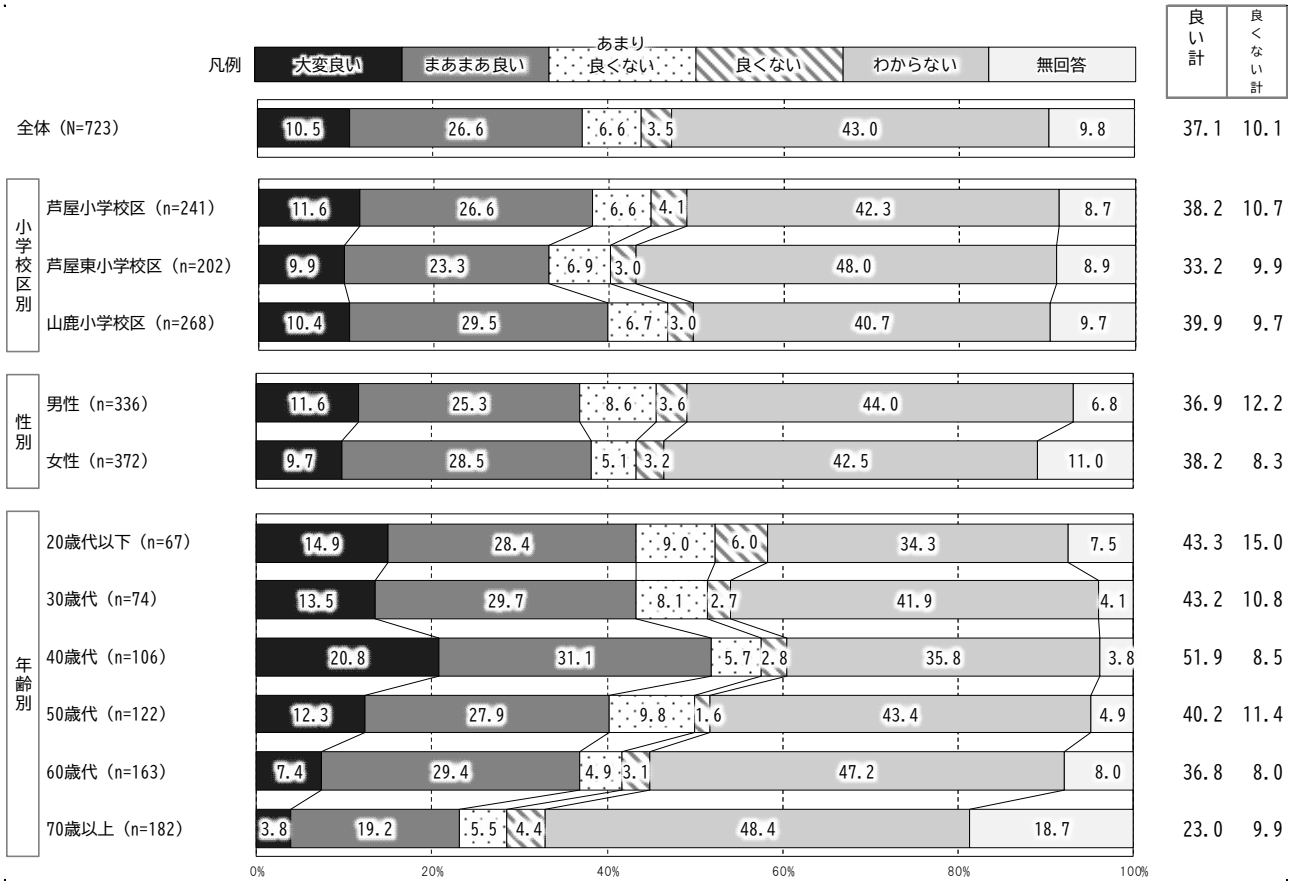
◆デジタル化の取り組みについて

問 26　町のデジタル化の取り組みについてどう評価しますか。（１つに○）

町のデジタル化の取り組みに対して、「大変良い」（10.5%）と「まあまあ良い」（26.6%）を合わせた『良い』の割合は、37.1%となっています。「あまり良くない」（6.6%）と「良くない」（3.5%）を合わせた『良くない』の割合は、10.1%となっています。一方で、「わからない」と回答した割合は 43.0%を占め、取り組み自体がよくわかっていない方も多いことがわかります。

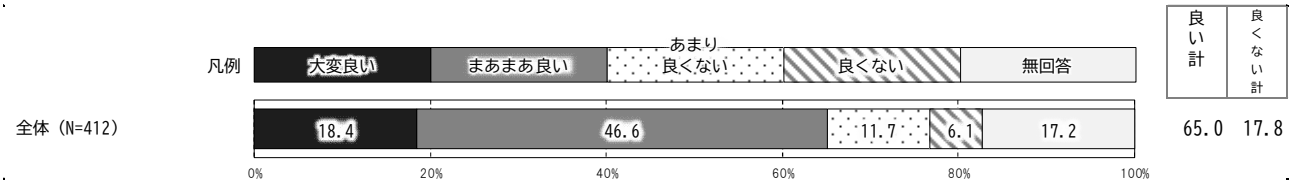
小学校区別、性別でみると、大きな差はありません。

年齢別でみると、『良い』の割合は、40 歳代（51.9%）が最も高く、70 歳以上（23.0%）で最も低くなっています。60 歳代以上の約５割が「わからない」と回答しています。



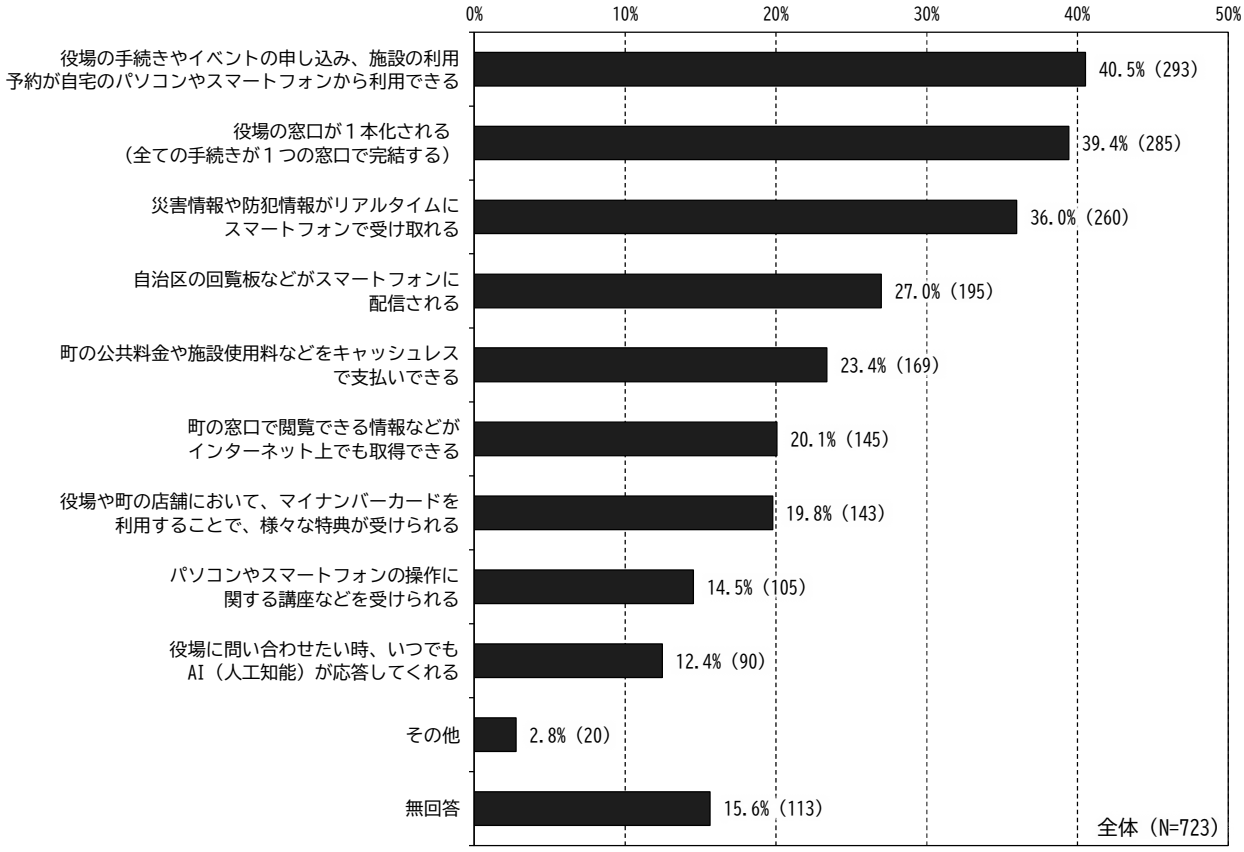
参考：「わからない」を除く

本設問については、「わからない」との回答が約４割となっています。このため、参考として「わからない」を除いたグラフを掲載します。



問 27　町のデジタル化を進める上で、どのような事業・行政サービスを期待しますか。（複数回答）

デジタル化を進める上で町に期待することは、「役場の手続きやイベントの申し込み、施設の利用予約が自宅のパソコンやスマートフォンから利用できる」が 40.5%で最も高くなっています。次に、「役場の窓口が１本化される（全ての手続きが１つの窓口で完結する)」が 39.4%、「災害情報や防犯情報がリアルタイムにスマートフォンで受け取れる」が 36.0%などの順となっています。



小学校区別でみると、芦屋東小学校区では「役場の窓口が１本化される（全ての手続きが１つの窓口で完結する)」（44.6%）が最も高く、山鹿小学校区では「災害情報や防犯情報がリアルタイムにスマートフォンで受け取れる」（39.2%）が２番目に高くなっています。

性別でみると、全体的に男性の方が女性よりやや高い割合となっています。

年齢別でみると、50 歳代以下では「役場の手続きやイベントの申し込み、施設の利用予約が自宅のパソコンやスマートフォンから利用できる」、60 歳代では「災害情報や防犯情報がリアルタイムにスマートフォンで受け取れる」、70 歳以上では「役場の窓口が１本化される（全ての手続きが１つの窓口で完結する)」の割合が最も高くなっています。30 歳代では「町の公共料金や施設使用料などをキャッシュレスで支払いできる」（47.3%）と「役場や町の店舗において、マイナンバーカードを利用することで、様々な特典が受けられる」（31.1%）、40 歳代では「自治区の回覧板などがスマートフォンに配信される」（40.6%）の割合が、他の年代より高くなっています。

単位：%

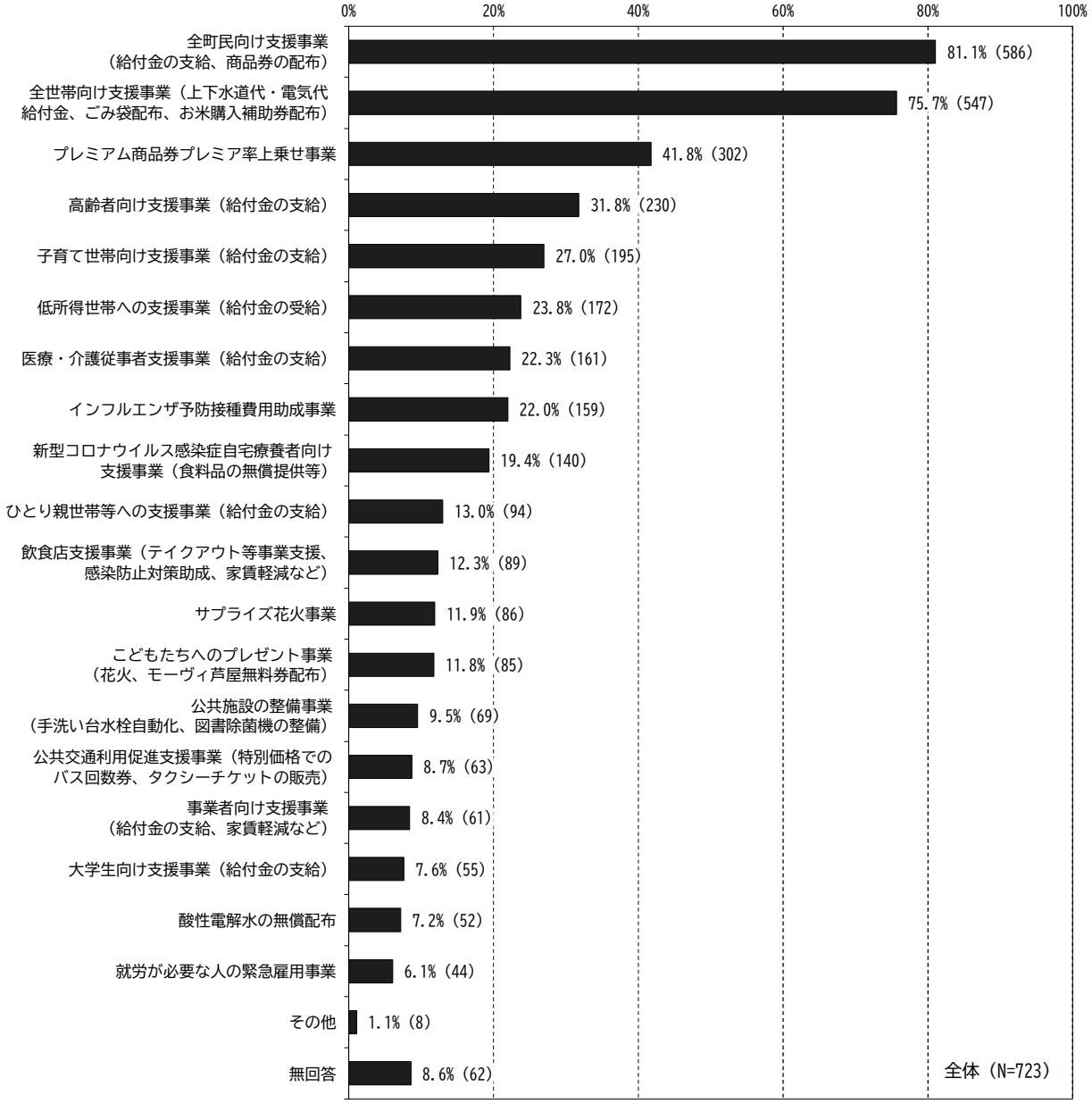
		サンプル数（人）	役場の手続きやイベントの申し込み、施設の利用予約が自宅のパソコンやスマートフォンから利用できる	役場の窓口が1本化される（全ての手続きが1つの窓口で完結する）	災害情報や防犯情報がリアルタイムにスマートフォンで受け取れる	自治区の回覧板などがスマートフォンに配信される	町の公共料金や施設使用料などをキャッシュレスで支払いできる	町の窓口で閲覧できる情報などがインターネット上でも取得できる	役場や町の店舗において、マイナンバーカードを利用することで、様々な特典が受けられる	パソコンやスマートフォンの操作に関する講座などを受けられる	役場に問い合わせたい時、いつでもＡＩ（人工知能）が応答してくれる	その他	無回答
全体		723	**40.5**	**39.4**	36.0	27.0	23.4	20.1	19.8	14.5	12.4	2.8	15.6
小学校区別	芦屋小学校区	241	**41.1**	**39.4**	35.7	22.8	23.7	17.8	19.5	10.8	11.6	3.3	14.5
	芦屋東小学校区	202	38.1	**44.6**	33.2	29.7	22.3	20.3	16.8	15.3	13.4	4.0	15.8
	山鹿小学校区	268	**42.9**	36.9	**39.2**	29.9	25.0	22.0	23.1	17.9	12.7	1.5	14.2
性別	男性	336	**42.3**	**41.7**	36.6	27.1	24.7	23.8	22.9	15.2	14.0	4.2	13.1
	女性	372	**39.5**	**37.6**	36.0	26.9	22.6	16.9	17.7	14.5	11.0	1.6	16.7
年齢別	20歳代以下	67	**58.2**	**38.8**	32.8	29.9	31.3	22.4	25.4	13.4	9.0	1.5	13.4
	30歳代	74	**58.1**	41.9	39.2	35.1	**47.3**	29.7	31.1	10.8	14.9	1.4	5.4
	40歳代	106	**59.4**	39.6	**41.5**	40.6	38.7	24.5	21.7	13.2	12.3	2.8	6.6
	50歳代	122	**50.8**	**44.3**	43.4	32.8	31.1	27.0	24.6	18.9	13.1	0.8	8.2
	60歳代	163	28.8	**33.1**	**36.2**	19.6	12.3	15.3	16.0	15.3	10.4	3.7	15.3
	70歳以上	182	20.9	**42.3**	**29.1**	18.7	7.7	13.2	13.2	14.3	14.3	4.4	27.5

※ **■** は１番多い項目、 ■ は２番目に多い項目を示している

◆新型コロナウイルス感染症などについて

問 28　新型コロナウイルス感染症などの支援として有効だと思った施策を教えてください。（複数回答）

新型コロナウイルス感染症などの支援として有効だと思う施策をみると、「全町民向け支援事業（給付金の支給、商品券の配布）」の割合が 81.1％で最も高く、次いで「全世帯向け支援事業（上下水道代・電気代給付金、ごみ袋配布、お米購入補助券配布）」が 75.7％で、この２つが突出して高い割合となっています。



小学校区別でみると、大きな差はありません。

性別でみると、「高齢者向け支援事業（給付金の支給）」は男性（36.6%）の方が女性（28.0%）より高い割合となっています。

年齢別でみると、40 歳代以下では、「子育て世帯向け支援事業（給付金の支給）」や「こどもたちへのプレゼント事業（花火、モーヴィ芦屋無料券配布）」のこども関連の事業が高い割合となっています。一方で、60 歳代以上では「高齢者向け支援事業（給付金の支給）」の割合が４割以上と高くなっています。

単位：%

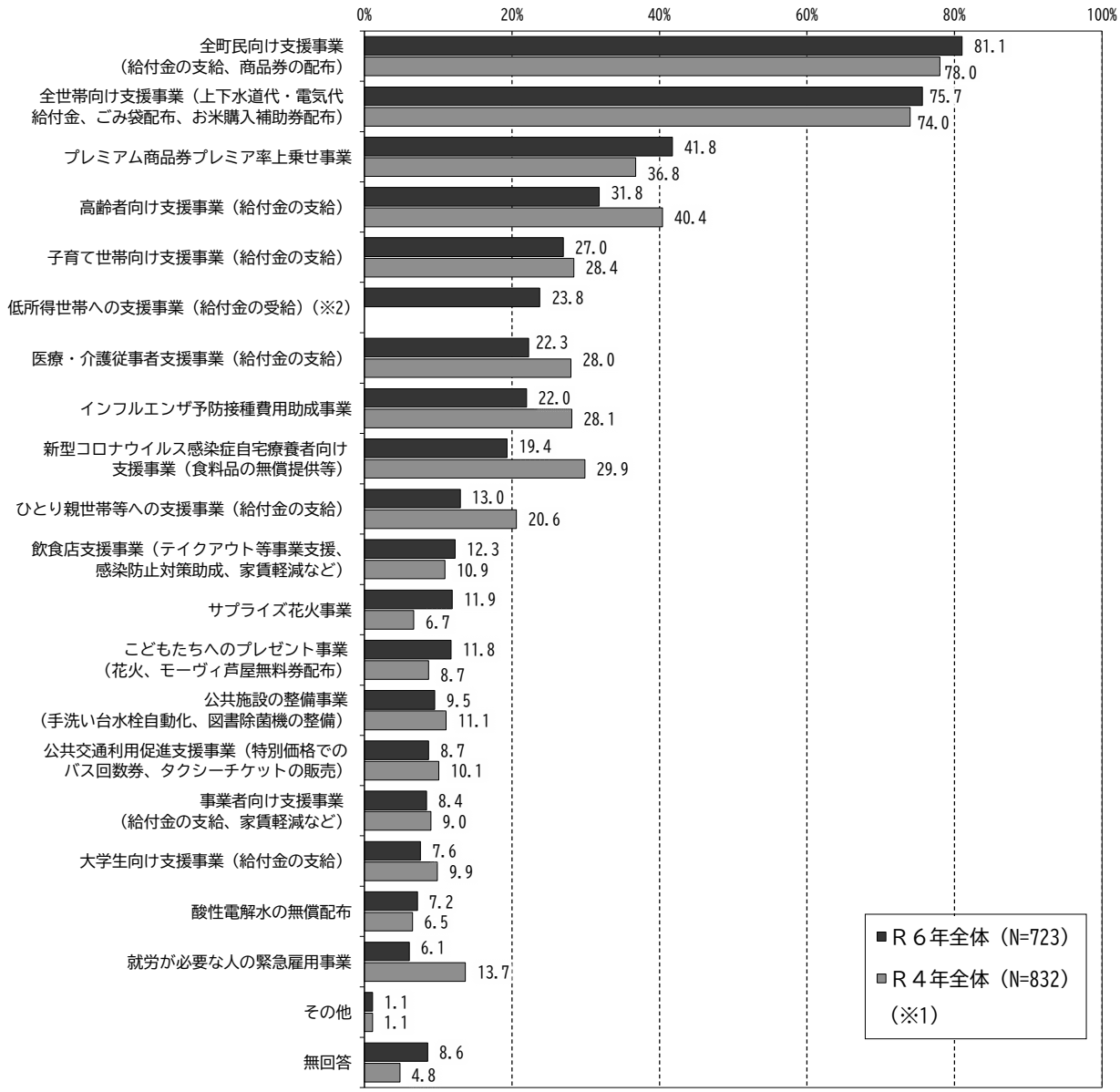
		サンプル数（人）	全町民向け支援事業（給付金の支給、商品券の配布）	全世帯向け支援事業（上下水道代・電気代給付金、ごみ袋配布、お米購入補助券配布）	プレミアム商品券プレミア率上乗せ事業	高齢者向け支援事業（給付金の支給）	子育て世帯向け支援事業（給付金の支給）	低所得世帯への支援事業（給付金の受給）	医療・介護従事者支援事業（給付金の支給）	インフルエンザ予防接種費用助成事業	新型コロナウイルス感染症自宅療養者向け支援事業（食料品の無償提供等）	ひとり親世帯等への支援事業（給付金の支給）	飲食店支援事業（テイクアウト等事業支援、感染防止対策助成、家賃軽減など）
全体		723	**81.1**	**75.7**	41.8	31.8	27.0	23.8	22.3	22.0	19.4	13.0	12.3
小学校区別	芦屋小学校区	241	**82.2**	**76.8**	44.0	33.2	24.1	24.1	18.7	21.6	19.1	14.1	13.7
	芦屋東小学校区	202	**79.7**	**73.8**	42.1	33.2	31.2	26.7	21.3	23.3	19.3	13.4	10.9
	山鹿小学校区	268	**83.6**	**78.0**	40.7	29.9	27.6	22.0	26.5	22.4	20.5	11.9	12.7
性別	男性	336	**80.4**	**75.3**	41.4	36.6	28.3	26.8	22.3	22.9	20.5	14.6	9.8
	女性	372	**83.1**	**76.6**	42.7	28.0	26.6	21.5	22.8	22.0	18.8	11.3	15.1
年齢別	20歳代以下	67	**74.6**	**59.7**	26.9	16.4	40.3	20.9	23.9	13.4	19.4	13.4	13.4
	30歳代	74	**91.9**	**85.1**	44.6	18.9	45.9	20.3	14.9	20.3	13.5	10.8	14.9
	40歳代	106	**84.9**	**83.0**	47.2	8.5	48.1	17.9	15.1	14.2	19.8	8.5	17.0
	50歳代	122	**82.0**	**80.3**	50.0	19.7	20.5	15.6	26.2	17.2	18.9	13.1	19.7
	60歳代	163	**85.3**	**82.8**	43.6	42.9	19.6	27.6	26.4	25.2	25.2	17.2	11.0
	70歳以上	182	**75.8**	**66.5**	37.4	54.9	14.3	32.4	23.1	31.9	17.6	12.6	4.9

		サンプル数（人）	サプライズ花火事業	こどもたちへのプレゼント事業（花火、モーヴィ芦屋無料券配布）	公共施設の整備事業（手洗い台水栓自動化、図書除菌機の整備）	公共交通利用促進支援事業（特別価格でのバス回数券、タクシーチケットの販売）	事業者向け支援事業（給付金の支給、家賃軽減など）	大学生向け支援事業（給付金の支給）	酸性電解水の無償配布	就労が必要な人の緊急雇用事業	その他	無回答
全体		723	11.9	11.8	9.5	8.7	8.4	7.6	7.2	6.1	1.1	8.6
小学校区別	芦屋小学校区	241	17.0	13.3	6.6	7.5	10.0	8.7	8.7	9.5	2.1	8.7
	芦屋東小学校区	202	7.4	13.9	11.9	5.9	6.4	4.5	5.4	4.5	0.5	6.9
	山鹿小学校区	268	10.8	9.3	10.8	12.3	9.0	9.0	7.5	4.1	0.4	7.5
性別	男性	336	10.1	10.1	8.3	8.3	9.2	6.8	7.1	5.7	2.1	7.1
	女性	372	14.0	13.7	11.0	8.9	7.8	8.1	7.3	6.5	0.3	8.6
年齢別	20歳代以下	67	16.4	16.4	13.4	7.5	6.0	13.4	7.5	6.0	－	10.4
	30歳代	74	17.6	35.1	8.1	8.1	9.5	4.1	8.1	2.7	－	2.7
	40歳代	106	16.0	18.9	11.3	8.5	9.4	6.6	6.6	4.7	1.9	5.7
	50歳代	122	17.2	6.6	9.0	10.7	11.5	15.6	6.6	8.2	2.5	8.2
	60歳代	163	11.7	9.2	10.4	9.8	9.8	6.7	6.7	8.0	0.6	4.9
	70歳以上	182	2.7	2.7	7.7	7.7	5.5	2.7	8.2	5.5	1.1	12.1

※ ■ は１番多い項目、 □ は２番目に多い項目を示している

■過年度比較

過年度で比較すると、「全町民向け支援事業（給付金の支給、商品券の配布）」と「全世帯向け支援事業（上下水道代・電気代給付金、ごみ袋配布、お米購入補助券配布）」の割合が突出して高い割合となっています。

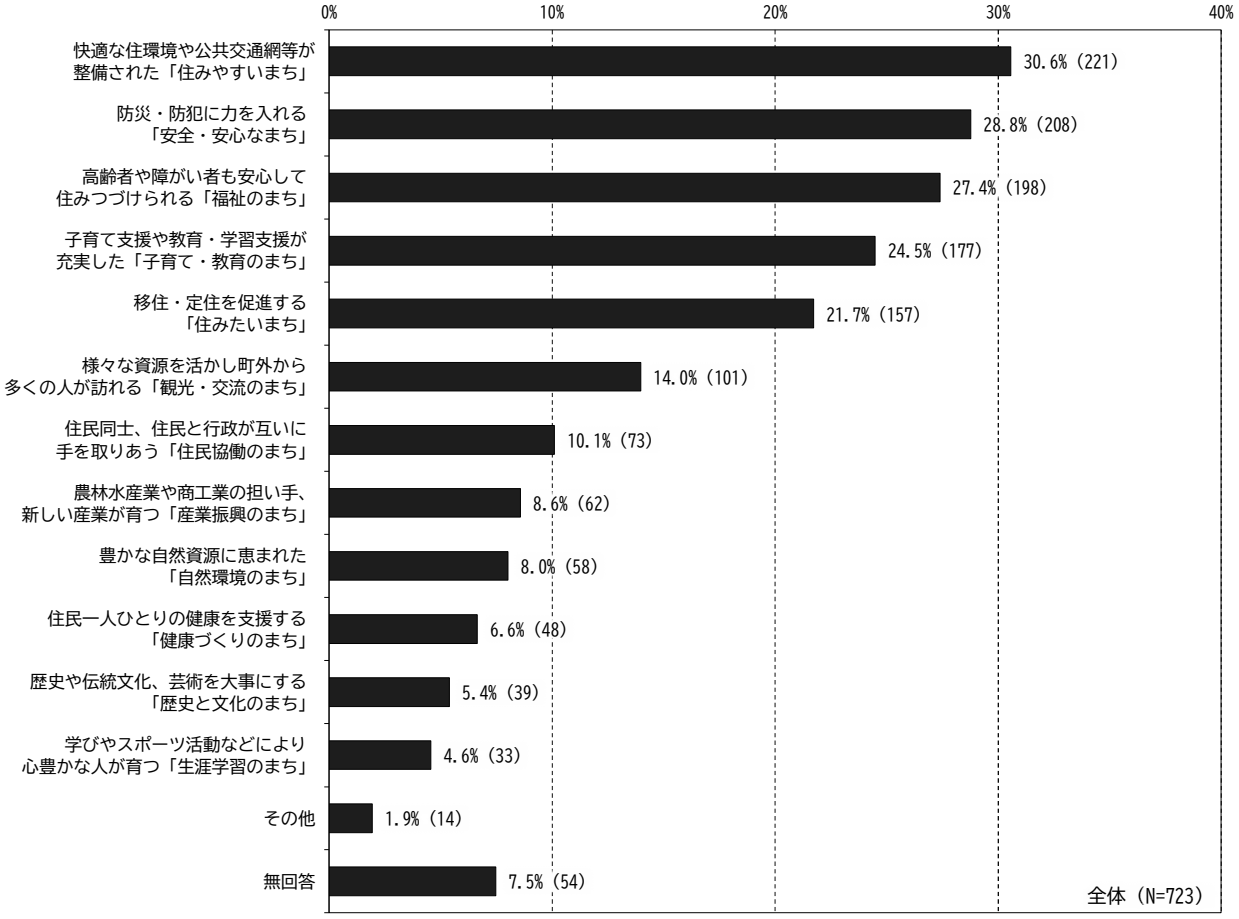


（※1）H26 年、R 元年では設問を設けていない
（※2）「低所得世帯への支援事業（給付金の受給）」はＲ４年では設定なし

５．今後の芦屋町について

問 29　芦屋町が今後 10 年間のまちづくりで、特に力を入れるべきことはどれだと思いますか。（複数回答）

今後 10 年間のまちづくりで、特に力を入れるべきことをみると、「住みやすいまち」の割合が 30.6%で最も高く、次いで「安全・安心なまち」が 28.8%、「福祉のまち」が 27.4%などの順となっています。



小学校区別でみると、芦屋東小学校区では「安全・安心なまち」（32.2%）が最も高くなっています。また、芦屋東小学校区では「住みたいまち」（26.2%）、山鹿小学校区では「福祉のまち」（31.0%）が他の校区より高くなっています。

性別でみると、大きな差はありません。

年齢別でみると、40 歳代以下は「子育て・教育のまち」、50 歳代は「住みやすいまち」、60 歳代以上は「福祉のまち」が最も高くなっています。

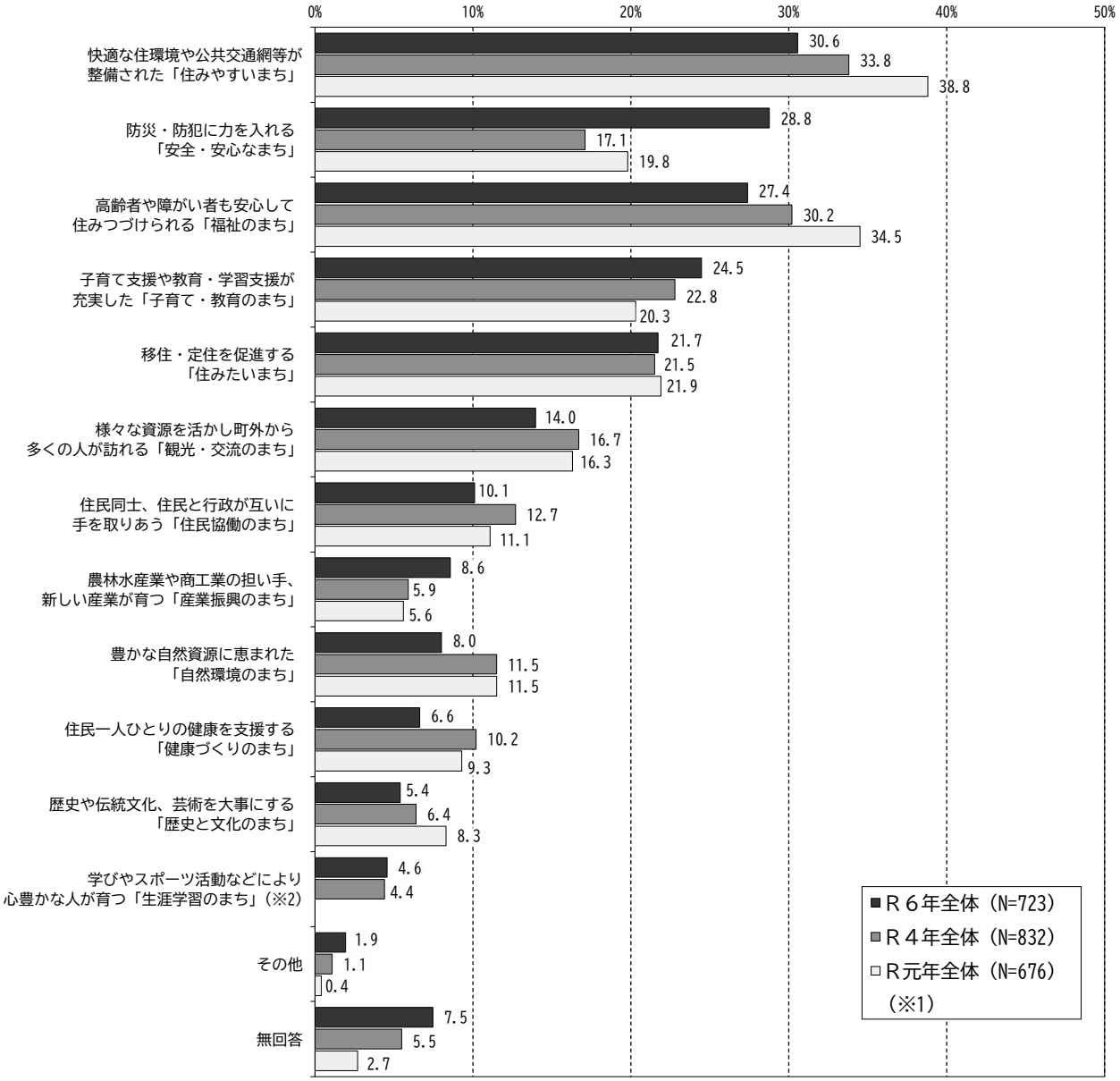
単位：%

		サンプル数（人）	快適な住環境や公共交通網等が整備された「住みやすいまち」	防災・防犯に力を入れる「安全・安心なまち」	高齢者や障がい者も安心して住みつづけられる「福祉のまち」	子育て支援や教育・学習支援が充実した「子育て・教育のまち」	移住・定住を促進する「住みたいまち」	様々な資源を活かし町外から多くの人が訪れる「観光・交流のまち」	住民同士、住民と行政が互いに手を取りあう「住民協働のまち」	農林水産業や商工業の担い手、新しい産業が育つ「産業振興のまち」	豊かな自然資源に恵まれた「自然環境のまち」	住民一人ひとりの健康を支援する「健康づくりのまち」	歴史や伝統文化、芸術を大事にする「歴史と文化のまち」	学びやスポーツ活動などにより心豊かな人が育つ「生涯学習のまち」	その他	無回答
全体		723	**30.6**	**28.8**	27.4	24.5	21.7	14.0	10.1	8.6	8.0	6.6	5.4	4.6	1.9	7.5
小学校区別	芦屋小学校区	241	**32.8**	**30.3**	26.1	24.5	20.7	17.8	11.2	9.5	7.9	6.6	7.5	3.7	2.9	7.5
	芦屋東小学校区	202	**26.2**	**32.2**	24.3	25.7	**26.2**	10.4	12.9	8.4	5.4	8.4	3.5	4.0	1.0	7.4
	山鹿小学校区	268	**32.8**	25.7	**31.0**	24.6	20.1	13.8	7.5	7.8	10.1	5.6	5.2	5.6	1.5	5.2
性別	男性	336	**29.5**	**30.4**	27.7	23.2	23.2	14.0	9.8	10.1	8.9	6.8	5.7	4.2	3.3	5.1
	女性	372	**32.0**	**27.4**	**27.4**	26.1	20.7	14.2	10.8	7.0	7.5	6.7	5.4	4.8	0.8	8.3
年齢別	20歳代以下	67	**29.9**	23.9	10.4	**37.3**	20.9	14.9	11.9	9.0	4.5	9.0	6.0	4.5	4.5	10.4
	30歳代	74	**28.4**	27.0	14.9	**54.1**	21.6	14.9	6.8	4.1	9.5	1.4	4.1	1.4	1.4	2.7
	40歳代	106	26.4	21.7	14.2	**44.3**	**28.3**	17.0	9.4	7.5	5.7	8.5	8.5	7.5	2.8	5.7
	50歳代	122	**41.0**	**31.1**	22.1	18.0	22.1	13.1	7.4	8.2	5.7	7.4	4.1	4.1	3.3	9.8
	60歳代	163	**34.4**	33.7	**35.6**	14.7	21.5	17.2	8.0	11.0	12.3	6.1	4.9	3.1	1.2	4.3
	70歳以上	182	25.3	**30.8**	**43.4**	10.4	19.2	9.9	15.4	8.8	8.2	7.1	5.5	5.5	0.5	7.1

※ **■** は１番多い項目、 ■ は２番目に多い項目を示している

■過年度比較

過年度で比較すると、「住みやすいまち」は１番高い割合であるものの、毎回低下傾向にあることがわかります。同じく「福祉のまち」の割合も低下傾向にありますが、「子育て・教育のまち」の割合は、上昇傾向にあります。また、令和４年度調査よりも「安全・安心なまち」の割合が 11.7 ポイント大きく上昇しています。



（※1）H26 年では設問を設けていない

（※2）「学びやスポーツ活動などにより心豊かな人が育つ「生涯学習のまち」」はＲ元年では設定なし

Ⅲ　調査結果の経年比較分析
（平成 26 年度～令和 6 年度）

1．調査票回収状況

１．調査票回収状況

平成 26 年度から令和６年度の調査票の回収率をみると、平成 26 年度の 45.0%が最も高く、前回の令和４年度からは 5.4 ポイント低下しています。

	配布数（Ａ）	回収票数（Ｂ）	回収率　（Ｂ）/（Ａ）
令和６年度	2,000	723	36.2%
令和４年度	2,000	832	41.6%
令和元年度	2,000	676	33.8%
平成 29 年度	2,000	797	39.9%
平成 26 年度	2,000	900	45.0%

2. 満足度と重要度の経年比較による分析

平成 26 年度から令和６年度のコミュニティ活動状況調査（住民意識調査）の満足度と重要度の結果を比較し、分析を行いました。

【平均評定値】	満足度					重要度				
	H26	H29	R元	R４	R６	H26	H29	R元	R４	R６
平均	**2.70**	**2.73**	**2.72**	**2.97**	**2.87**	**2.99**	**3.00**	**3.04**	**3.09**	**3.08**
公共交通機関の利便性	1.99	2.00	1.98	2.21	2.23	3.21	3.22	3.27	3.14	3.21
道路網の利便性や生活道路の整備	2.72	2.62	2.67	2.67	2.71	3.05	3.03	3.08	3.06	3.12
交通安全の推進	2.59	2.51	2.52	2.62	2.57	3.19	3.16	3.21	3.12	3.18
上水道の安定供給	3.22	3.35	3.30	3.39	3.38	3.26	3.26	3.38	3.38	3.40
下水道の管理運営	3.23	3.31	3.28	3.36	3.32	3.27	3.28	3.36	3.33	3.39
地震や風水害などの防災対策	2.56	2.63	2.61	3.10	2.98	3.38	3.37	3.39	3.33	3.36
火事などの消防対策	3.06	3.09	3.11	3.19	3.20	3.34	3.37	3.38	3.20	3.37
犯罪などの防犯対策	2.58	2.47	2.46	2.66	2.44	3.32	3.32	3.36	3.18	3.40
町並み、景観の向上	2.74	2.77	2.64	2.83	2.83	2.82	2.88	2.88	2.97	2.91
公園や緑地の充実	2.61	2.85	2.93	2.96	3.02	2.81	2.79	2.82	2.96	2.93
ごみの資源化や減量化	2.93	2.83	2.85	3.09	2.99	2.90	2.92	2.98	3.04	3.04
海や川などの自然環境の保全	2.81	2.82	2.86	2.91	2.93	3.01	2.96	3.03	3.02	3.00
生活環境の向上	2.32	2.30	2.33	2.54	2.49	3.09	3.04	3.07	3.06	3.10
農業の振興	2.83	2.66	2.62	2.92	2.75	2.80	2.91	2.92	3.02	3.05
漁業の振興	2.78	2.70	2.62	2.90	2.72	2.82	2.88	2.94	3.03	3.04
商業の振興	2.63	2.63	2.54	3.22	3.15	2.76	2.69	2.78	3.07	3.17
商店街などの中心市街地の整備	2.08	1.91	1.86	2.47	2.16	3.02	3.00	3.02	3.10	3.07
観光の振興	2.49	2.56	2.61	2.76	2.73	3.00	2.96	3.03	3.01	3.03
イベントの開催	2.73	2.84	2.92	3.05	3.08	2.94	2.91	2.96	3.09	3.02
地域医療の充実	2.22	2.59	2.62	2.96	2.95	3.38	3.38	3.41	3.42	3.42
健康づくり事業の充実	2.98	3.02	3.07	3.18	3.24	3.20	3.19	3.27	3.33	3.34
高齢者福祉の充実	2.74	2.86	2.78	3.05	2.78	3.17	3.19	3.19	3.15	3.13
障がい者福祉の充実	2.79	2.81	2.70	3.04	2.88	3.14	3.19	3.20	3.16	3.16
児童福祉、子育て支援の充実	2.83	2.91	2.97	3.18	3.21	3.19	3.25	3.22	3.21	3.37
学校教育と就学前の教育の充実	2.86	2.89	2.97	3.17	3.07	3.26	3.25	3.33	3.23	3.31
生涯学習の充実	2.83	2.86	2.85	3.13	2.91	2.81	2.85	2.84	2.98	2.79
公民館などの社会教育施設の充実	2.86	2.83	2.86	3.00	2.90	2.88	2.88	2.87	3.02	2.89
人権教育の推進	2.83	2.93	2.80	3.05	2.98	2.60	2.67	2.59	2.88	2.70
地域などのコミュニティの活性化	2.71	2.75	2.70	2.86	2.76	2.72	2.85	2.83	2.98	2.79
レクリエーション、スポーツの振興	2.86	2.83	2.85	3.11	2.95	2.73	2.74	2.84	2.82	2.77
歴史・文化の振興	2.82	2.91	2.85	3.12	3.04	2.66	2.72	2.75	2.83	2.81
国際交流の推進	2.90	2.94	2.90	3.05	2.96	2.64	2.63	2.65	2.88	2.82
男女共同参画の推進	2.77	2.84	2.74	2.95	2.82	2.58	2.60	2.58	2.79	2.63
雇用対策や就業環境の向上	2.40	2.34	2.19	2.89	2.44	3.04	2.97	3.03	2.99	3.08
町内情報通信基盤の整備	2.55	2.60	2.59	3.06	2.83	2.80	2.79	2.87	2.94	2.92
町の情報の積極的な公表・発信	2.78	2.91	2.83	3.11	3.06	2.93	2.93	2.95	3.07	2.98
まちづくりへの住民参画・協働	2.50	2.49	2.43	2.78	2.63	2.95	2.94	2.99	3.08	2.98
ボートレース事業の振興	2.67	2.76	2.73	3.18	3.14	2.78	2.85	2.92	3.10	3.06
行財政改革の推進	2.41	2.42	2.34	2.92	2.78	3.21	3.28	3.29	3.37	3.36

１．満足度の分析

【満足度が上昇・低下した主な項目】

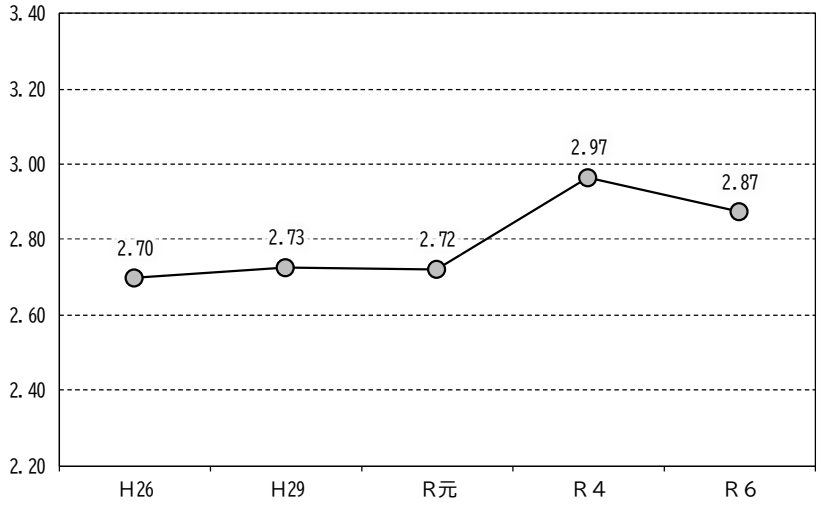
上昇した主な項目	低下した主な項目
①公園や緑地の充実	①雇用対策や就業環境の向上
②健康づくり事業の充実	②商店街などの中心市街地の整備
③道路網の利便性や生活道路の整備	③高齢者福祉の充実
④イベントの開催	④町内情報通信基盤の整備
⑤児童福祉、子育て支援の充実	⑤犯罪などの防犯対策

（１）満足度について

「満足」４点、「やや満足」３点、「やや不満」２点、「不満」１点の設定であるため、平均は2.5点です。

平成26年度から令和元年度にかけては横ばいが続いたものの、令和４年度は0.25ポイント上昇し、今回の令和６年度は0.10ポイント低下となっています。

令和４年度と比較して低下したものの、令和元年度と比較すると0.15ポイント上昇しており、第６次芦屋町総合計画前期基本計画期間中の町の取り組みが評価されたものと考えられます。

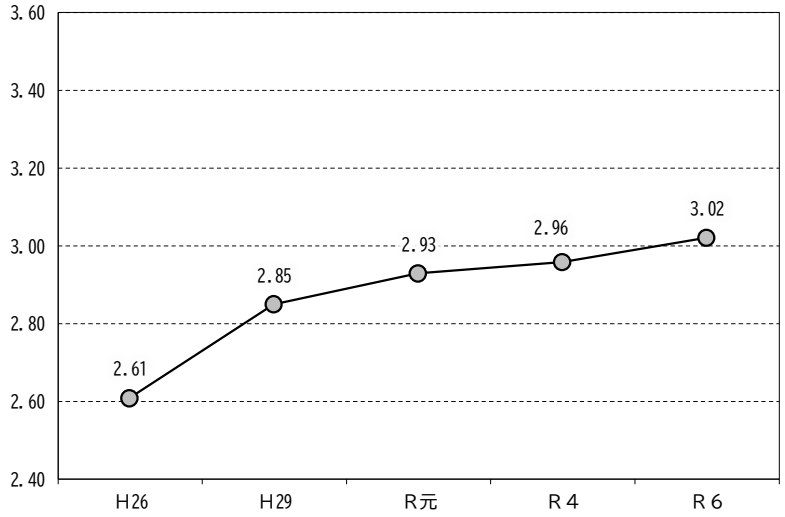


（２）満足度が上昇した主な項目について

①公園や緑地の充実

満足度は平成 26 年度から平成 29 年度に 0.24 ポイント上昇、そこから平成 29 年度から令和４年度にかけて 0.11 ポイントゆるやかに上昇し、今回の令和６年度には 0.06 ポイントと上昇が続いています。令和４年度調査から上昇した理由として以下の事項が考えられます。

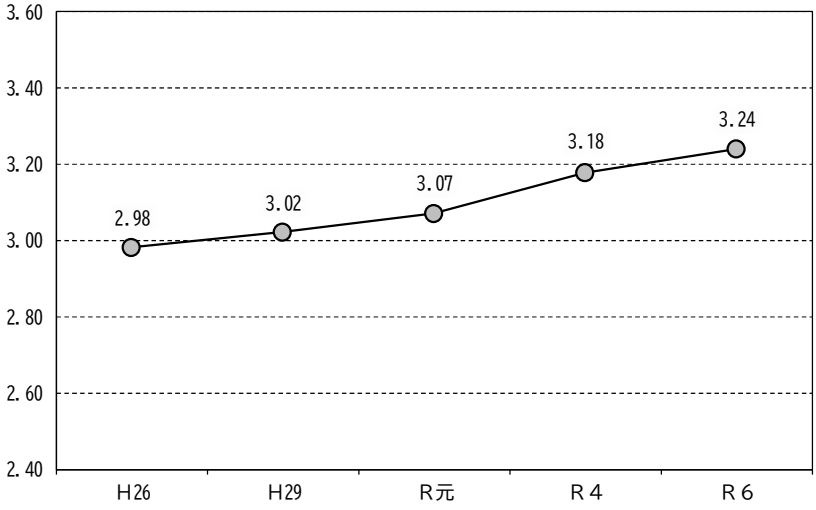
・ 毎年実施している公園点検の結果や地域要望などにより、公園遊具などの修繕や新設を実施するなど、公園毎のニーズにあった整備を行った。



②健康づくり事業の充実

満足度は平成 26 年度から令和４年度にかけて 0.20 ポイントゆるやかに上昇し、今回の令和６年度には 0.06 ポイントと上昇が続いています。令和４年度調査から上昇した理由として以下の事項が考えられます。

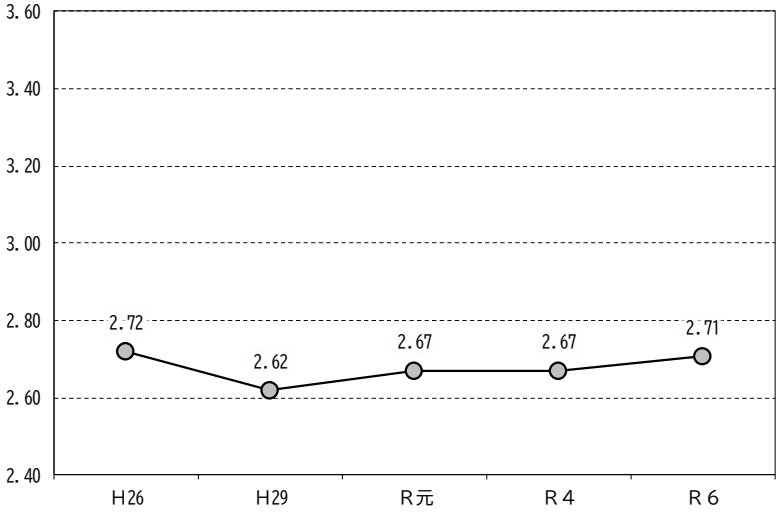
・ 特定健診においては、令和４年度から２年連続受診している人の自己負担金を無料とした。令和５年度からは予約が取りやすいよう勧奨ハガキの返信での予約や、ホームページのアンケート機能を活用した予約を開始した。
・ がん検診においては、令和４年度から国の無料クーポン事業とは別に町独自で無料クーポンを配布した。



③道路網の利便性や生活道路の整備

満足度は平成 26 年度から平成 29 年度に 0.10 ポイント低下したものの、平成 29 年度から令和４年度にほぼ横ばいで、今回の令和６年度に 0.04 ポイントの上昇となっています。令和４年度調査から上昇した理由として以下の事項が考えられます。

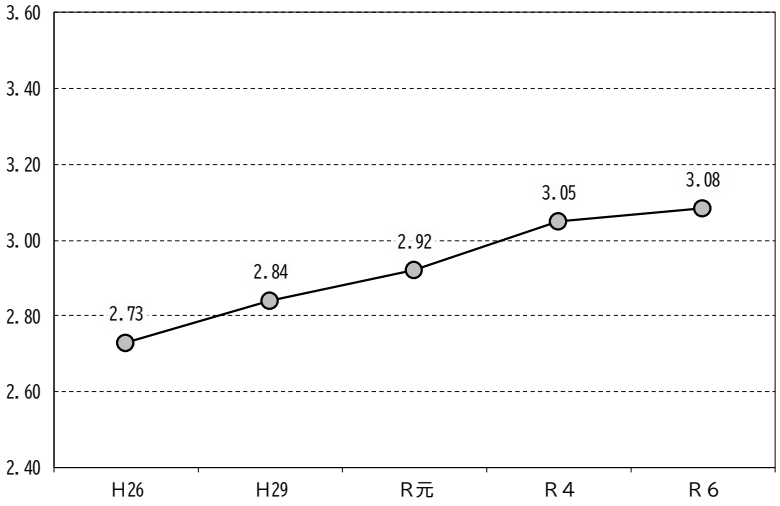
・ 道路の個別施設計画に基づき、毎年３～４路線の舗装の修繕及び安全・安心な歩行空間の整備を実施した。



④イベントの開催

満足度は平成 26 年度から令和４年度にかけて 0.32 ポイント上昇し、今回の令和６年度に 0.03 ポイントと上昇が続いています。令和４年度調査から上昇した理由として以下の事項が考えられます。

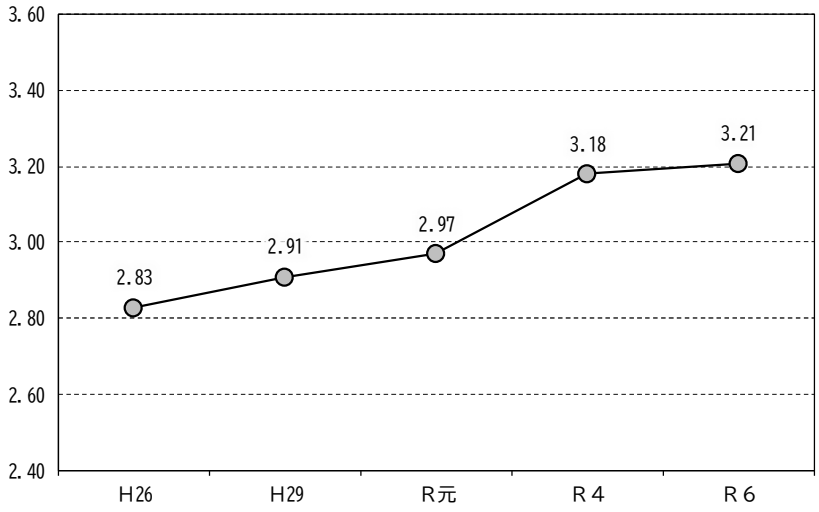
・ 新型コロナウイルス感染症の影響により、令和２年度から多くのイベントを中止したが、令和５年度に５類感染症に移行したことで各種イベントを再開することができた。



⑤児童福祉、子育て支援の充実

満足度は平成 26 年度から令和元年度にかけて 0.14 ポイントゆるやかに上昇し、そこから令和４年度に 0.21 ポイント、今回の令和６年度に 0.03 ポイントと上昇が続いています。令和４年度調査から上昇した理由として以下の事項が考えられます。

・ 小中学校給食費の半額補助を、令和６年９月から無償化に拡充した。

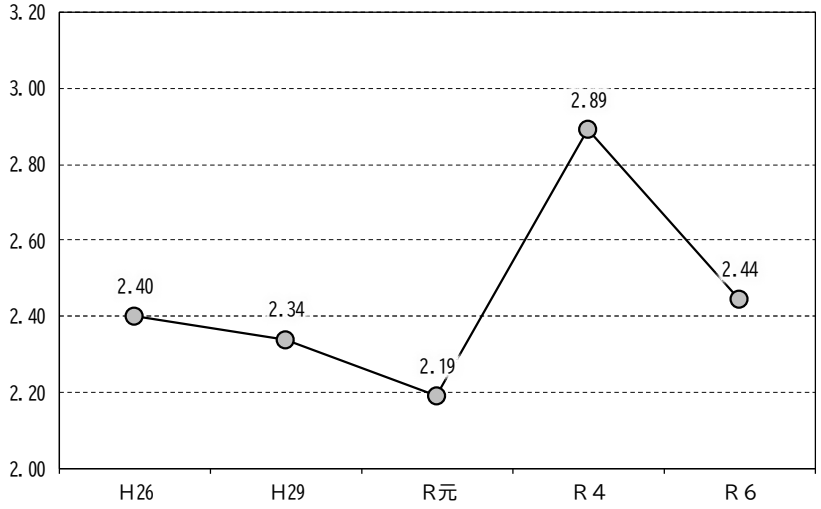


（３）満足度が低下した主な項目について

①雇用対策や就業環境の向上

平成 26 年度から令和元年度にかけて 0.21 ポイント低下し、そこから令和４年度に 0.70 ポイント上昇しているが、今回の令和６年度に 0.45 ポイント低下となっています。令和４年度調査から低下した理由として以下の事項が考えられます。

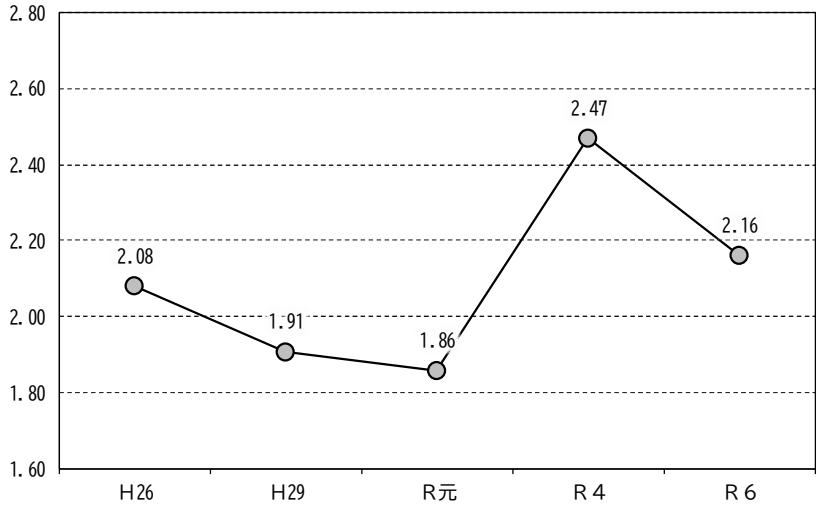
・ 新型コロナウイルス感染症対策による町内事業者への給付金支援などが令和４年度をもって終了した。



②商店街などの中心市街地の整備

平成 26 年度から令和元年度にかけて 0.22 ポイント低下し、そこから令和４年度に 0.61 ポイント上昇しているが、今回の令和６年度に 0.31 ポイント低下となっています。令和４年度調査から低下した理由として以下の事項が考えられます。

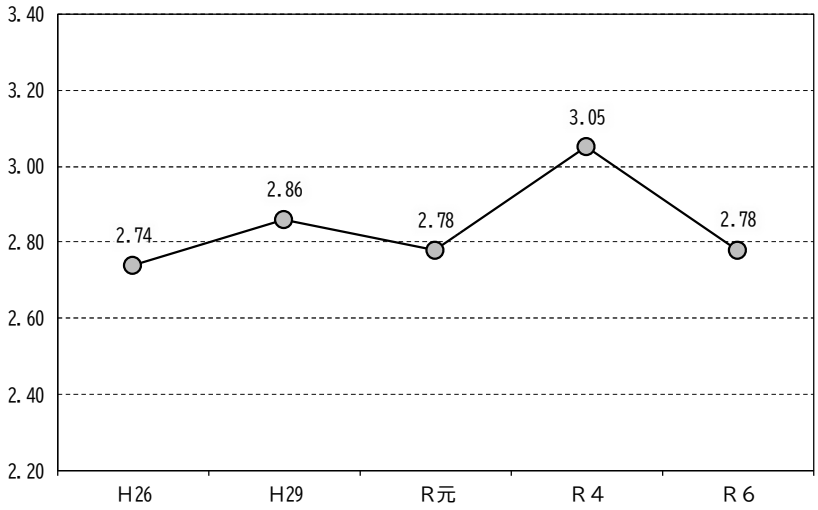
・ 郊外に大型スーパーや飲食店等が増えていく一方で、商店街の空き店舗やシャッター街化の増加等を懸念する声が多くなった。



③高齢者福祉の充実

平成 26 年度から令和４年度にかけて上昇や低下を繰り返し、今回の令和６年度に 0.27 ポイント低下となっています。令和４年度調査から低下した理由として以下の事項が考えられます。

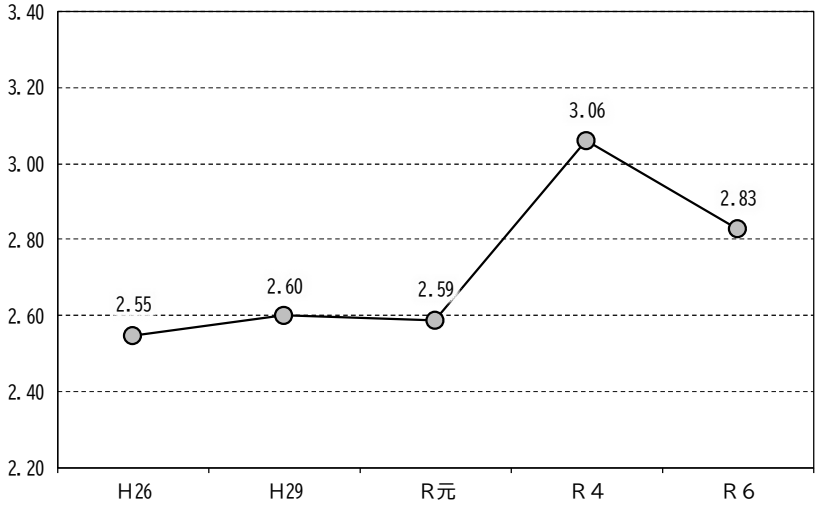
・ 団塊世代の高齢化により、高齢者人口の割合が増え高齢者福祉に関するニーズが増えていくとともに、多様化した。



④町内情報通信基盤の整備

平成 26 年度から令和元年度にかけてはほぼ横ばいで、そこから令和４年度に 0.47 ポイント上昇したものの、今回の令和６年度に 0.23 ポイント低下となっています。令和４年度調査から低下した理由として以下の事項が考えられます。

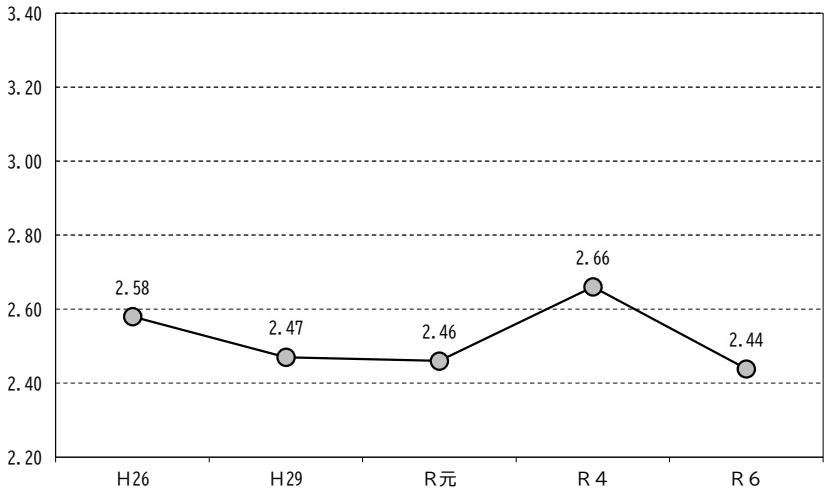
・ 近年デジタル社会の実現に向け情報通信機器等のニーズが高まっているため、より整備を望む声が増えた。



⑤犯罪などの防犯対策

平成 26 年度から令和元年度にかけて 0.12 ポイント低下し、そこから令和４年度に 0.20 ポイント上昇しているが、今回の令和６年度に 0.22 ポイント低下となっています。令和４年度調査から低下した理由として以下の事項が考えられます。

・ 都市化、核家族化、住民意識の多様化など時代の流れとともに変化していく犯罪情勢により、防犯対策を求める声が増えた。



２．重要度の分析

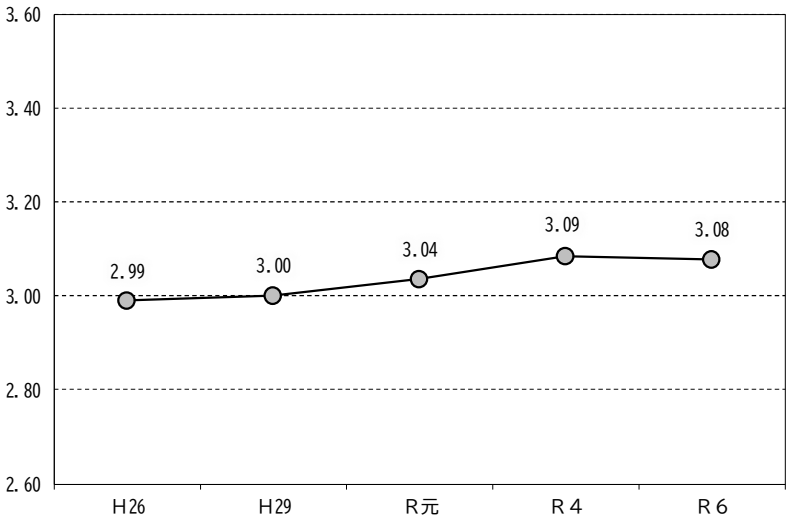
【重要度が上昇・低下した主な項目】

上昇した主な項目	低下した主な項目
①犯罪などの防犯対策	①生涯学習の充実
②火事などの消防対策	②地域などのコミュニティの活性化
③児童福祉、子育て支援の充実	③人権教育の推進
④商業の振興	④男女共同参画の推進
⑤雇用対策や就業環境の向上	⑤公民館などの社会教育施設の充実

（１） 重要度について

「極めて重要」４点、「重要」３点、「あまり重要でない」２点、「重要でない」１点の設定であるため、平均は 2.5 点です。

平成 26 年度から令和６年度までの重要度の平均評定値をみると、全項目の平均はほぼ同水準となっています。



（２）重要度の年度別の傾向について

重要度の平均評定値が高い項目は、１位は「地域医療の充実」で 3.42 点、２位は「上水道の安定供給」と「犯罪などの防犯対策」で 3.40 点、以下「下水道の管理運営」（４位、3.39 点）、「火事などの消防対策」と「児童福祉、子育て支援の充実」（５位、3.37 点）などの順となっています。

過去の調査の上位５位までの重要度をみると、毎回必ず４位までに入っていた「地震や風水害などの防災対策」（今回７位）と平成 29 年度と令和４年度で５位までに入っていた「行財政改革の推進」（今回７位）は順位を下げており、替わって「犯罪などの防犯対策」（今回２位）と「火事などの消防対策」（今回５位）、「児童福祉、子育て支援の充実」（今回５位）が上位となっています。

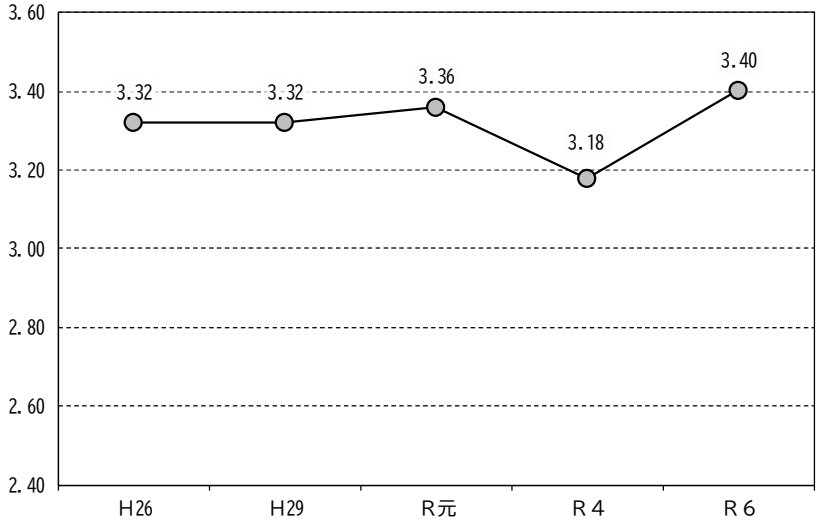
【重要度の変動】

項目名	H26		H29		R元		R４		R６	
地域医療の充実	1位	3.38	1位	3.38	1位	3.41	1位	3.42	1位	3.42
上水道の安定供給	6位	3.26	7位	3.26	3位	3.38	2位	3.38	2位	3.40
犯罪などの防犯対策	4位	3.32	4位	3.32	5位	3.36	10位	3.18	2位	3.40
下水道の管理運営	5位	3.27	5位	3.28	5位	3.36	4位	3.33	4位	3.39
火事などの消防対策	3位	3.34	2位	3.37	3位	3.38	9位	3.20	5位	3.37
児童福祉、子育て支援の充実	11位	3.19	8位	3.25	11位	3.22	8位	3.21	5位	3.37
地震や風水害などの防災対策	1位	3.38	2位	3.37	2位	3.39	4位	3.33	7位	3.36
行財政改革の推進	8位	3.21	5位	3.28	8位	3.29	3位	3.37	7位	3.36

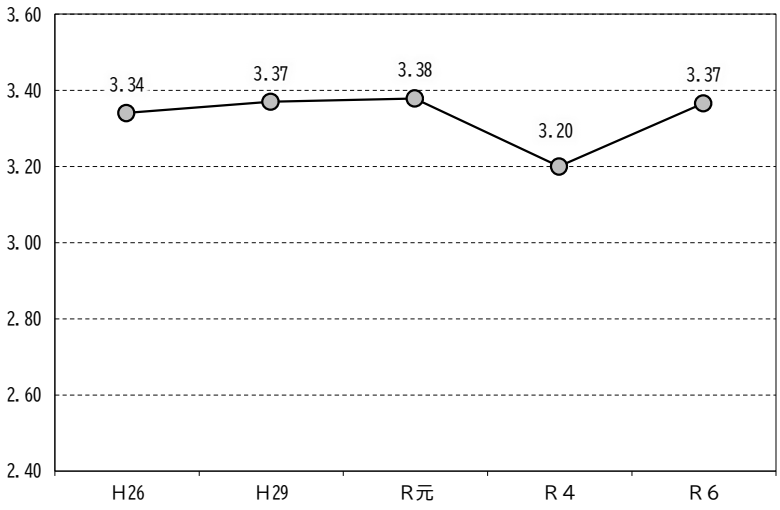
（３）重要度が上昇した主な項目について

令和６年度調査で重要度が特に上昇した５項目は、①「犯罪などの防犯対策」（0.22 ポイント上昇）、②「火事などの消防対策」（0.17 ポイント上昇）、③「児童福祉、子育て支援の充実」（0.16 ポイント上昇）、④「商業の振興」（0.10 ポイント上昇）、⑤「雇用対策や就業環境の向上」（0.09 ポイント上昇）となっています。

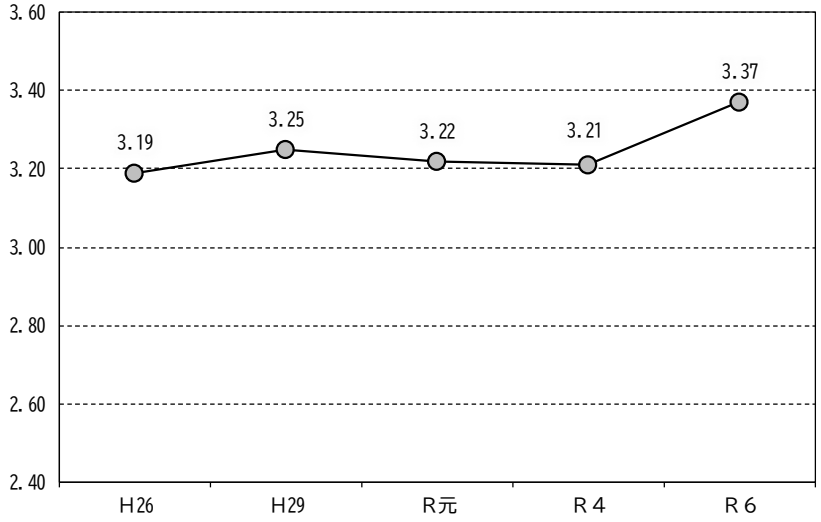
①犯罪などの防犯対策



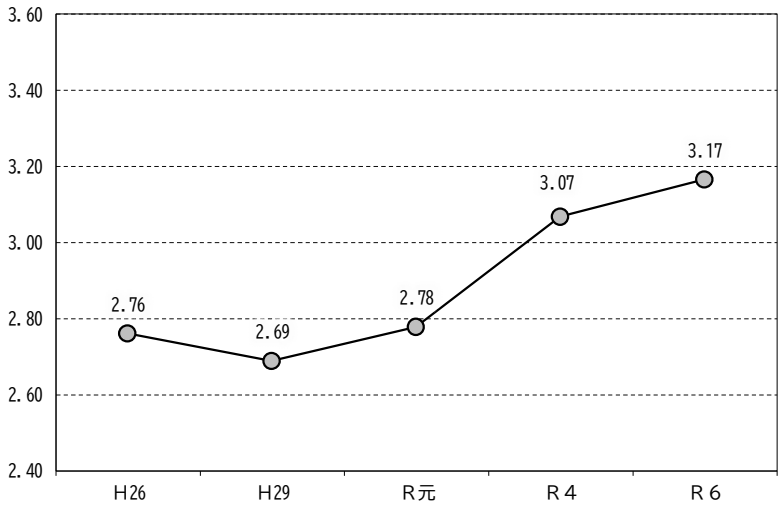
②火事などの消防対策



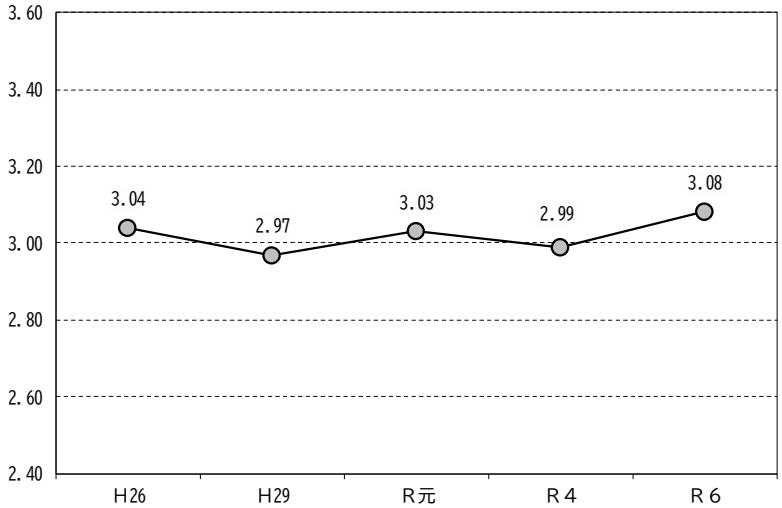
③児童福祉、子育て支援の充実



④商業の振興



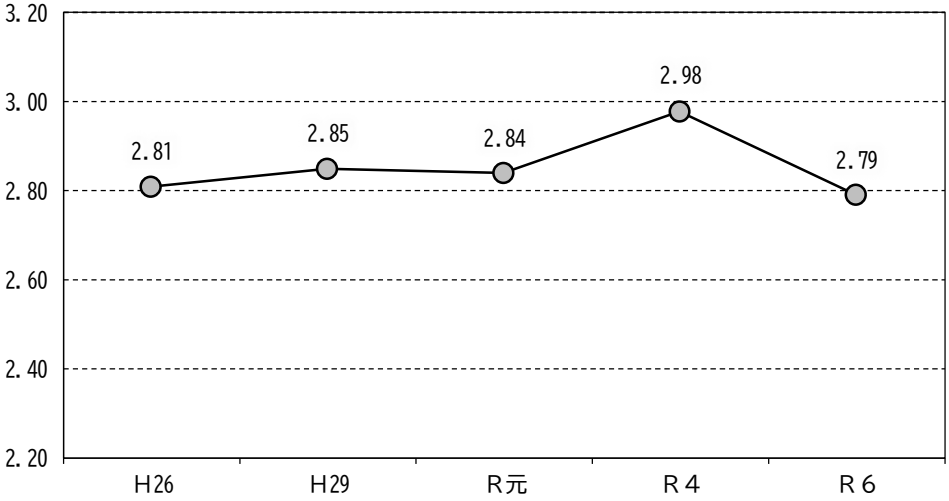
⑤雇用対策や就業環境の向上



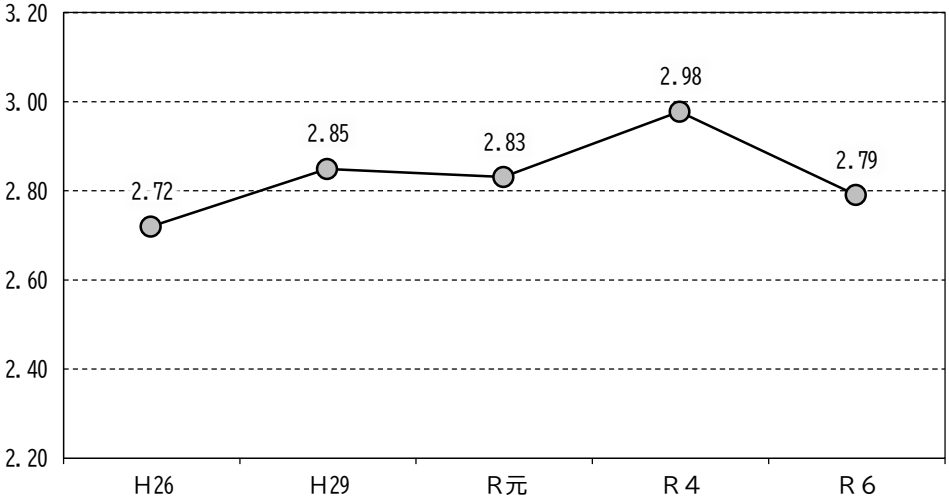
（４）重要度が低下した主な項目について

令和６年度調査で重要度が特に低下した５項目は、①「生涯学習の充実」（0.19 ポイント低下）、②「地域などのコミュニティの活性化」（0.19 ポイント低下）、③「人権教育の推進」（0.18 ポイント低下）、④「男女共同参画の推進」（0.16 ポイント低下）、⑤「公民館などの社会教育施設の充実」（0.13 ポイント低下）となっています。

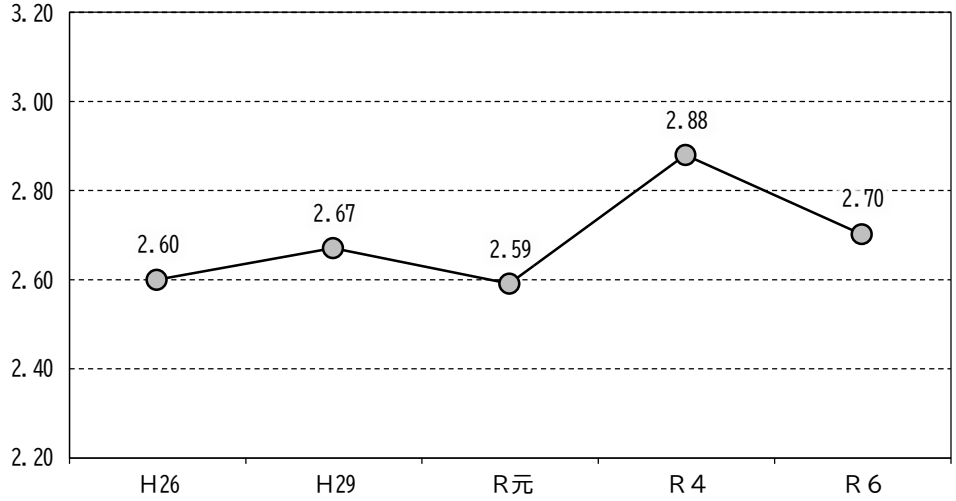
①生涯学習の充実



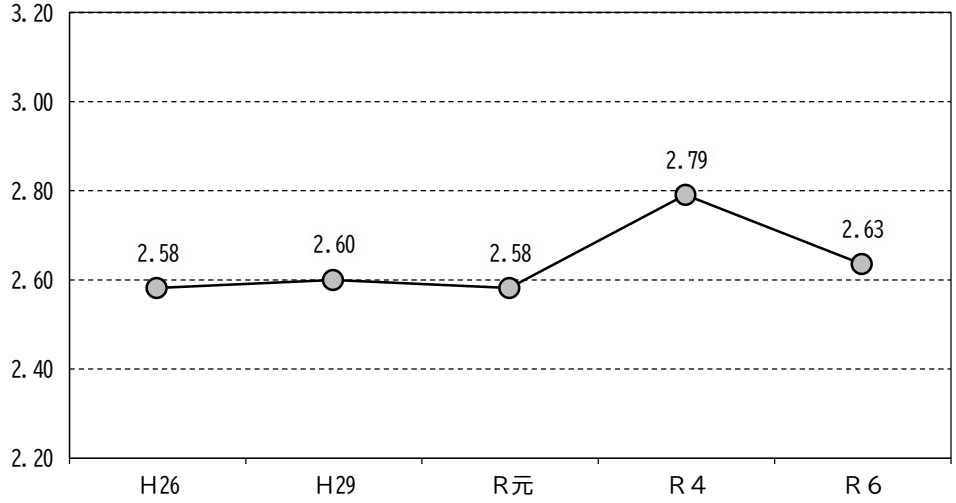
②地域などのコミュニティの活性化



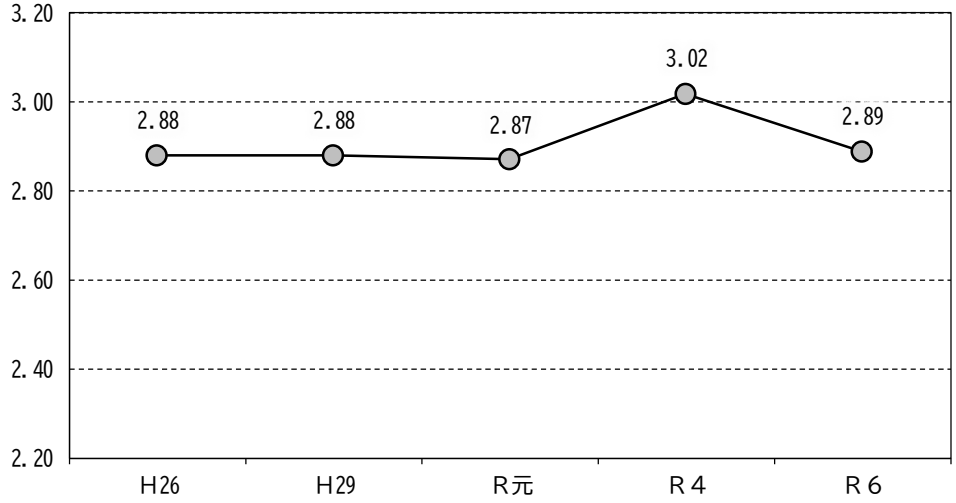
③人権教育の推進



④男女共同参画の推進



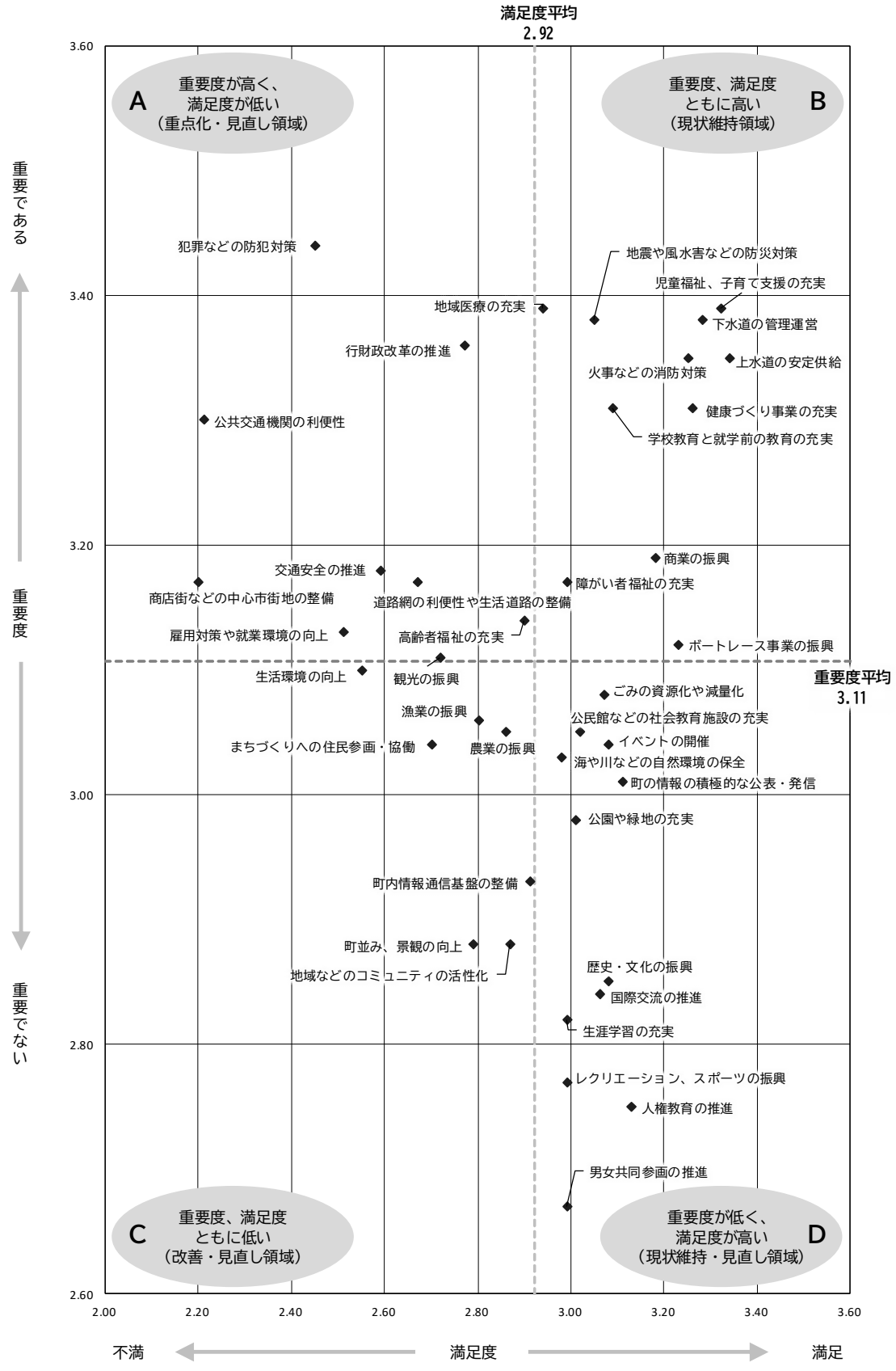
⑤公民館などの社会教育施設の充実



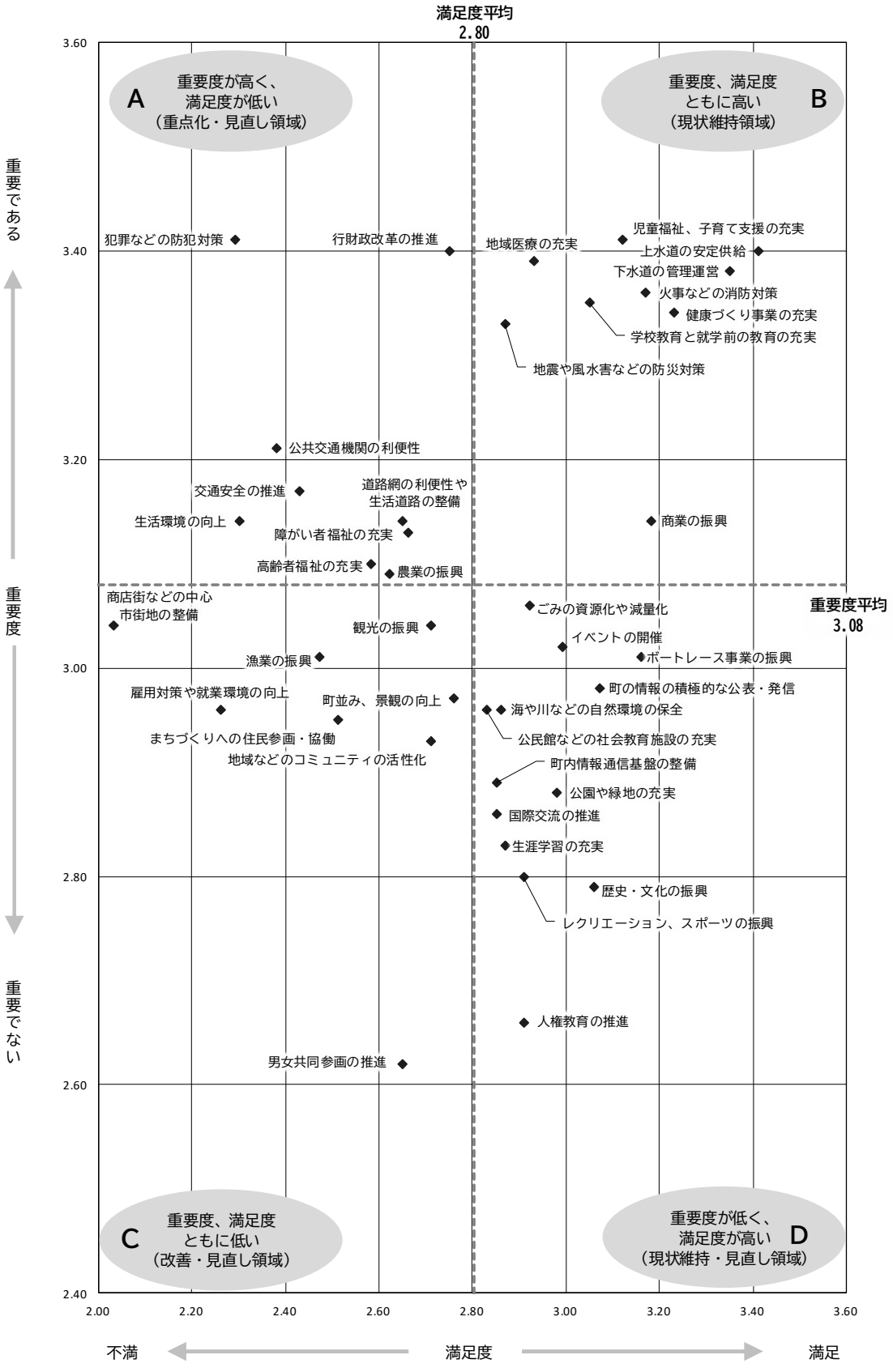
3. 資料編

1. 満足度と重要度の相関図による分析（クロス集計：小学校区別・性別・年齢別）

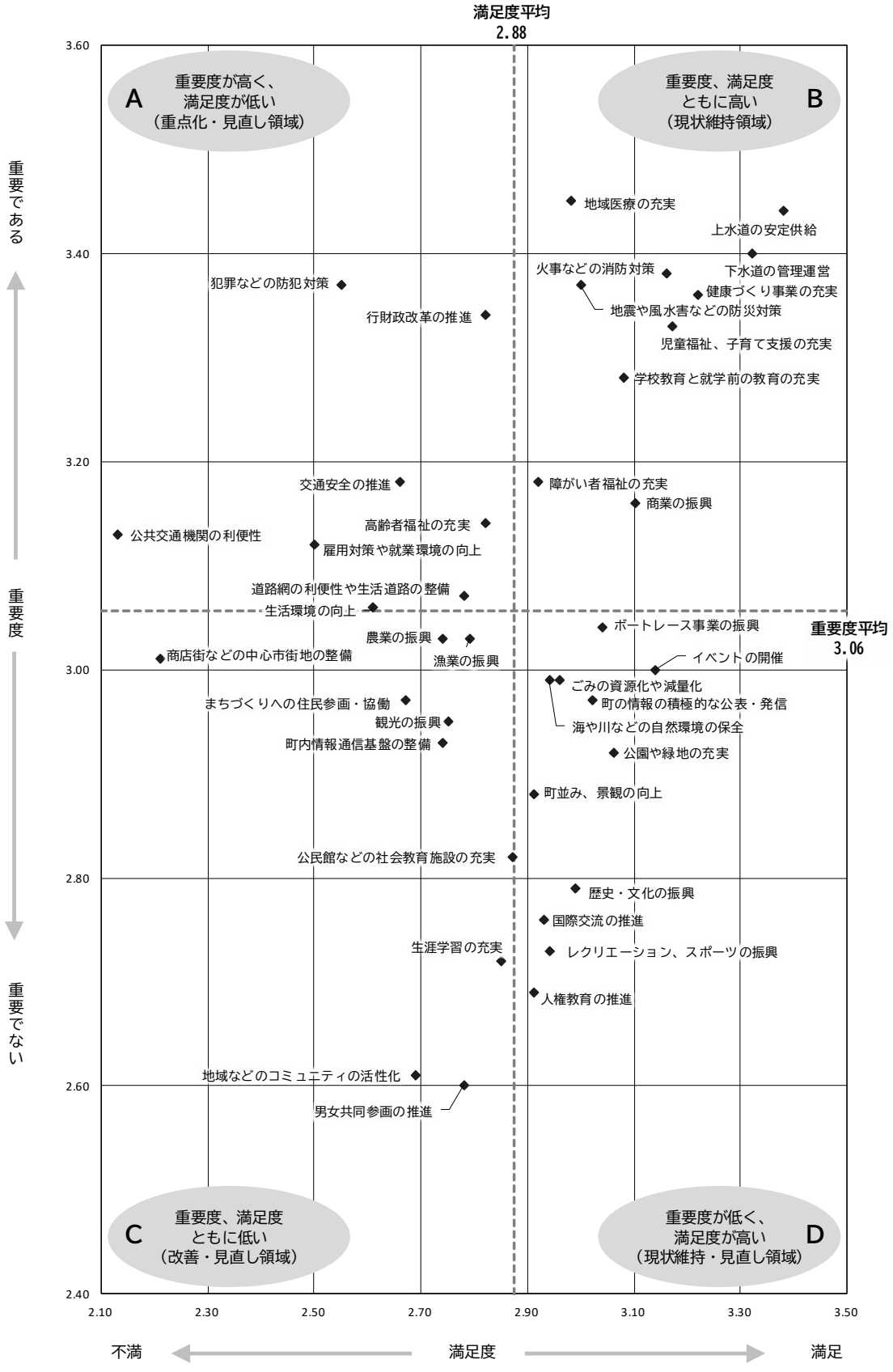
◆芦屋小学校区◆



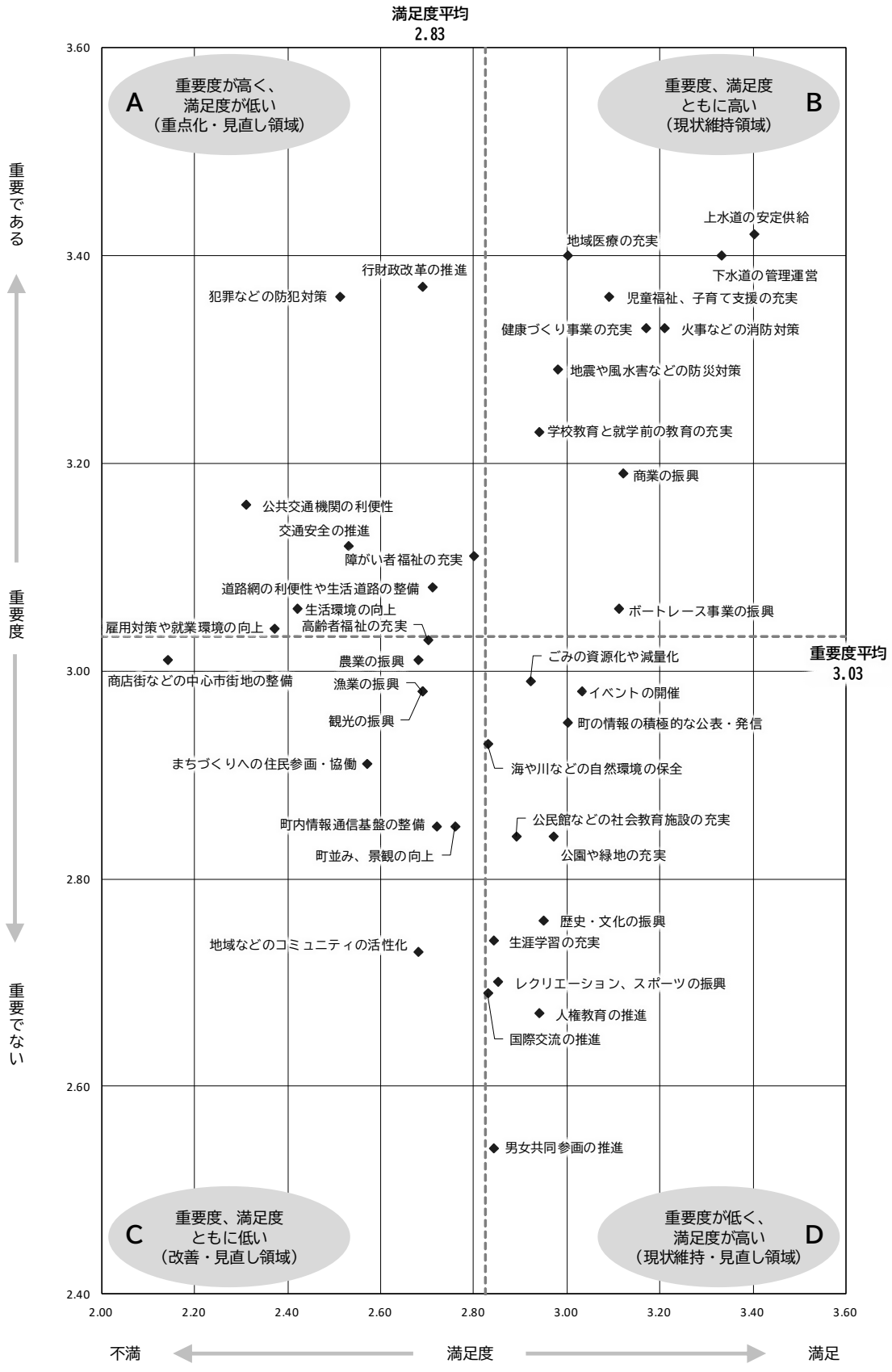
◆芦屋東小学校区◆


満足度平均
2.80
重要度平均
3.08
A
重要度が高く、
満足度が低い
（重点化・見直し領域）
B
重要度、満足度
ともに高い
（現状維持領域）
C
重要度、満足度
ともに低い
（改善・見直し領域）
D
重要度が低く、
満足度が高い
（現状維持・見直し領域）
重要である
重要度
重要でない
不満
満足度
満足
3.60
3.40
3.20
3.00
2.80
2.60
2.40
2.00
2.20
2.40
2.60
2.80
3.00
3.20
3.40
3.60
犯罪などの防犯対策
行財政改革の推進
地域医療の充実
児童福祉、子育て支援の充実
上水道の安定供給
下水道の管理運営
火事などの消防対策
健康づくり事業の充実
学校教育と就学前の教育の充実
地震や風水害などの防災対策
公共交通機関の利便性
交通安全の推進
道路網の利便性や
生活道路の整備
生活環境の向上
障がい者福祉の充実
商業の振興
高齢者福祉の充実
農業の振興
商店街などの中心
市街地の整備
観光の振興
ごみの資源化や減量化
イベントの開催
漁業の振興
ボートレース事業の振興
町の情報の積極的な公表・発信
雇用対策や就業環境の向上
町並み、景観の向上
海や川などの自然環境の保全
まちづくりへの住民参画・協働
地域などのコミュニティの活性化
公民館などの社会教育施設の充実
町内情報通信基盤の整備
公園や緑地の充実
国際交流の推進
生涯学習の充実
歴史・文化の振興
レクリエーション、スポーツの振興
人権教育の推進
男女共同参画の推進

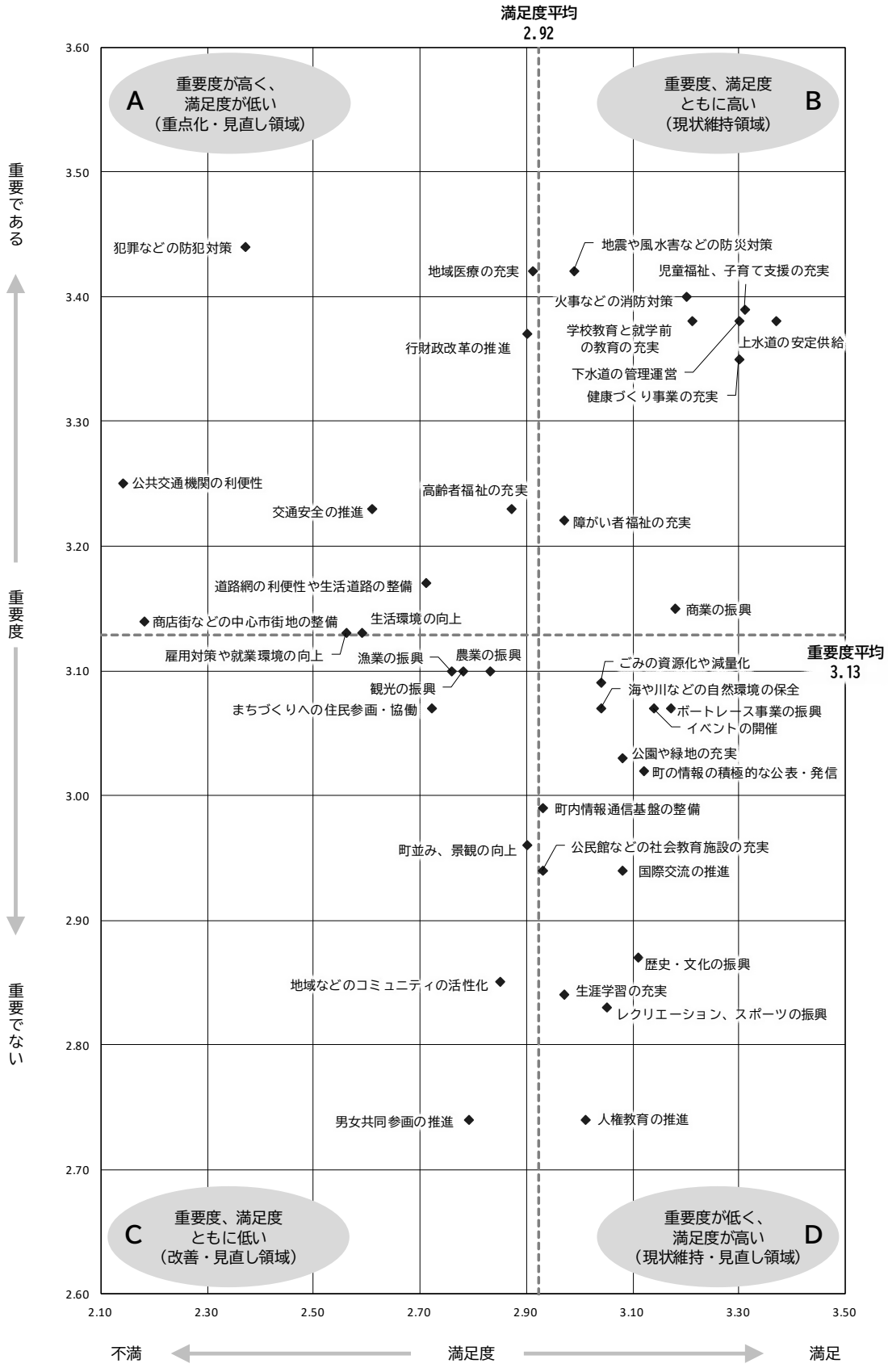
◆山鹿小学校区◆


満足度平均
2.88
重要度平均
3.06
A
重要度が高く、
満足度が低い
（重点化・見直し領域）
B
重要度、満足度
ともに高い
（現状維持領域）
C
重要度、満足度
ともに低い
（改善・見直し領域）
D
重要度が低く、
満足度が高い
（現状維持・見直し領域）
地域医療の充実
上水道の安定供給
火事などの消防対策
下水道の管理運営
健康づくり事業の充実
地震や風水害などの防災対策
児童福祉、子育て支援の充実
学校教育と就学前の教育の充実
犯罪などの防犯対策
行財政改革の推進
交通安全の推進
障がい者福祉の充実
商業の振興
高齢者福祉の充実
公共交通機関の利便性
雇用対策や就業環境の向上
道路網の利便性や生活道路の整備
生活環境の向上
ボートレース事業の振興
農業の振興
商店街などの中心市街地の整備
漁業の振興
イベントの開催
ごみの資源化や減量化
町の情報の積極的な公表・発信
まちづくりへの住民参画・協働
観光の振興
海や川などの自然環境の保全
町内情報通信基盤の整備
公園や緑地の充実
町並み、景観の向上
公民館などの社会教育施設の充実
歴史・文化の振興
国際交流の推進
生涯学習の充実
レクリエーション、スポーツの振興
人権教育の推進
地域などのコミュニティの活性化
男女共同参画の推進
3.60
3.40
3.20
3.00
2.80
2.60
2.40
2.10
2.30
2.50
2.70
2.90
3.10
3.30
3.50
重要である
重要度
重要でない
不満
満足度
満足

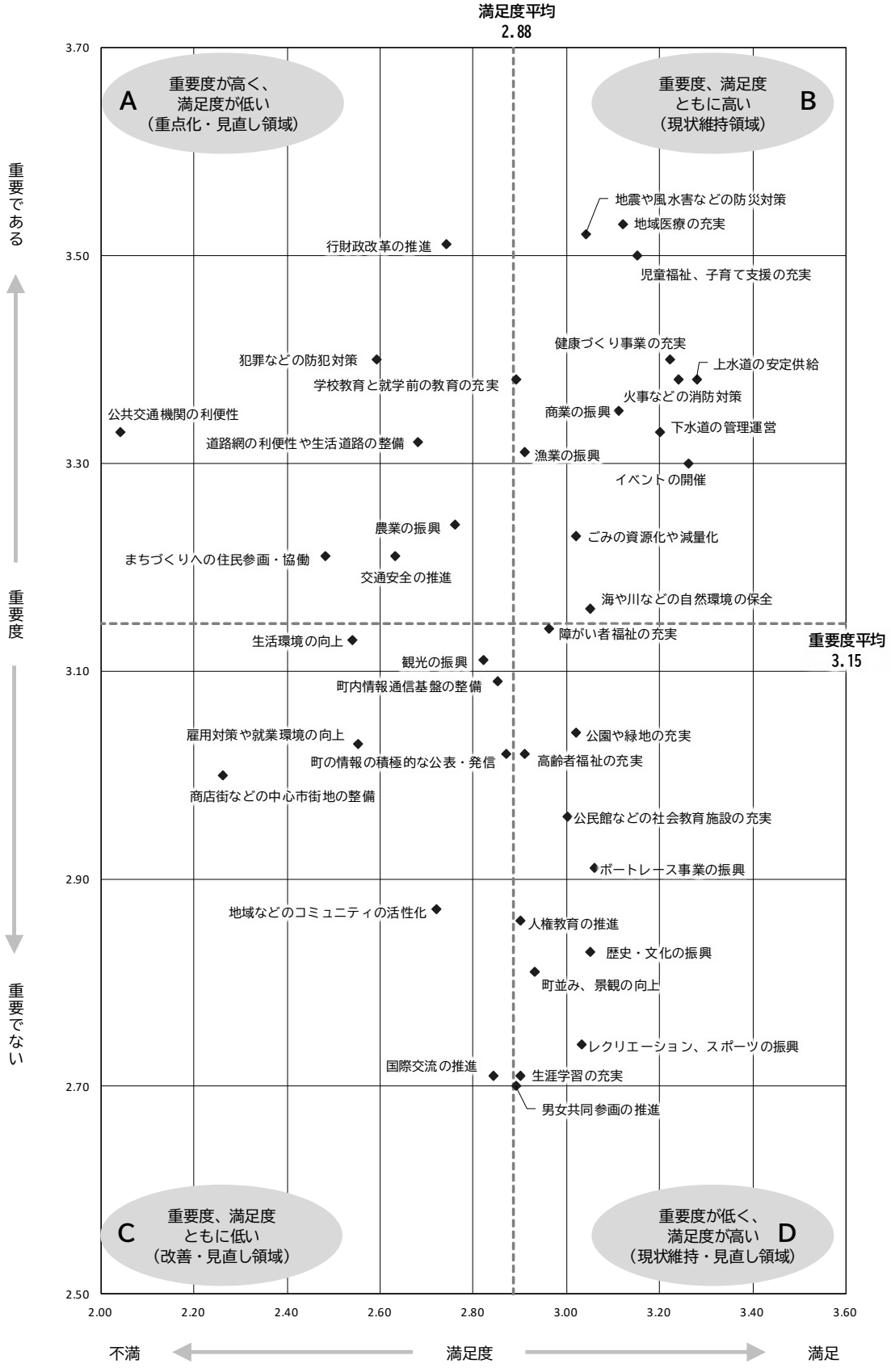
◆男性◆


満足度平均
2.83
A
重要度が高く、
満足度が低い
（重点化・見直し領域）
B
重要度、満足度
ともに高い
（現状維持領域）
C
重要度、満足度
ともに低い
（改善・見直し領域）
D
重要度が低く、
満足度が高い
（現状維持・見直し領域）
重要である
重要度
重要でない
重要度平均
3.03
上水道の安定供給
地域医療の充実
下水道の管理運営
行財政改革の推進
犯罪などの防犯対策
児童福祉、子育て支援の充実
健康づくり事業の充実
火事などの消防対策
地震や風水害などの防災対策
学校教育と就学前の教育の充実
商業の振興
公共交通機関の利便性
交通安全の推進
障がい者福祉の充実
道路網の利便性や生活道路の整備
生活環境の向上
ボートレース事業の振興
雇用対策や就業環境の向上
高齢者福祉の充実
農業の振興
ごみの資源化や減量化
商店街などの中心市街地の整備
漁業の振興
イベントの開催
観光の振興
町の情報の積極的な公表・発信
まちづくりへの住民参画・協働
海や川などの自然環境の保全
町内情報通信基盤の整備
公民館などの社会教育施設の充実
町並み、景観の向上
公園や緑地の充実
歴史・文化の振興
地域などのコミュニティの活性化
生涯学習の充実
レクリエーション、スポーツの振興
人権教育の推進
国際交流の推進
男女共同参画の推進
3.60
3.40
3.20
3.00
2.80
2.60
2.40
2.00
2.20
2.40
2.60
2.80
3.00
3.20
3.40
3.60
不満
満足度
満足

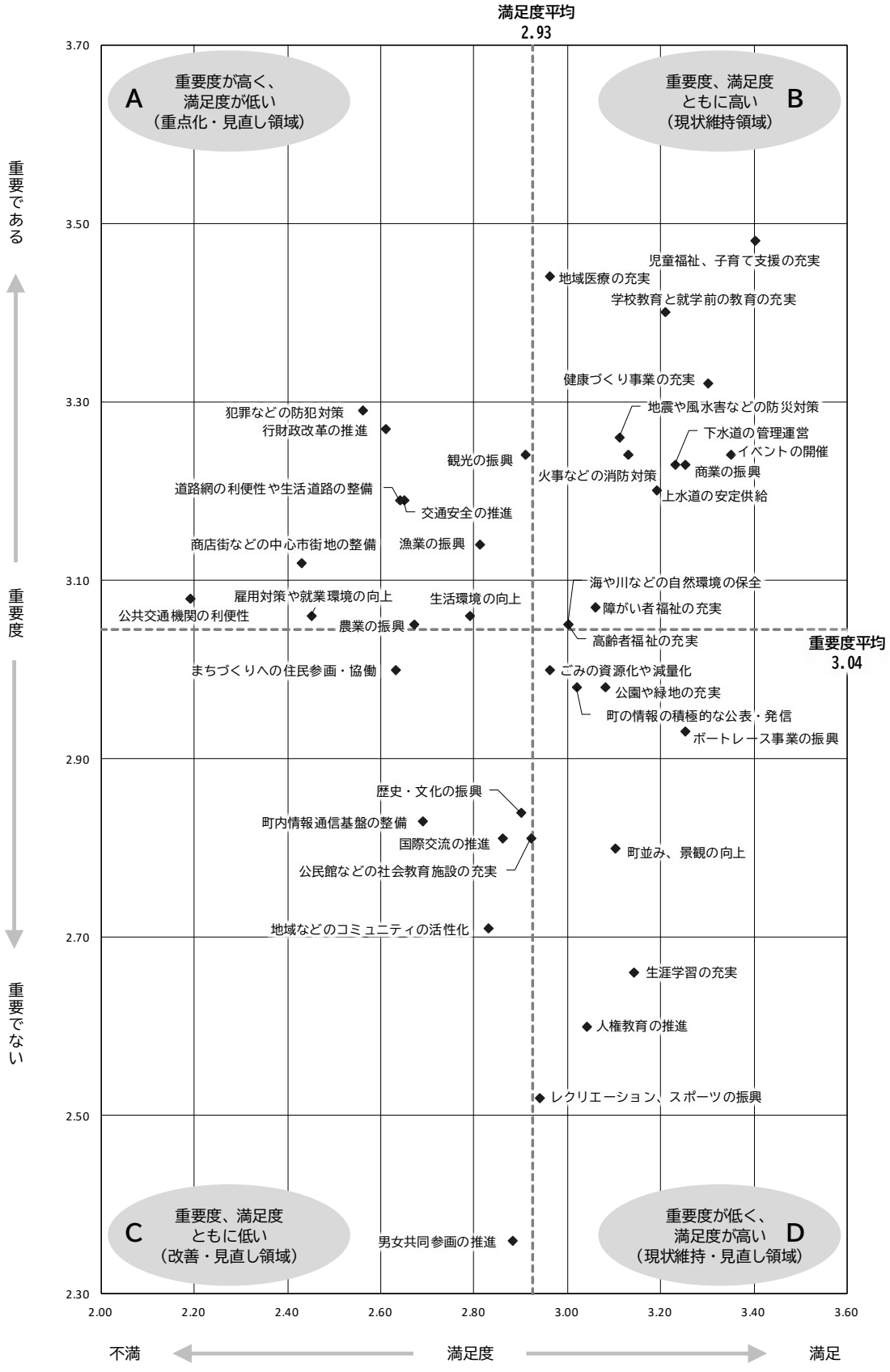
◆女性◆


満足度平均
2.92
重要度平均
3.13
A
重要度が高く、
満足度が低い
（重点化・見直し領域）
B
重要度、満足度
ともに高い
（現状維持領域）
C
重要度、満足度
ともに低い
（改善・見直し領域）
D
重要度が低く、
満足度が高い
（現状維持・見直し領域）
重要である
重要度
重要でない
3.60
3.50
3.40
3.30
3.20
3.10
3.00
2.90
2.80
2.70
2.60
2.10
2.30
2.50
2.70
2.90
3.10
3.30
3.50
不満
満足度
満足
犯罪などの防犯対策
地震や風水害などの防災対策
地域医療の充実
児童福祉、子育て支援の充実
火事などの消防対策
学校教育と就学前
の教育の充実
行財政改革の推進
上水道の安定供給
下水道の管理運営
健康づくり事業の充実
公共交通機関の利便性
高齢者福祉の充実
交通安全の推進
障がい者福祉の充実
道路網の利便性や生活道路の整備
商業の振興
商店街などの中心市街地の整備
生活環境の向上
雇用対策や就業環境の向上
漁業の振興
農業の振興
ごみの資源化や減量化
観光の振興
海や川などの自然環境の保全
まちづくりへの住民参画・協働
ボートレース事業の振興
イベントの開催
公園や緑地の充実
町の情報の積極的な公表・発信
町内情報通信基盤の整備
町並み、景観の向上
公民館などの社会教育施設の充実
国際交流の推進
歴史・文化の振興
地域などのコミュニティの活性化
生涯学習の充実
レクリエーション、スポーツの振興
男女共同参画の推進
人権教育の推進

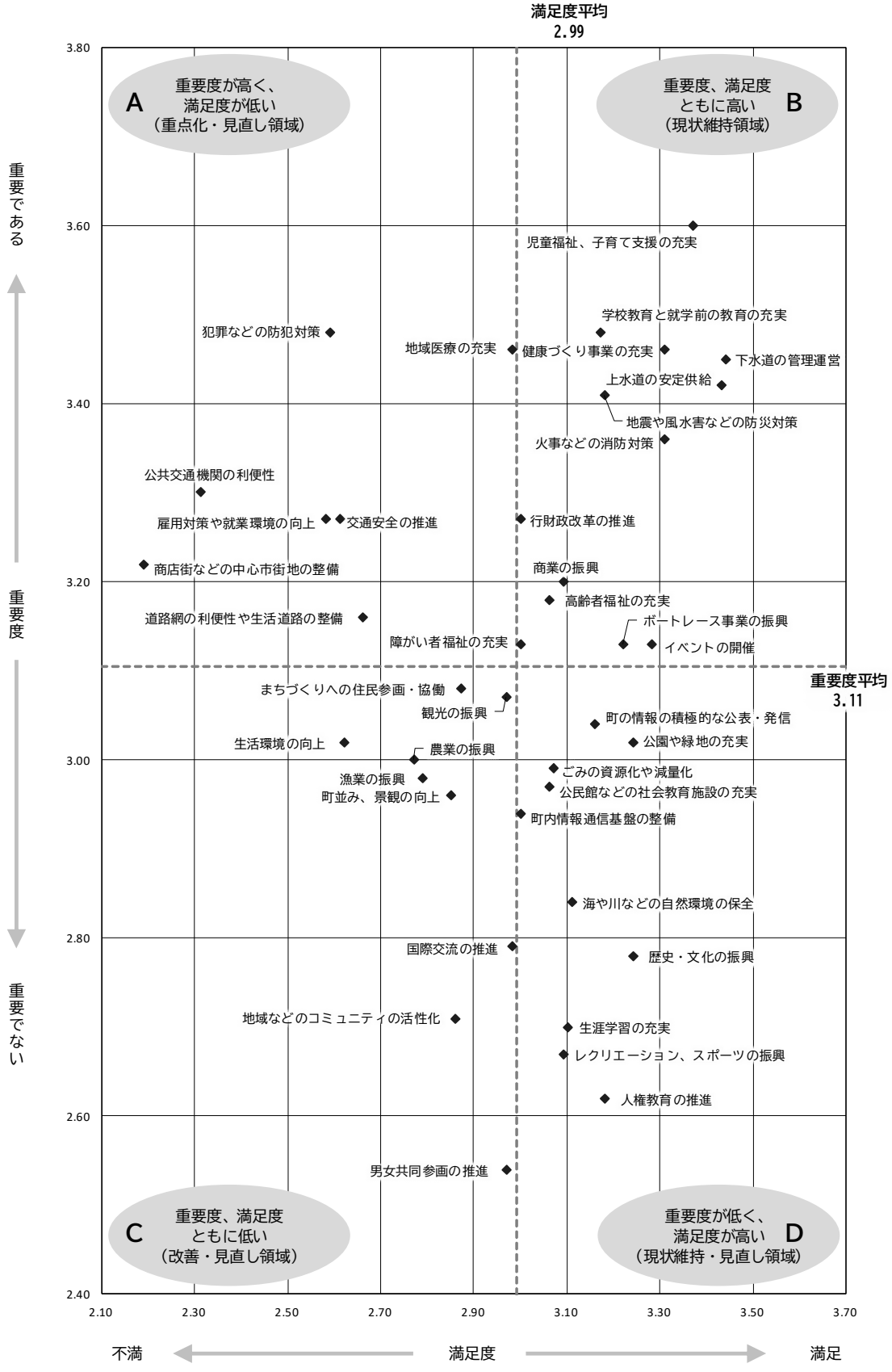
◆20 歳代以下◆


満足度平均
2.88
重要度平均
3.15
A
重要度が高く、
満足度が低い
（重点化・見直し領域）
B
重要度、満足度
ともに高い
（現状維持領域）
C
重要度、満足度
ともに低い
（改善・見直し領域）
D
重要度が低く、
満足度が高い
（現状維持・見直し領域）
地震や風水害などの防災対策
地域医療の充実
行財政改革の推進
児童福祉、子育て支援の充実
健康づくり事業の充実
犯罪などの防犯対策
上水道の安定供給
学校教育と就学前の教育の充実
火事などの消防対策
商業の振興
公共交通機関の利便性
下水道の管理運営
道路網の利便性や生活道路の整備
漁業の振興
イベントの開催
農業の振興
ごみの資源化や減量化
まちづくりへの住民参画・協働
交通安全の推進
海や川などの自然環境の保全
障がい者福祉の充実
生活環境の向上
観光の振興
町内情報通信基盤の整備
雇用対策や就業環境の向上
公園や緑地の充実
町の情報の積極的な公表・発信
高齢者福祉の充実
商店街などの中心市街地の整備
公民館などの社会教育施設の充実
ボートレース事業の振興
地域などのコミュニティの活性化
人権教育の推進
歴史・文化の振興
町並み、景観の向上
レクリエーション、スポーツの振興
国際交流の推進
生涯学習の充実
男女共同参画の推進
3.70
3.50
3.30
3.10
2.90
2.70
2.50
2.00
2.20
2.40
2.60
2.80
3.00
3.20
3.40
3.60
重要である
重要度
重要でない
不満
満足度
満足

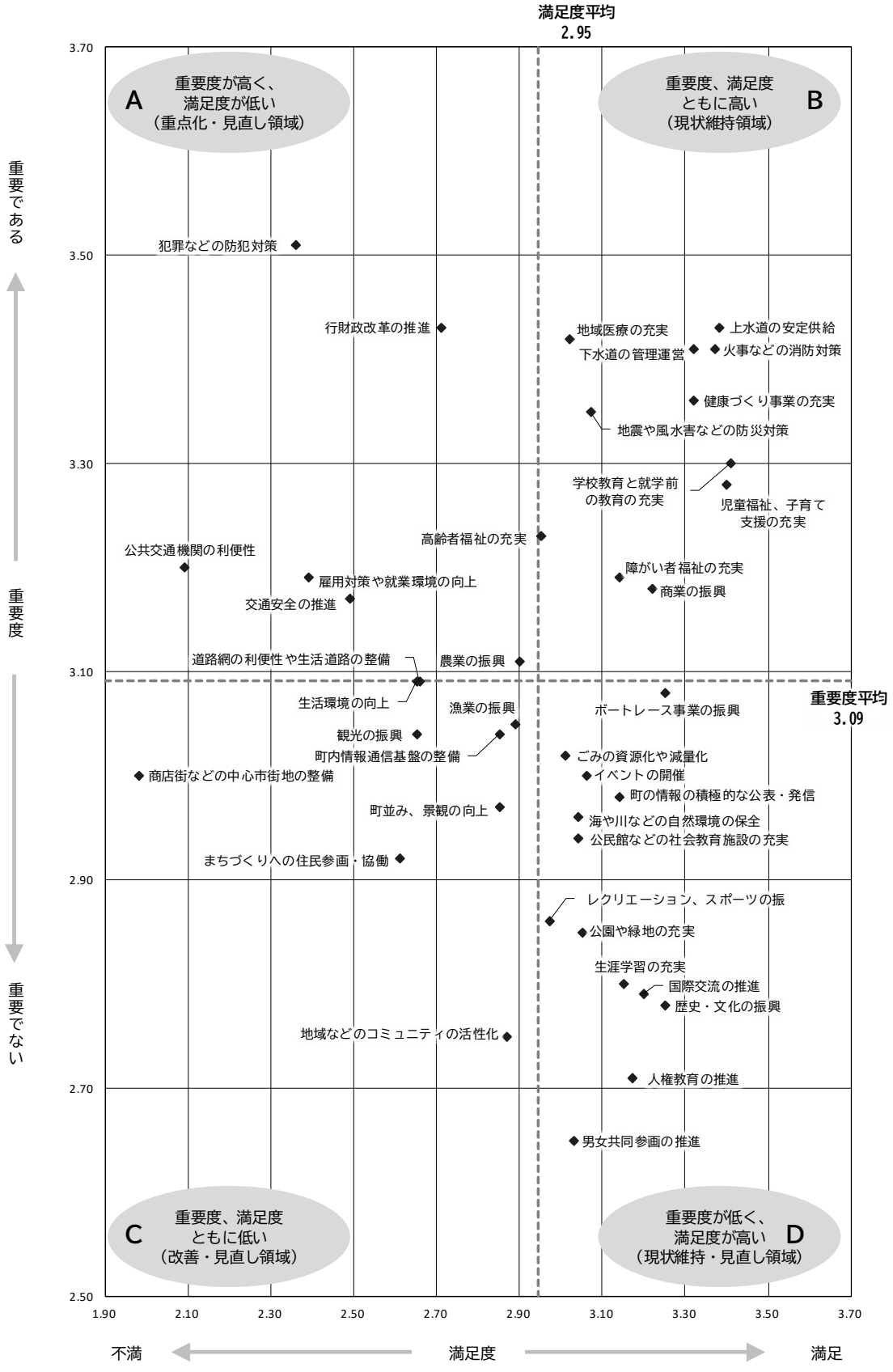
◆30 歳代◆


満足度平均
2.93
重要度平均
3.04
A 重要度が高く、満足度が低い（重点化・見直し領域）
B 重要度、満足度ともに高い（現状維持領域）
C 重要度、満足度ともに低い（改善・見直し領域）
D 重要度が低く、満足度が高い（現状維持・見直し領域）
重要である
重要でない
重要度
不満
満足度
満足
3.70
3.50
3.30
3.10
2.90
2.70
2.50
2.30
2.00
2.20
2.40
2.60
2.80
3.00
3.20
3.40
3.60
児童福祉、子育て支援の充実
地域医療の充実
学校教育と就学前の教育の充実
健康づくり事業の充実
地震や風水害などの防災対策
犯罪などの防犯対策
行財政改革の推進
下水道の管理運営
イベントの開催
観光の振興
商業の振興
火事などの消防対策
上水道の安定供給
道路網の利便性や生活道路の整備
交通安全の推進
商店街などの中心市街地の整備
漁業の振興
海や川などの自然環境の保全
雇用対策や就業環境の向上
生活環境の向上
障がい者福祉の充実
公共交通機関の利便性
農業の振興
高齢者福祉の充実
まちづくりへの住民参画・協働
ごみの資源化や減量化
公園や緑地の充実
町の情報の積極的な公表・発信
ボートレース事業の振興
歴史・文化の振興
町内情報通信基盤の整備
国際交流の推進
町並み、景観の向上
公民館などの社会教育施設の充実
地域などのコミュニティの活性化
生涯学習の充実
人権教育の推進
レクリエーション、スポーツの振興
男女共同参画の推進

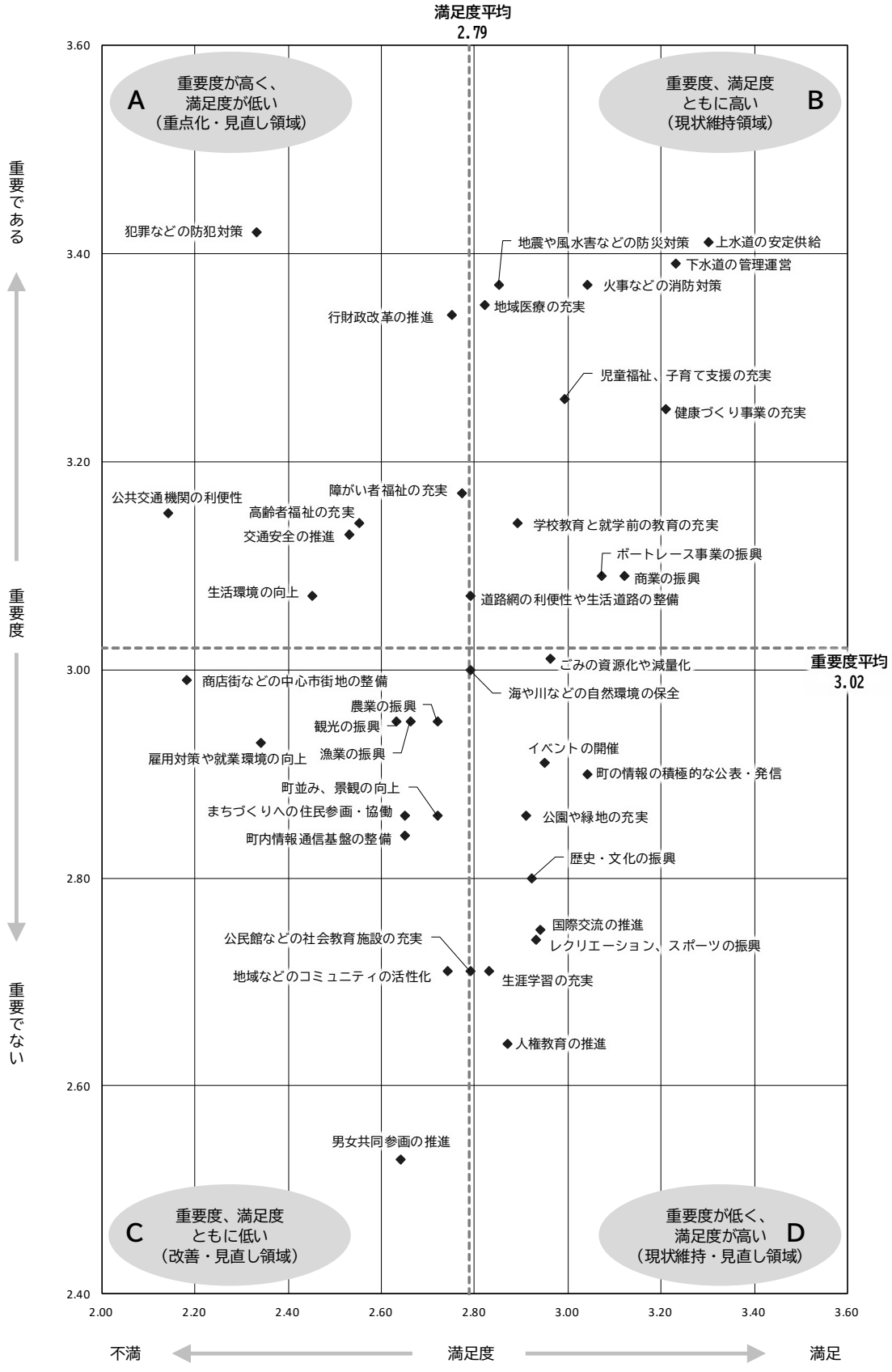
◆40 歳代◆


満足度平均
2.99
重要度平均
3.11
A 重要度が高く、満足度が低い（重点化・見直し領域）
B 重要度、満足度ともに高い（現状維持領域）
C 重要度、満足度ともに低い（改善・見直し領域）
D 重要度が低く、満足度が高い（現状維持・見直し領域）
重要である
重要度
重要でない
3.80
3.60
3.40
3.20
3.00
2.80
2.60
2.40
2.10
2.30
2.50
2.70
2.90
3.10
3.30
3.50
3.70
不満
満足度
満足
児童福祉、子育て支援の充実
学校教育と就学前の教育の充実
犯罪などの防犯対策
地域医療の充実
健康づくり事業の充実
下水道の管理運営
上水道の安定供給
地震や風水害などの防災対策
火事などの消防対策
公共交通機関の利便性
雇用対策や就業環境の向上
交通安全の推進
行財政改革の推進
商店街などの中心市街地の整備
商業の振興
高齢者福祉の充実
道路網の利便性や生活道路の整備
ボートレース事業の振興
障がい者福祉の充実
イベントの開催
まちづくりへの住民参画・協働
観光の振興
町の情報の積極的な公表・発信
生活環境の向上
公園や緑地の充実
農業の振興
ごみの資源化や減量化
漁業の振興
公民館などの社会教育施設の充実
町並み、景観の向上
町内情報通信基盤の整備
海や川などの自然環境の保全
国際交流の推進
歴史・文化の振興
地域などのコミュニティの活性化
生涯学習の充実
レクリエーション、スポーツの振興
人権教育の推進
男女共同参画の推進

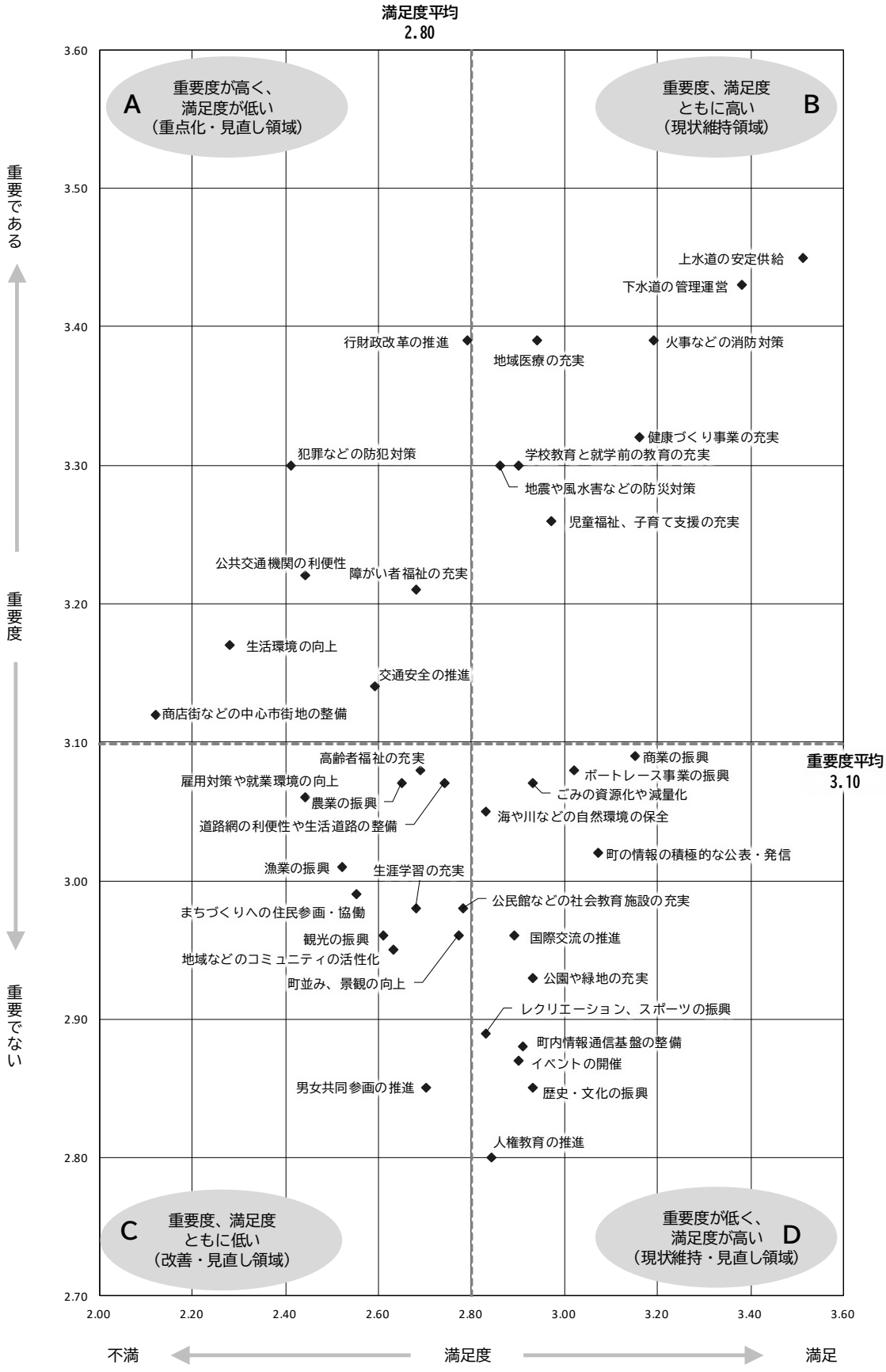
◆50 歳代◆


満足度平均
2.95
重要度平均
3.09
A
重要度が高く、
満足度が低い
（重点化・見直し領域）
B
重要度、満足度
ともに高い
（現状維持領域）
C
重要度、満足度
ともに低い
（改善・見直し領域）
D
重要度が低く、
満足度が高い
（現状維持・見直し領域）
重要である
重要でない
重要度
不満
満足度
満足
3.70
3.50
3.30
3.10
2.90
2.70
2.50
1.90
2.10
2.30
2.50
2.70
2.90
3.10
3.30
3.50
3.70
犯罪などの防犯対策
行財政改革の推進
地域医療の充実
上水道の安定供給
下水道の管理運営
火事などの消防対策
健康づくり事業の充実
地震や風水害などの防災対策
学校教育と就学前
の教育の充実
児童福祉、子育て
支援の充実
高齢者福祉の充実
公共交通機関の利便性
障がい者福祉の充実
雇用対策や就業環境の向上
商業の振興
交通安全の推進
道路網の利便性や生活道路の整備
農業の振興
生活環境の向上
漁業の振興
ボートレース事業の振興
観光の振興
町内情報通信基盤の整備
ごみの資源化や減量化
商店街などの中心市街地の整備
イベントの開催
町の情報の積極的な公表・発信
町並み、景観の向上
海や川などの自然環境の保全
公民館などの社会教育施設の充実
まちづくりへの住民参画・協働
レクリエーション、スポーツの振
公園や緑地の充実
生涯学習の充実
国際交流の推進
歴史・文化の振興
地域などのコミュニティの活性化
人権教育の推進
男女共同参画の推進

◆60 歳代◆


満足度平均
2.79
重要度平均
3.02
A
重要度が高く、
満足度が低い
（重点化・見直し領域）
B
重要度、満足度
ともに高い
（現状維持領域）
C
重要度、満足度
ともに低い
（改善・見直し領域）
D
重要度が低く、
満足度が高い
（現状維持・見直し領域）
犯罪などの防犯対策
地震や風水害などの防災対策
上水道の安定供給
下水道の管理運営
火事などの消防対策
地域医療の充実
行財政改革の推進
児童福祉、子育て支援の充実
健康づくり事業の充実
公共交通機関の利便性
障がい者福祉の充実
高齢者福祉の充実
交通安全の推進
学校教育と就学前の教育の充実
ボートレース事業の振興
商業の振興
生活環境の向上
道路網の利便性や生活道路の整備
ごみの資源化や減量化
商店街などの中心市街地の整備
海や川などの自然環境の保全
農業の振興
観光の振興
漁業の振興
雇用対策や就業環境の向上
イベントの開催
町の情報の積極的な公表・発信
町並み、景観の向上
まちづくりへの住民参画・協働
公園や緑地の充実
町内情報通信基盤の整備
歴史・文化の振興
国際交流の推進
公民館などの社会教育施設の充実
レクリエーション、スポーツの振興
地域などのコミュニティの活性化
生涯学習の充実
人権教育の推進
男女共同参画の推進
3.60
3.40
3.20
3.00
2.80
2.60
2.40
2.00
2.20
2.40
2.60
2.80
3.00
3.20
3.40
3.60
重要である
重要度
重要でない
不満
満足度
満足

◆70 歳以上◆


満足度平均
2.80
重要度平均
3.10
A 重要度が高く、満足度が低い（重点化・見直し領域）
B 重要度、満足度ともに高い（現状維持領域）
C 重要度、満足度ともに低い（改善・見直し領域）
D 重要度が低く、満足度が高い（現状維持・見直し領域）
重要である
重要度
重要でない
不満
満足度
満足
3.60
3.50
3.40
3.30
3.20
3.10
3.00
2.90
2.80
2.70
2.00
2.20
2.40
2.60
2.80
3.00
3.20
3.40
3.60
上水道の安定供給
下水道の管理運営
行財政改革の推進
地域医療の充実
火事などの消防対策
健康づくり事業の充実
犯罪などの防犯対策
学校教育と就学前の教育の充実
地震や風水害などの防災対策
児童福祉、子育て支援の充実
公共交通機関の利便性
障がい者福祉の充実
生活環境の向上
交通安全の推進
商店街などの中心市街地の整備
高齢者福祉の充実
商業の振興
ボートレース事業の振興
雇用対策や就業環境の向上
ごみの資源化や減量化
農業の振興
海や川などの自然環境の保全
道路網の利便性や生活道路の整備
町の情報の積極的な公表・発信
漁業の振興
生涯学習の充実
公民館などの社会教育施設の充実
まちづくりへの住民参画・協働
国際交流の推進
観光の振興
地域などのコミュニティの活性化
公園や緑地の充実
町並み、景観の向上
レクリエーション、スポーツの振興
町内情報通信基盤の整備
イベントの開催
男女共同参画の推進
歴史・文化の振興
人権教育の推進

２．調査票

コミュニティ活動状況調査
（住民意識調査）

調査ご協力のお願い

皆さまには、日ごろから町政にご理解とご協力をいただき、厚くお礼申しあげます。

さて、今回送付させていただきました「コミュニティ活動状況調査（住民意識調査）」は、第６次芦屋町総合振興計画に対する住民の皆さまの評価や、今後のまちづくりに対する意向などを把握するために実施するものです。

また、過去に実施したコミュニティ活動状況調査結果との比較・分析を行うことで、町の取り組みなどに関する課題を抽出し、今後の取り組みに活かそうとするものです。

今回の調査は、本町在住の 18 歳以上の方の中から 2,000 名の皆さまに本調査票をお送りさせていただきました。調査票に記入された内容につきましては、統計的な処理をしたうえで活用させていただくものであり、個人が特定されることは一切ございませんので、皆さまにご迷惑をおかけすることはありません。また、ご回答いただいた内容は、調査の目的以外には使用いたしません。

お忙しい中誠に恐縮ではございますが、本調査の目的、趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和６年 11 月

芦屋町長　波多野 茂丸

★ **あて名のご本人がお答えください。**

★ **回答方法は、以下のいずれかの方法でお願いします。**

1. この調査票に直接記入して郵送回答
   - 次のページの「ご記入にあたってのお願い」をお読みになって、お答えください。

2. インターネットによる回答
   - お手持ちのスマートフォン等で、右記二次元バーコードを読み込んでお答えください。または、下記 URL より回答画面に進み、お答えください。（回答は１人１回、ご本人のみです）
   - 回答時には下記のＩＤ・パスワードの入力が必要です。

アンケートフォーム URL	https://fgex-res.net/278543?lang=ja
ＩＤ	5826
パスワード	T3uxvywB

   - １１月１５日（金）までに回答を終えていただくようお願いします。

【調査に関するお問い合わせ先】

芦屋町役場　企画政策課　企画係
電話：(093) 223-3570（直通）　FAX：(093) 223-3927

ご記入にあたってのお願い

- 調査票や同封の返信用封筒に氏名や住所を記入する必要はございません。
- 回答の方法は、設問によって「１つに○」、「あてはまるものすべてに○」など指定されていますので、その指示に従ってください。
- ご記入いただいた調査票は、**１１月15日（金）**までに、三つ折りにして同封の返信用封筒に入れて投函してください。（切手と記名は必要ございません）
- インターネットでご回答いただく場合、調査票の提出は不要です。

コミュニティ活動状況調査（住民意識調査）
調査票

あなたご自身のことについて

問１　お住まいの小学校区

１．芦屋小学校区	２．芦屋東小学校区	３．山鹿小学校区

問２　性別

１．男性	３．どちらでもない/わからない
２．女性	４．答えたくない

問３　年齢

１．10 歳代	５．50 歳代
２．20 歳代	６．60 歳代
３．30 歳代	７．70 歳以上
４．40 歳代	

問４　職業（主なもの１つに○）

１．農林漁業	７．金融・保険・不動産業
２．製造業、工業	８．公務員
３．建設業	９．主婦・主夫（専業）
４．商業（小売、卸売、飲食）	１０．パート・アルバイト
５．サービス業（公務員を除く）	１１．学生・無職
６．運輸通信業	１２．その他（　　）

問５　家族構成（※ご一緒にお住まいのご家族についてお答えください）

１．単身者（1 人住まい）	４．三世代家族（夫婦・こども・孫など）
２．夫婦のみ	５．その他（　　）
３．二世代家族（夫婦とこどもなど）	

問６　芦屋町での通算居住年数

１．１年未満	４．10 年以上 20 年未満
２．１年以上５年未満	５．20 年以上 30 年未満
３．５年以上 10 年未満	６．30 年以上

町の暮らしやすさについて

問７　芦屋町は住みやすいと感じていますか。（１つに○）

１．住みやすい
２．まあまあ住みやすい
３．あまり住みやすくない
４．住みにくい

（問７で「１」「２」を選んだ方におたずねします。）

問7-1　どのような点で住みやすいと感じていますか。（主なもの３つに○）

１．住宅価格、家賃が適当、安い
２．買い物など日常生活が便利
３．交通の便がよい
４．職場、学校が近い
５．のどかさがあって、静かな居住環境
６．自然が豊か
７．魅力的なイベント、行事がある
８．治安がよい
９．近所づきあいがよい
10．町のイメージがよい
11．子育て支援が充実している
12．高齢者、障がい者福祉が充実している
13．医療環境が充実している
14．学校の教育内容、環境がよい
15．定住に関する補助が充実している
16．都市基盤が整備されている
17．親戚、知り合い、友人が近くにいる
18．親、こどもが近くにいる
19．その他

（問７で「３」「４」を選んだ方におたずねします。）

問7-2　どのような点で住みにくいと感じていますか。（主なもの３つに○）

１．住宅価格、家賃が適当でない、高い
２．買い物など日常生活が不便
３．交通の便がよくない
４．職場、学校が遠い
５．居住環境が騒がしい
６．自然が少ない
７．魅力的なイベント、行事がない
８．治安がよくない
９．近所づきあいがよくない
10．町のイメージがよくない
11．子育て支援が充実していない
12．高齢者、障がい者福祉が充実していない
13．医療環境が充実していない
14．学校の教育内容、環境がよくない
15．定住に関する補助が充実していない
16．都市基盤が整備されていない
17．親戚、知り合い、友人が近くにいない
18．親、こどもが近くにいない
19．その他

問８　今後も芦屋町に住み続けたいですか。（１つに○）

１．ずっと住み続けたい
２．当分住み続けたい
３．いずれ町外に出ていきたい
４．わからない

（問８で「１」「２」を選んだ方におたずねします。）

問8-1　どのような点で今後も住み続けたいと思いますか。（主なもの３つに○）

１．住宅価格、家賃が適当、安い
２．買い物など日常生活が便利
３．交通の便がよい
４．職場、学校が近い
５．のどかさがあって、静かな居住環境
６．自然が豊か
７．魅力的なイベント、行事がある
８．治安がよい
９．近所づきあいがよい
10．町のイメージがよい
11．子育て支援が充実している
12．高齢者、障がい者福祉が充実している
13．医療環境が充実している
14．学校の教育内容、環境がよい
15．定住に関する補助が充実している
16．都市基盤が整備されている
17．親戚、知り合い、友人が近くにいる
18．親、こどもが近くにいる
19．その他

（問８で「３」を選んだ方におたずねします。）

問8-2　どのような点でいずれ町外に出ていきたいと思いますか。（主なもの３つに○）

１．住宅価格、家賃が適当でない、高い
２．買い物など日常生活が不便
３．交通の便がよくない
４．職場、学校が遠い
５．居住環境が騒がしい
６．自然が少ない
７．魅力的なイベント、行事がない
８．治安がよくない
９．近所づきあいがよくない
10．町のイメージがよくない
11．子育て支援が充実していない
12．高齢者、障がい者福祉が充実していない
13．医療環境が充実していない
14．学校の教育内容、環境がよくない
15．定住に関する補助が充実していない
16．都市基盤が整備されていない
17．親戚、知り合い、友人が近くにいない
18．親、こどもが近くにいない
19．その他

町の取り組みに対する満足度・重要度について

問９　芦屋町のこれまでの取り組みについて、あなたはどのくらい満足し、また、重要とお考えですか。（各項目について、「満足度」、「重要度」からそれぞれ１つずつに○）

	項目 ／ あなたの考え 代表的な事業など	満足度					重要度				
		満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	極めて重要	重要	あまり重要でない	重要でない	わからない
1	公共交通機関の利便性 ・町内を運行する北九州市営バス、芦屋タウンバスの路線や運行本数、巡回バスの運行など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
2	道路網の利便性や生活道路の整備 ・幹線道路、身近な生活道路の利便性、整備の状態など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
3	交通安全の推進 ・交通安全運動の実施、カーブミラーや道路照明などの交通安全施設の設置状況など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
4	上水道の安定供給 ・北九州市による水道の安全・安定供給など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
5	下水道の管理運営 ・下水道施設の維持管理など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
6	地震や風水害などの防災対策 ・自主防災組織への支援、防災訓練の実施、防災無線や防災マップの整備、避難所の設置状況など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
7	火事などの消防対策 ・迅速な消火活動、消防団活動の支援など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
8	犯罪などの防犯対策 ・自治防犯組合などの町内巡回活動の支援、見回りの強化、防犯街灯や防犯カメラの設置など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
9	町並み、景観の向上 ・花壇の整備、街路樹の剪定、誘導看板や総合案内板などの整備状況など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
10	公園や緑地の充実 ・中央公園、海浜公園、夏井ヶ浜はまゆう公園などの維持や整備など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

問9のつづき

	項目 / 代表的な事業など	満足度					重要度				
		満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	極めて重要	重要	あまり重要でない	重要でない	わからない
11	ごみの資源化や減量化 ・自治区などによる資源物の集団回収奨励制度、生ごみ処理容器やダンボールコンポストなどの助成制度など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
12	海や川などの自然環境の保全 ・ラブアース活動(海岸線や河川の一斉清掃)など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
13	生活環境の向上 ・不法投棄防止パトロール、放置自転車対策、不法係留船対策など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
14	農業の振興 ・新規就農者への就農支援、用水路やため池などの維持や整備など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
15	漁業の振興 ・漁港や漁業施設の維持や整備など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
16	商業の振興 ・にこにこ商品券・高額商品券発行の補助、商工業者への運営や設備資金の借入支援など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
17	商店街などの中心市街地の整備 ・商業者への支援や企業誘致、空店舗活用の補助制度など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
18	観光の振興 ・国民宿舎・レジャープールアクアシアン・芦屋海水浴場の運営、観光情報の発信、芦屋港レジャー港化の推進など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
19	イベントの開催 ・あしや砂像展の実施、花火大会や祭りあしやなどの開催支援など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
20	地域医療の充実 ・芦屋中央病院の医療機器の充実や町内の医院との連携など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
21	健康づくり事業の充実 ・特定健診・がん検診・乳幼児健診の実施、健康・運動教室や保健指導・栄養指導の実施など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

問9のつづき

	項目 / 代表的な事業など ＼ あなたの考え	満足度					重要度				
		満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	極めて重要	重要	あまり重要でない	重要でない	わからない
22	高齢者福祉の充実 ・介護予防事業、地域交流サロン事業や配食サービスなどの在宅福祉サービスの実施など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
23	障がい者福祉の充実 ・公共施設のバリアフリー化、福祉タクシーチケット給付、手話通訳者の派遣、障がい児デイサービス「芦屋すてっぷくらぶ」の運営など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
24	児童福祉、子育て支援の充実 ・子ども医療費の助成、学童クラブの運営、保育所などの利用、子育て支援センターの運営や育児教室・相談の実施、小中学校の給食費無償化、小中学校・高校生等の通学費の補助など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
25	学校教育と就学前の教育の充実 ・小中学生への放課後補習授業（放課後塾、イブニングスタディなど）の実施、英語教育の充実（外国語専科教員の配置、英検受験料補助など）、保育所・幼稚園・認定こども園・小学校・中学校の連携 ICT（情報通信技術）教育・特別支援教育の推進など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
26	生涯学習の充実 ・各公民館講座、祖父母学級、同好会活動などの推進、文化協会への活動支援など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
27	公民館などの社会教育施設の充実 ・中央公民館、東公民館、山鹿公民館、図書館、町民会館などの運営など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
28	人権教育の推進 ・人権まつり、人権講演会の実施、人権カレンダーの発行や人権啓発の実施など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
29	地域などのコミュニティの活性化 ・自治区活動への支援、自治区担当職員制度（職員が地域活動に参加し、町民による自主的な地域づくりのサポートを行う活動）の推進など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

問9のつづき

	項目 / 代表的な事業など	満足度					重要度				
		満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	極めて重要	重要	あまり重要でない	重要でない	わからない
30	レクリエーション、スポーツの振興 ・総合体育館・小体育館などの体育施設の管理運営、スロートレーニングなど健康づくり講座の開催、スポーツ大会や体育協会への支援など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
31	歴史・文化の振興 ・芦屋釜復興への取り組み、芦屋釜の里の運営やさくらコンサートなどの事業、歴史の里の運営や企画展の実施、ギャラリーあしやの運営など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
32	国際交流の推進 ・国際交流協会への支援、小学生を対象とした英語体験活動、中学生を対象とした海外ホームステイ事業、小中学校での外国人とのオンライン英会話授業の実施など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
33	男女共同参画の推進 ・男女共同参画社会の実現に向けての啓発や講演会の実施など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
34	雇用対策や就業環境の向上 ・企業誘致を促進する条例、創業等促進支援事業補助金制度など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
35	町内情報通信基盤の整備 ・芦屋釜の里、レジャープールアクアシアン、マリンテラスあしや、町民会館、総合体育館、中央公民館、役場庁舎への無料公衆無線LAN（Wi-Fi）の整備など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
36	町の情報の積極的な公表・発信 ・広報あしやの発行、出前町長室、出前講座、町のホームページ、公式LINEなどの各種SNS運営、KBCテレビdボタン広報誌、地域情報伝達システムの戸別受信機など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
37	まちづくりへの住民参画・協働 ・住民と行政との情報の共有、パブリックコメントの実施、計画などへの住民の意見の反映など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

問9のつづき

	項目 / 代表的な事業など	満足度					重要度				
		満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	極めて重要	重要	あまり重要でない	重要でない	わからない
38	ボートレース事業の振興 ・売上向上に向けた取り組み（電話投票の拡大、キャッシュレス投票の促進）、来場者増加に向けた取り組み（各種イベント、モーヴィ芦屋）、夢リアホールの活用、無料公衆無線LAN（Wi-Fi）の整備など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
39	行財政改革の推進 ・自主財源の確保、効率的な行政運営の推進など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

その他、まちの重点的な取り組みなどについて

◆地域について

問 10　ふだん近所の方とどの程度の付き合いをされていますか。（１つに○）

１．近所の方とは、用事を頼めるほどかなり親しい
２．近所の方と会えば、世間話をする仲である
３．近所の方と会えば、あいさつを交わす程度である
４．近所の方の顔は知っているが、話はしない
５．近所付き合いはない

問 11　自治区に加入していますか。（１つに○）

１．加入している
２．加入していない

問 12　自治区の活動に今後どのような活動が必要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

１．防災に関する活動や取り組み（防災訓練や災害が起きたときの対応など）
２．防犯に関する活動や取り組み（防犯パトロール、防犯街灯の点検など）
３．交通安全のための活動（交通安全指導、交通安全教室など）
４．こどもを地域で守り育てる取り組み（あいさつ運動、見守り活動など）
５．こどもの健全育成に関する活動（野外活動、高齢者とこどもの交流活動など）
６．環境美化活動（地域一斉清掃、花いっぱい運動、公園の美化活動など）
７．ごみの減量・リサイクル推進のための活動
（資源物の回収、生ごみ堆肥化（ダンボールコンポスト）の推進など）
８．健康づくりの活動（健康教室、ウォーキングなど）
９．地域の行事やイベントなどの交流活動
（盆踊り、夏祭り、運動会、自治区公民館での趣味･教養活動など）
10．高齢者や障がい者への福祉活動（見守り、生活支援など）
11．その他（　　）
12．わからない

◆環境問題への取り組みについて

問 13　日ごろから環境問題について、どのような取り組みをされていますか。
（あてはまるものすべてに○）

１．資源物集団回収への協力
２．ごみの分別
３．節電・節水
４．公共交通機関の利用
５．その他（　　）

◆防災について

問 14-1　地震や風水害に備えてどのようなことが必要と考えていますか。
（あてはまるものすべてに○）

1．地域の防災組織の確立	5．防災に関する学習
2．日ごろの近所付き合い	6．防災用品（土のう、家具の転倒防止グッズ等）の準備
3．避難場所の確認	7．非常時用備蓄品（食料、飲料水等）の準備
4．ハザードマップの確認	8．その他（　　）

問 14-2　地域情報伝達システムの戸別受信機の設置状況について教えてください。（1つに○）

1．設置していて、内容も確認している	3．設置していない
2．設置しているが、内容は確認していない	4．受け取っていない

◆観光の活性化について

問 15　町の観光をより推進するために、今後どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。
（あてはまるものすべてに○）

1．花火大会や砂像展などのイベントの実施・充実
2．洞山や海水浴場をはじめとする観光地の整備
3．芦屋港レジャー港化の推進
4．芦屋釜の振興及び芦屋釜の里の整備
5．観光地（夏井ヶ浜はまゆう公園、海浜公園、レジャープールアクアシアン、芦屋海岸、洞山など）の活用や清掃などの維持管理・自然環境の保持
6．観光情報やイベントなどの周知・PR
7．特産品やグルメの開発
8．観光に携わる人材の発掘・育成
9．創業・起業の支援
10．観光消費額向上の取り組み
11．観光ルートマップなどの作成
12．その他（　　）

◆教育について

問 16　町の小中学校の教育についてどう評価しますか。（１つに○）

１．大変良い	４．良くない
２．まあまあ良い	５．わからない
３．あまり良くない	

問 17　町の小中学生等に対する教育を向上するために、今後どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

１．学校において、学力向上のために学習指導の充実を進める
２．学校において、心の教育（道徳や生き方の指導）の充実を進める
３．学校において、体力を高める授業の推進を図る
４．学校において、外部指導員や地域のスポーツクラブを活用した部活動の推進を図る
５．学校において、タブレットや電子黒板などを活用した ICT（情報通信技術）教育の充実を進める
６．家庭において、基本的な生活習慣（早寝、早起き、朝ごはんなど）の定着を進める
７．家庭において、児童生徒が家庭学習する時間を確保する
８．家庭において、親子の会話や読書の時間を確保する
９．地域において、住民が学校行事や教育的な催しに積極的に参加する
10．地区のこども会や、校区育成会議などのこどもを育てる活動を推進する
11．その他（　　）

◆協働のまちづくりについて

問 18　ボランティア活動に参加していますか。（１つに○）

１．定期的に参加している	３．興味はあるが、参加していない
２．ときどき参加している	４．興味がなく、参加していない

問 19　町の計画や取り組みについて関心を持っていますか。（１つに○）

１．持っている	３．どちらかといえば持っていない
２．どちらかといえば持っている	４．持っていない

問 20　町は、住民の意見をまちづくりに反映していると思いますか。（１つに○）

１．よく反映している	４．まったく反映していない
２．まあまあ反映している	５．わからない
３．あまり反映していない	

問 21　住民の意見をもっと反映するために、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。（主なもの２つに○）

１．町と住民の情報の共有を積極的に進める
２．町の計画づくりに、住民が参画する機会を増やす
３．町の計画づくりの際に、住民の意見を聞く機会を増やす
４．町が設置する委員会の委員を住民から公募する。または公募枠を増やす
５．町が実施した事業の成果を評価する機会に、住民が加われるようにする
６．住民が事業を提案し、住民が事業を行えるような制度をつくる
７．その他（　　）

問 22　まちづくりを行う際、住民の意見を集めるために、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。（主なもの２つに○）

１．アンケート調査（意識調査）を定期的に行う
２．広報を通じた意見募集を定期的に行う
３．町のホームページに書き込みコーナーを設置する
４．町内各所に意見箱を設置する
５．住民相談の窓口や機会を増やす
６．町長が住民と対話する機会を充実する
７．町職員が日常的に町に出て住民の声を聞く機会を増やす
８．必要ない
９．その他（　　）

◆インターネット環境、情報入手経路について

問 23　普段の生活でインターネットを利用していますか。（１つに○）

１．利用している
２．利用していない
３．わからない

問 24　ご自宅にある情報通信機器を教えてください。（あてはまるものすべてに○）

１．スマートフォン
２．タブレット端末
３．パソコン
４．ゲーム機器
５．持っていない
６．その他（　　）

問 25　町の情報を得るために、活用しているものを教えてください。
（あてはまるものすべてに○）

１．広報あしや
２．町ホームページ
３．町公式ＬＩＮＥ
４．町公式インスタグラム
５．町公式フェイスブック
６．ＫＢＣテレビｄボタン広報誌
７．地域情報伝達システムの戸別受信機
８．わからない
９．その他（　　）

◆デジタル化の取り組みについて

問 26　町のデジタル化の取り組みについてどう評価しますか。（１つに○）

１．大変良い	４．良くない
２．まあまあ良い	５．わからない
３．あまり良くない	

問 27　町のデジタル化を進める上で、どのような事業・行政サービスを期待しますか。（あてはまるものすべてに○）

１．役場の窓口が１本化される（全ての手続きが１つの窓口で完結する）
２．役場の手続きやイベントの申し込み、施設の利用予約が自宅のパソコンやスマートフォンから利用できる
３．役場に問い合わせたい時、いつでも AI（人工知能）が応答してくれる
４．町の公共料金や施設使用料などをキャッシュレス（例．PayPay）で支払いできる
５．自治区の回覧板などがスマートフォンに配信される
６．パソコンやスマートフォンの操作に関する講座などを受けられる
７．役場や町の店舗において、マイナンバーカードを利用することで、様々な特典が受けられる
８．災害情報や防犯情報がリアルタイムにスマートフォンで受け取れる
９．町の窓口で閲覧できる情報などがインターネット上でも取得できる
10．その他（　　）

◆新型コロナウイルス感染症などについて

問 28　新型コロナウイルス感染症などの*支援*として有効だと思った施策を教えてください。（主なもの５つに○）

1．全町民向け支援事業（給付金の支給、商品券の配布）
2．全世帯向け支援事業（上下水道代・電気代給付金、ごみ袋配布、お米購入補助券配布）
3．高齢者向け支援事業（給付金の支給）
4．医療・介護従事者支援事業（給付金の支給）
5．低所得世帯への支援事業（給付金の受給）
6．子育て世帯向け支援事業（給付金の支給）
7．ひとり親世帯等への支援事業（給付金の支給）
8．大学生向け支援事業（給付金の支給）
9．こどもたちへのプレゼント事業（花火、モーヴィ芦屋無料券配布）
10．プレミアム商品券プレミア率上乗せ事業
11．事業者向け支援事業（給付金の支給、家賃軽減など）
12．飲食店支援事業（テイクアウト等事業支援、感染防止対策助成、家賃軽減など）
13．新型コロナウイルス感染症自宅療養者向け支援事業（食料品の無償提供等）
14．就労が必要な人の緊急雇用事業
15．インフルエンザ予防接種費用助成事業
16．公共交通利用促進支援事業（特別価格でのバス回数券、タクシーチケットの販売）
17．酸性電解水の無償配布
18．公共施設の整備事業（手洗い台水栓自動化、図書除菌機の整備）
19．サプライズ花火事業
20．その他（　　）

今後の芦屋町について

問 29　芦屋町が今後 10 年間のまちづくりで、特に力を入れるべきことはどれだと思いますか。
（主なもの２つに○）

1．住民同士、住民と行政が互いに手を取りあう「住民協働のまち」
2．防災・防犯に力を入れる「安全・安心なまち」
3．子育て支援や教育・学習支援が充実した「子育て・教育のまち」
4．高齢者や障がい者も安心して住みつづけられる「福祉のまち」
5．住民一人ひとりの健康を支援する「健康づくりのまち」
6．農林水産業や商工業の担い手、新しい産業が育つ「産業振興のまち」
7．様々な資源を活かし町外から多くの人が訪れる「観光・交流のまち」
8．歴史や伝統文化、芸術を大事にする「歴史と文化のまち」
9．豊かな自然資源に恵まれた「自然環境のまち」
10．快適な住環境や公共交通網等が整備された「住みやすいまち」
11．移住・定住を促進する「住みたいまち」
12．学びやスポーツ活動などにより心豊かな人が育つ「生涯学習のまち」
13．その他（　　）

最後に、芦屋町のまちづくりについて、ご意見などご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。

芦屋町コミュニティ活動状況調査　結果報告書

発　　行／令和７年３月
発　行　者／福岡県　芦屋町
編　　集／芦屋町　企画政策課
〒807-0198
福岡県遠賀郡芦屋町幸町 2 番 20 号
ＴＥＬ（０９３）２２３-３５７０
ＦＡＸ（０９３）２２３-３９２７